

## V. 社会的属性・特性と貧困との関連分析

### 1. 社会的被排除グループの存在と貧困指標との関連

ウガンダは 1980 年代から 2006 年の和平合意まで 20 年に及ぶ内戦の影響により、国内避難民 (IDPs: Internally Displaced Persons)<sup>139</sup>、難民が大量に発生した。特に北部地域については、政府軍と反政府武装勢力である LRA の交戦により、内戦の影響が色濃く残っている。以下は北部地域と全国の貧困状況を比較したグラフである。図によると、貧困にあえぐ人口は順調に減少する傾向にあると言えるが、ウガンダの高い人口増加率を鑑みると、実際のところ貧困人口の絶対数は増加している。2009/10 年には北部地域の貧困人口は 284 万人となっており、West Nile 地域・Karamoja 地域を含む PRSP の対象地域の貧困人口は 420 万人となっている。すなわち、PRSP の対象地域全体でウガンダ全土の貧困人口 (750 万人) の 56%を抱えていることになる。

Chart 1: % of the population living in poverty 1992 – 2009/10<sup>3</sup>

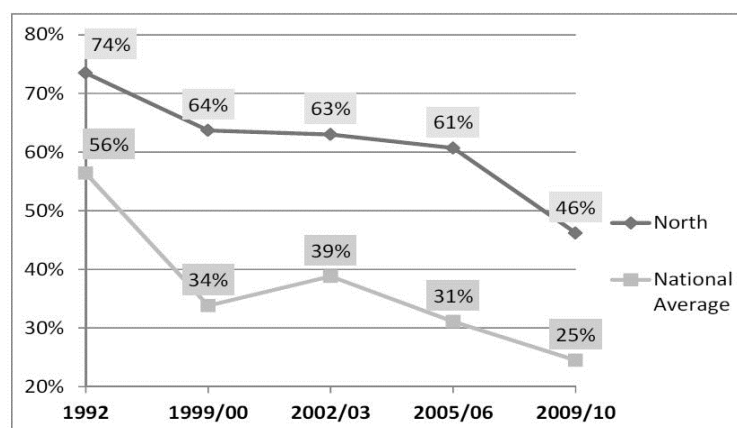


図 V-1 北部地域と全国の貧困状況 (1992 年～2009 年度)<sup>140</sup>

#### (1) 紛争により発生した社会的排除グループ

以下、ウガンダにおける紛争の影響を受けたグループを見ることにする。

##### (i) 国内避難民 (IDPs)

ウガンダでは、度重なる紛争の影響で北部地域人口の 90% (180 万人以上) が国内避難民 (IDPs) と化し、2005 年の時点で 242 か所に上る国内避難民キャンプがウガンダ国内に設置されていた。2007 年には 53.9 万人の国内避難民が帰還したが、一方で 91.6 万人がキャンプに取り残され、38.1 万人が出身地の近隣の村に定住した。2006 年の和平合意後から国内避難民キャンプは段階的に閉鎖されており、Acholi 地域では 2012 年の時点で 180 万人の 98%が出身地やその近隣村に帰還し、生活環境と土地へのアクセスは改善された<sup>141</sup>。

<sup>139</sup> UNOCHA, “Guiding Principles on Internal Displacement”によると、IDP は“Persons or groups of persons who have been forced or obliged to flee or to leave their homes or places of habitual residence, in particular as a result of or in order to avoid the effects of armed conflict, situations of generalized violence, violations of human rights or natural or human-made disasters, and who have not crossed an internationally recognized State border.” と定義されている。

<sup>140</sup> Office of the Prime Minister, Uganda (2011) “Midterm review of the peace, recovery and development plan (PRDP) for Northern Uganda”, P.3

<sup>141</sup> Republic of Uganda (2012) “Uganda Humanitarian Profile 2012” P.3  
[http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/uganda\\_humanitarian\\_profile\\_2012.pdf](http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/uganda_humanitarian_profile_2012.pdf) (2013/12/04 アクセス)

一方、2012 年の時点では、West Nile 地域では国内避難民 7,365 人、東部地域では 2 万人の帰還が実現していない<sup>142</sup>。以下の図では、2010 年 12 月の時点での国内避難民キャンプの閉鎖状況を示している。この図によると、2010 年 12 月の時点で Kalakwi 県、Amuru 県、Pader 県、Nwoya 県、Adjumani 県では全てのキャンプが閉鎖されている一方、Lamwo 県では 5 か所、Agago 県では 4 か所、Kitgum 県では 3 か所、Amuria 県では 16 か所、Gulu 県では 1 か所のキャンプが継続的に活動している。

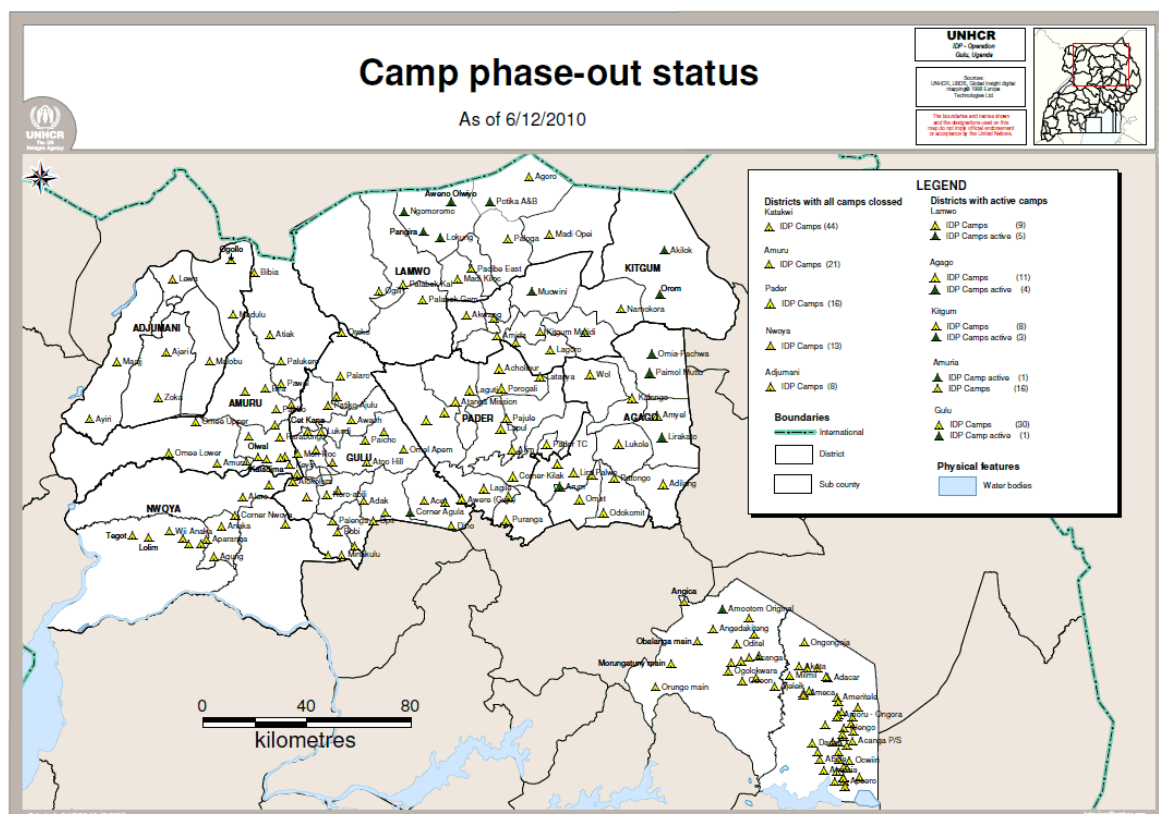


図 V-2 国内の難民キャンプ (2010 年 12 月時点) <sup>143</sup>

## (ii) 元戦闘員

北部地域で活動していた「神の抵抗軍 (LRA)」に属していた元戦闘員は、2000 年から DDRR (Disarmament, Demobilization, Reinsertion and Reintegration) 事業、2005 年から MDRP (Multi-country Demobilization & Reintegration Program) 事業により戦闘員の武装解除および社会統合プロセスが促進され、2010 年の時点で 3.2 万人の元児童兵を含む元戦闘員が除隊している<sup>144</sup>。

<sup>142</sup> Republic of Uganda(2012) “Uganda Humanitarian Profile 2012” P.10

<sup>143</sup> UNHCR (2010), “IDP camp phase out status 2010”

[http://www.internal-displacement.org/8025708F004BE3B1/%28httpInfoFiles%29/F1E3DF0FCF59D97DC12577F200359AD0/\\$file/uga\\_unhcr\\_gulu-camp-phase-out-status\\_dec10.pdf](http://www.internal-displacement.org/8025708F004BE3B1/%28httpInfoFiles%29/F1E3DF0FCF59D97DC12577F200359AD0/$file/uga_unhcr_gulu-camp-phase-out-status_dec10.pdf) (2013/12/04 アクセス)

<sup>144</sup> IOM/UNDP (2010) “Land or Else, Land-Based Conflict, Vulnerability and Disintegration in Northern Uganda” P.18

(iii) 孤児

度重なる紛争により、ウガンダには多くの孤児<sup>145</sup>が存在する。2005 年度の統計によると国内の子どもの人口の 14.6%が孤児であったが、2009 年度は 12.3%となっている。ウガンダ政府の統計によると、15 - 17 歳の子どもを持つ親が亡くなる確率が比較的高いことから同年代の孤児の割合は 25.5%となっており、5 歳未満の孤児の割合は 3.6%であった。女性世帯主世帯の子どもが孤児の割合は 26.2%であり、男性世帯主世帯の 6.6%と比較して高いため、寡婦となった女性世帯の増加が理解される。全体として地方よりも都市に孤児は多い傾向であるものの、地域的には北部における子どもの孤児率が最も高く 16.7%、首都のあるカンパラ地域は 15.4%と次に続いている。

Figure 11.1: Orphan hood Rates in Uganda (%)

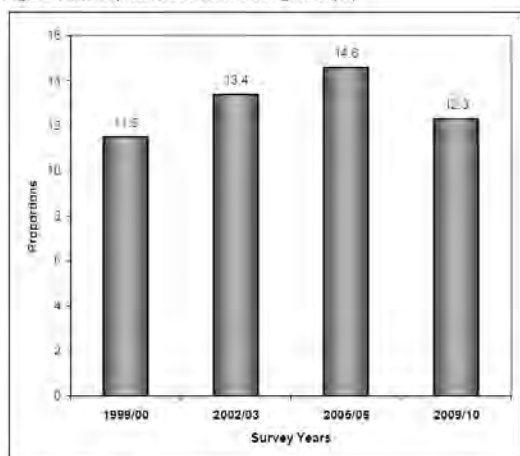


Table 11.1: Distribution of Children (0-17 years) by Parental Survival and Selected Background Characteristics (%)

Background characteristic	Orphans			Other Children			Percent Orphans
	Mother and Father Dead	Only Mother Dead	Only Father Dead	Both Alive	Don't Know	All Children	
<b>Residence</b>							
Urban	3.5	1.6	10.2	84.7	0.0	100.0	15.3
Rural	2.1	2.6	7.2	88.1	0.1	100.0	11.9
<b>Region</b>							
Kampala	2.3	2.2	10.9	84.7	0.0	100.0	15.4
Central	2.9	3.2	6.9	86.9	0.1	100.0	13.0
Eastern	1.6	1.8	5.8	90.8	0.0	100.0	9.2
Northern	3.7	3.1	9.9	83.4	0.0	100.0	16.7
Western	1.5	2.1	7.9	88.4	0.1	100.0	11.5
<b>Age</b>							
0-4	0.4	0.8	2.4	96.3	0.0	100.0	3.6
5-9	1.7	2.3	6.8	89.2	0.0	100.0	10.8
10-14	4.0	3.6	11.2	81.2	0.1	100.0	18.8
15-17	4.9	5.0	15.6	74.4	0.0	100.0	25.5
<b>Sex of Head</b>							
Male-headed	1.5	2.1	3.0	93.4	0.0	100.0	6.6
Female-headed	3.8	2.3	20.1	73.5	0.3	100.0	26.2
<b>Uganda</b>	<b>2.3</b>	<b>2.4</b>	<b>7.6</b>	<b>87.6</b>	<b>0.1</b>	<b>100.0</b>	<b>12.3</b>

図 V-3 ウガンダの孤児人口の推移<sup>146</sup>と孤児家庭の環境・背景 (2009 年度)<sup>147</sup>

<sup>145</sup> “Uganda National Household Survey (UNHS) 2009/2010”では、孤児を 18 歳未満の片親もしくは両親を亡くした子どもと定義している。

<sup>146</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.132

<sup>147</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.133

図 V-4 によると、ウガンダ全世帯数 (620 万世帯) のうち、18%にあたる 110 万世帯が一人以上の孤児を受け入れており、北部地域では、2009/2010 年時点で 4 人以上を受け入れている世帯は 20%に上る。

**Table 11.2: Distribution of Households with Orphans (%)**

Characteristics of Households	2005/06					2009/10				
	Number of Orphans					Number of Orphans				
	1	2	3	4+	All	1	2	3	4+	All
<b>Sex of Household Head</b>										
Male-Headed	59.2	22.0	11.1	7.6	100.0	53.2	29.3	9.2	8.3	100.0
Female-Headed	39.7	25.9	14.9	19.6	100.0	42.4	25.5	13.8	18.3	100.0
<b>Age of HH Head</b>										
Less than 30	61.2	19.6	12.5	6.7	100.0	56.8	26.1	8.1	9.1	100.0
30-59	49.0	24.6	12.9	13.6	100.0	44.4	27.9	12.4	15.4	100.0
60+	45.1	24.9	13.3	16.8	100.0	42.3	25.9	12.7	13.0	100.0
<b>HH by Region</b>										
Kampala	62.1	22.1	9.2	6.7	100.0	35.8	37.9	11.4	14.9	100.0
Central	55.4	21.2	10.9	12.6	100.0	55.6	24.1	10.3	10.0	100.0
Eastern	48.6	24.6	12.1	14.8	100.0	47.2	27.5	13.4	12.0	100.0
Northern	44.8	23.6	14.8	16.9	100.0	39.8	26.2	13.9	20.1	100.0
Western	46.0	27.3	15.6	11.2	100.0	42.7	29.3	9.3	12.7	100.0
<b>Total % of Households with Orphans</b>	<b>50.1</b>	<b>23.8</b>	<b>12.9</b>	<b>13.2</b>	<b>100.0</b>	<b>47.2</b>	<b>27.2</b>	<b>11.7</b>	<b>13.8</b>	<b>100.0</b>
<b>Total No. of HH's with Orphans ('000)</b>	<b>558</b>	<b>266</b>	<b>144</b>	<b>147</b>	<b>1,115</b>	<b>517</b>	<b>298</b>	<b>129</b>	<b>151</b>	<b>1,094</b>

図 V-4 孤児を抱える世帯の特性と地域分布 (2005 年度/2009 年度) <sup>148</sup>

<sup>148</sup> UBOS(2010) "UNHS 2009/10" P.134

#### (iv) 寡婦

ウガンダの寡婦<sup>149</sup>人口は、2009 年度の調査によると約 87.4 万人とされており、女性人口全体の 11%を占める。下図によると 2005 年度と比べ 2009 年度の寡婦人口（15 歳以上）は 5%増加しており、状況が悪化している。また、79%の寡婦は農業による自給自足に依存しており、80%が世帯主として世帯を支えているが、50%以上の者に障害があったり、学校に通ったことがなかったり、70%の者が非識字者であることが分かる。

**Table 11.6: Selected Characteristics of Widows (aged 15+) (%)**

Characteristic	2005/06	2009/10
	Uganda	Uganda
<b>Total Population of Widows</b>	<b>779,832</b>	<b>873,992</b>
Percent of the total female population	5.6	11.0
Percent living in urban areas	13.5	11.8
Percent who are engaged in Subsistence Farming	77.9	79.4
Percent who are economically active	84.9	88.6
Percent who head Households	75.4	80.1
Percent who have a Disability	34.1	56.0
Percent who have never been to School	54.1	57.5
Percent who are illiterate	68.3	70.0
Percent living in Single person households	8.2	7.9

**図 V-5 寡婦の特性<sup>150</sup>**

#### (v) 障害者

ウガンダでは、長年の紛争の影響により身体的、精神的障害者の人口が多く、障害が直接的に、あるいは施設環境の未整備により間接的に就学や就業に支障をきたしている。ウガンダでは、全人口の 15.8%が何らかの障害を抱えており、特に視覚障害を持つ人口は障害者の半数（7.8%）に上る<sup>151</sup>。図 V-6 は、障害の分類による就学・就業との関連性を示しているが、6 歳から 24 歳の児童のうち、22.2%が常にもしくは時折就学に支障をきたす状態であり、全体の障害のうち聴覚、記憶・集中力、言語の障害が突出している。就業に関しては、53.5%が常にもしくは時折就業に支障をきたす状態である。特に、常時就業に支障をきたす状況に置かれている障害者の割合は、全障害者（常時就業に支障をきたす者、時折就業にきたす者、就業に影響の無い者、就業が不可能な者）のうちの 4 割近くになっている。

<sup>149</sup> 寡婦とは夫を死別、離別により失った再婚していない女性を指す。

<sup>150</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.139

<sup>151</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.141

**Table 11.8: Distribution of Persons with Disabilities aged 6-24 years by Ability to attend School or Work (%)**

Disability Type	Affected	Affected	Not affected	Not Applicable	Total
	all the time	some times			
<b>Ability to Attend School (6-24 Years)</b>					
Seeing	7.1	6.4	0.6	85.9	100.0
Hearing	19.2	15.3	9.0	56.5	100.0
Mobility problems	6.0	4.6	4.0	85.3	100.0
Remembering/Concentrating	24.8	4.1	1.9	69.3	100.0
Self-care	11.8	6.1	29.8	52.2	100.0
Communication	21.4	7.8	5.8	65.2	100.0
<b>Total (6-24 Years)</b>	<b>14.0</b>	<b>8.2</b>	<b>10.1</b>	<b>67.8</b>	<b>100.0</b>
<b>Ability to Work (14-64 Years)</b>					
Seeing	33.7	39.8	12.1	10.6	100.0
Hearing	40.6	27.5	9.8	22.1	100.0
Mobility problems	52.5	28.7	3.9	14.9	100.0
Remembering/Concentrating	44.1	27.2	10.8	17.1	100.0
Self-care	42.6	13.1	19.2	25.1	100.0
Communication	50.1	21.0	9.6	18.4	100.0
<b>Total (14-64 Years)</b>	<b>39.7</b>	<b>13.8</b>	<b>13.1</b>	<b>15.0</b>	<b>100.0</b>

図 V-6 障害内容による就学・就業との関連性<sup>152</sup>

## (2) その他の要因と貧困との関連

社会的脆弱性は一般的に年齢、性別、障害、職業、そして貧困や紛争・災害などの現象による人口統計上の要因とともに言及することができる。この項では、一般的な貧困層世帯を食料不安に基づいてプロファイリングするとともに、さらに一般的属性ではジェンダー、高齢者、その他職業、教育など貧困と関連性の高い要因との関連性を見る。

次の図 V-7 と図-8 は、各地域の食料調達状況である。Acholi、Karamoja、難民キャンプでは特に食料支援を受けている世帯の割合が多いことから、貧困地域と指摘されている北部地域との相関関係があることが理解される。全体的にどの地域も、食料を購入する割合が多くを占めており、Karamoja と Teso では食料を借りることがあるが（各 10%、7%）、その他の地域ではそのような行動はあまり見られない。また、Karamoja では、狩猟や漁業での食料調達があるが（8.1%）、他の地域では自分達でつくった農産物を自家消費する割合の方が多く（農業）、難民キャンプでは土地を保有しない人口が多いため、農業に依存する人口が少ない。

<sup>152</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.141

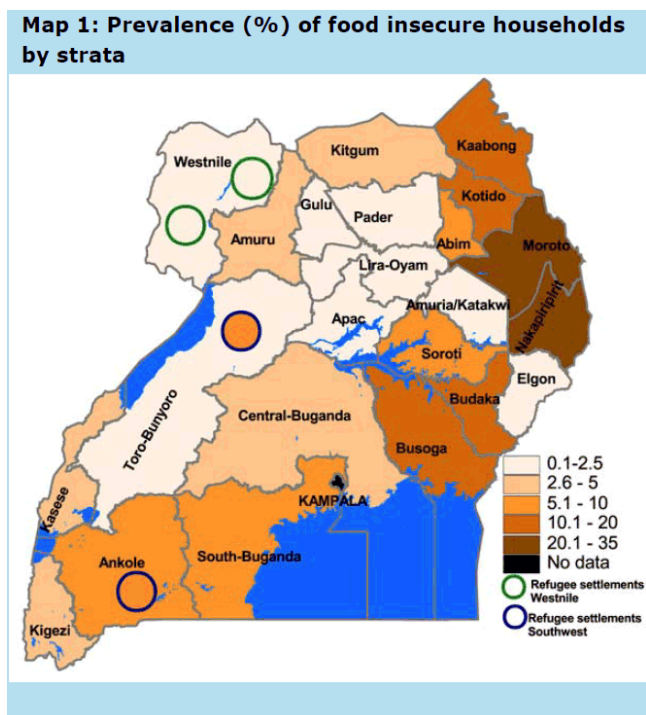


図 V-7 食料不安を抱える世帯分布 (再掲) <sup>153</sup>

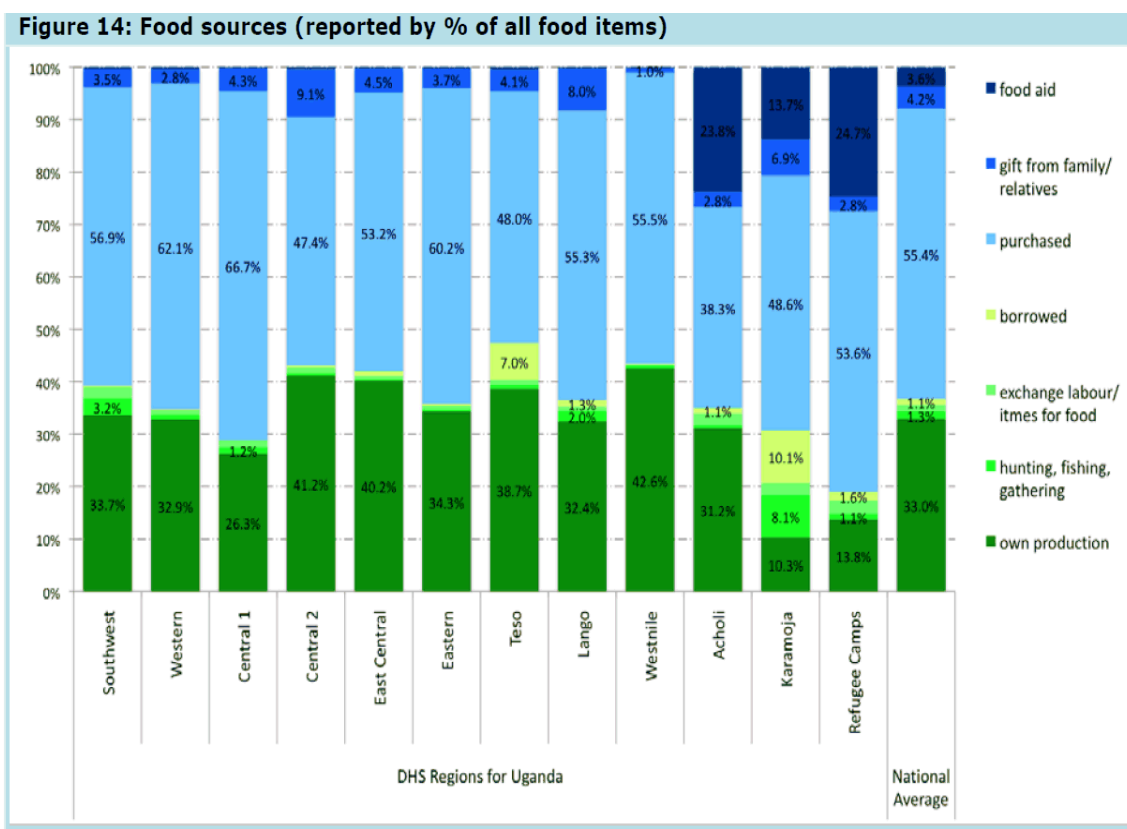


図 V-8 地域毎の食料源分布<sup>154</sup>

<sup>153</sup> WFP(2009) “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda” P.10

<sup>154</sup> WFP(2009) “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis Uganda” P.52

下図は食料不安を抱える集団の特徴を示している。特に、世帯主が非識字者であることや女性世帯主世帯が食料不安を抱えている場合が多いことが分かる。

<b>Food Security Group</b>	<b>Food Insecure</b>	<b>Moderately Food Insecure</b>	<b>Food Secure</b>
Female-headed household (%)	35.5	33.6	26.2
Literacy of Head of household	47.0	51.4	65.1
Not using a toilet (%)	17.6	16.9	10.9
Ave number of crops (2008A Season)	2.60	2.84	3.25
% of Total land cultivated	84.1	80.9	74.7
% of land planted with legumes	20.3	28.3	29.9
Ave. number of Chickens	1.8	2.3	3.9
% HH owning at least 1 goat	26.9	29.7	37.2
% HH owning at least 1 cow	27.9	30.7	39.5
Cement/concrete Walls (%)	28.3	32.0	42.3
Wood or Cement Floors (%)	11.5	11.1	21.1
Value of Home Based Goods Consumed (US\$)	58,000	60,600	82,300

図 V-9 食料不安を抱える集団の特徴<sup>155</sup>

### (i) ジェンダーと貧困

2009 年度の時点でウガンダ国内の全世帯数は 620 万であり、そのうち 186 万世帯(30%)が女性世帯主である。女性世帯主の割合は、全国的に地域別による大きな差異が見られないが、都市に多い傾向がある。また、男女間の識字率は平均的に女性が 10%以上低く、特に北部地域の格差は 25%と高くなっている。失業率は、都市への人口集中化により失業率が地方部に比して高い。また、女性の失業率は男性よりも若干高い。

**Table 2.8: Distribution of Household Headship by Residence and Sex (%)**

Residence	2005/06			2009/10		
	Male	Female	Total	Male	Female	Total
<b>Rural/Urban</b>						
Rural	73.6	26.4	100.0	70.9	29.1	100.0
Urban	70.7	29.3	100.0	65.5	34.5	100.0
<b>Region</b>						
Central	70.7	29.3	100.0	70.3	29.7	100.0
Eastern	75.9	24.1	100.0	71.7	28.3	100.0
Northern	69.2	30.8	100.0	67.3	32.7	100.0
Western	76.5	23.5	100.0	69.3	30.7	100.0
<b>Uganda</b>	<b>73.1</b>	<b>26.9</b>	<b>100.0</b>	<b>69.9</b>	<b>30.1</b>	<b>100.0</b>

図 V-10 世帯主の性別と居住地別分布<sup>156</sup>

<sup>155</sup> WFP(2009) “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda”, P.58

<sup>156</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.11



Table 3.1: Distribution of Literate persons aged 10 years and above by Residence and Region (%)

Background characteristic	2005/06			2009/10		
	Male	Female	Total	Male	Female	Total
<b>Residence</b>						
Urban	89	83	86	90	86	88
Rural	74	58	66	77	62	69
<b>Region</b>						
Kampala	92	90	91	95	90	92
Central	82	78	80	84	81	83
Eastern	71	56	64	75	60	68
Northern	74	45	59	77	52	64
Western	74	60	67	77	65	71
<b>Uganda</b>	<b>76</b>	<b>63</b>	<b>69</b>	<b>79</b>	<b>66</b>	<b>73</b>

図 V-11 男女の識字率比較と地域分布<sup>157</sup>

Table 4.11: Unemployment Rates by Sex and Residence (%)

Background Characteristics	2005/06		2009/10	
	Number	Unemployment Rate	Number	Unemployment Rate
<b>Sex</b>				
Male	89,600	1.7	162,500	3.0
Female	120,100	2.1	317,800	5.2
<b>Residence</b>				
Urban	104,900	6.4	198,100	9.5
Rural	104,800	1.1	282,200	3.0
<b>Regions</b>				
Kampala	17,400	8.3	87,100	11.4
Central	3,600	1.7	154,000	5.7
Eastern	1,500	0.7	91,000	3.0
Northern	6,900	3.3	89,200	4.1
Western	1,500	0.7	59,000	2.1
<b>Youth</b>				
15-24	110,400	4.4	174,700	5.4
18-30	143,800	3.4	256,700	4.7
<b>Uganda</b>	<b>209,700</b>	<b>1.9</b>	<b>480,300</b>	<b>4.2</b>

図 V-12 男女別、地域別、年代別の失業率比較<sup>158</sup>

<sup>157</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.16

<sup>158</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.44

下図では、地域および世帯主の性別による平均収入の状況を示している。2005 年度と比較すると 2009 年度は平均収入が約 2 倍に上昇しているが、男女世帯主間の格差は変化の無いことがわかる（男性は女性の約 1.5 倍）。また、教育水準も収入に大きく影響しており、地方部において高校以降を進学した世帯と未就学世帯ではおよそ 4 倍の差が出ており、さらに都市部では 5 倍の差になっている。

**Table 7.2: Average income of Household Head by Sex and Education level (UGX)**

Sex	2005/06			2009/10		
	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total
Male-headed	328,200	37,600	170,300	784,900	242,405	336,900
Female-headed	213,500	79,900	106,200	420,100	174,483	226,300
<b>Education level</b>						
No formal education	141,400	47,100	54,400	264,000	151,200	160,300
Some primary	165,000	94,400	102,400	239,500	168,600	175,500
Completed P7	218,900	25,400	141,100	449,500	258,100	293,100
Some secondary	280,400	92,500	219,100	462,600	261,300	326,200
Secondary/Post-secondary	390,600	42,000	308,400	1,349,300	622,600	969,700
Uganda	306,200	142,700	170,800	660,200	221,400	302,500

図 V-13 地域・世帯主性別による平均収入の状況（2005 年度/2009 年度）<sup>159</sup>

<sup>159</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.94

(ii) 高齢者と貧困

高齢者人口はウガンダにおいて 130 万人であり、うち 53%は未就学、高齢者女性のうち 79.5%は非識字である。紛争の終結および人口増加に伴い、60 歳以上の高齢者人口も前回の 2005/2006 年と比して 10 万人増加している。また、高齢者人口全体の 64.5%が障害を抱えており、高齢者女性の 63.2%は寡婦である等、非常に脆弱と言える。

**Table 11.5: Selected Characteristics of Older Persons (aged 60+) by Sex (%)**

Characteristic	2005/06			2009/2010		
	Male	Female	Uganda	Male	Female	Uganda
<b>Total Population of Older Persons</b>	<b>562,283</b>	<b>634,156</b>	<b>1,196,439</b>	<b>600,653</b>	<b>703,811</b>	<b>1,304,464</b>
Total population (%)	4.2	4.6	<b>4.4</b>	4	4.5	<b>4.2</b>
Living in urban areas (%)	9.1	10.9	<b>10</b>	7.5	7.4	<b>7.4</b>
Percent who are employed in the Agriculture Sector	85.6	94.6	<b>90.1</b>	82	87.6	<b>84.9</b>
Percent who are economically active	79.1	70.2	<b>74.4</b>	86.7	81.8	<b>84</b>
Percent who head Households	89.5	52.8	<b>70.1</b>	87.4	58.7	<b>71.9</b>
Percent who have a Disability	42.7	45.2	<b>44</b>	61.6	66.9	<b>64.5</b>
Percent who have never been to School	30.7	70.6	<b>51.8</b>	32.8	69.8	<b>52.6</b>
Percent who are illiterate	41.1	78.8	<b>61</b>	40.5	79.5	<b>61.3</b>
Percent living in Single person households	15.8	12.5	<b>14</b>	12.1	9.5	<b>10.7</b>
Percent who are widows	11.7	59.7	<b>37.1</b>	15.3	63.2	<b>40.9</b>

図 V-14 60 歳以上の高齢者の特性 (2005 年度/2009 年度) <sup>160</sup>

<sup>160</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.138

### (iii) 職業と貧困

貧困と労働分野の関連性を見る。図 V-15 によると、農業に従事している世帯は比較的に食料不安を抱えておらず、むしろ漁業や資源関連の業態で食料不安を抱える世帯が多い。

次ページの図 V-16 は、職業毎の特性と資産保有の状況を表しているが、小作農民や食料援助を受けている人達は保有資産が低いことが分かる。一方、農産物流通業者や賃金労働者はエンゲル係数が低く、所得源が主要職業の他にもある傾向が見られる。

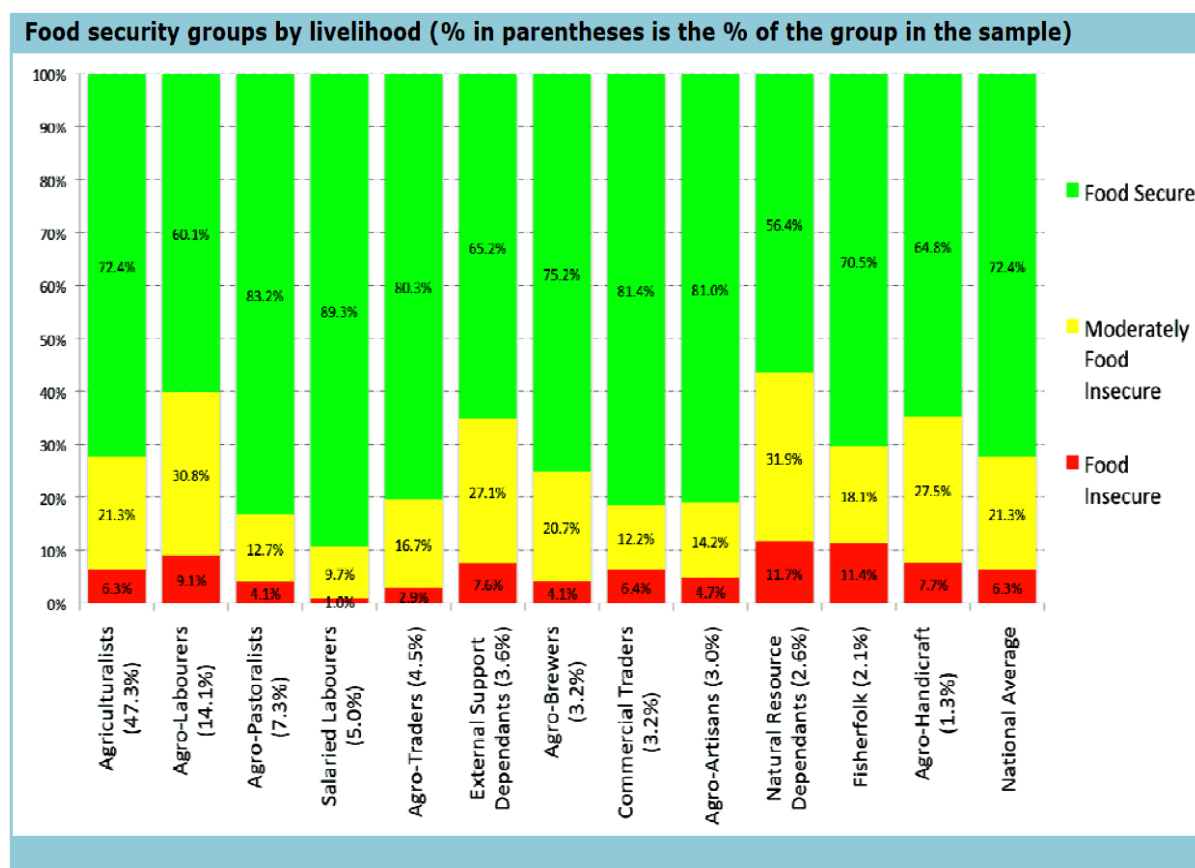


図 V-15 食料の安定に関する職業別割合<sup>161</sup>

<sup>161</sup> WFP(2009) “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda” P.11

Table 8: Description of Primary Livelihood Activity Groups in sample (*unweighted N value given)			
Livelihood Group % (N*)	Livelihood Group Description (the average characteristics of the households in the group)	% Lowest Wealth Quartile	% Asset Poor
<b>Agriculturalists</b> 47.3 (3219)	83% of the household's income comes from Agriculture, with some supplemental income from casual labour (7%). 53.3% of the total expenditure is spent on food.	25.4	18.9
<b>Agro-Labourers</b> 14.1 (1097)	Almost all the income comes from unskilled labour (75%) with an additional 14% coming from agriculture. 59.2% of the total expenditure is on food.	33.4	33.9
<b>Agro-Pastoralists</b> 7.3 (529)	45% of the total income is from livestock or the sale of livestock products with much of the rest coming from agriculture (42%). This group is relatively well off and is reflected in a relatively low expenditure on food as a percentage of the total (44.8%).	18.2	13.7
<b>Salaried Labourers</b> 5.0 (307)	80% of the total income for this group is derived from a salaried wage, or regular work. However, an additional 12% comes from agriculture. This group expends a relatively smaller percentage of the total on food (47.2%).	3.3	3.2
<b>Agro-Traders</b> 4.5 (314)	The majority of income for these households is from Petty Trading (69%), with a supplemental income from agriculture (23%). A small additional amount comes from casual labour (4%). This group also expends a relatively high amount on food compared to the total (59.3%).	14.9	16.2
<b>External Support Dependants</b> 3.6 (288)	External support is defined as income from either sale of food assistance, begging or gift from relatives/friends. For this group 64% of their income is from one or more of these sources. An additional 17% comes from remittances and a further 12% from agriculture. Only 49.7% of the total expenditure is on food but this is likely to be so low due to food support from others or food assistance.	37.2	38.1
<b>Agro-Brewers</b> 3.2 (378)	54% of the total income comes from Brewing with supplemental income from agriculture (29%) and unskilled labour (8%). 56.4% of the total expenditure is on food.	24.6	32.5
<b>Commercial Traders</b> 3.2 (155)	77% of the total income is from commercial trade. An additional 12% comes from agriculture and 7% from government allowances. A relatively small amount of the total expenditure is on food (44.9%).	5.6	4.0
<b>Agro-Artisans</b> 3.0 (171)	73% of the total income is derived from skilled labour, however, 18% comes from agriculture. 51.0% of the total expenditure is on food.	8.7	7.1

Table 8: Description of Primary Livelihood Activity Groups in sample (*unweighted N value given)			
<b>Natural Resource Dependants'</b> 2.6 (442)	These households source 75% of their income from activities such as firewood gathering, charcoal burning etc. A small but important part of their income activity is from agriculture (11%). This group expends a much higher percentage of their total expenditure on food (63.3%).	37.5	43.0
<b>Fisherfolk</b> 2.1 (110)	77% of the total income is gained from fishing activities. However even within this group 15% of the total income comes from agriculture. 60.3% of the total expenditure is on food, which is relatively high compared to the other groups.	21.6	15.7
<b>Agro-Handicraft</b> 1.3 (88)	In this group 57% of the total income comes from handicrafts. This is supplemented with agriculture 28% and a small amount from casual labour (7%). 57.1% of the total expenditure is spent on food.	36.8	36.0

図 V-16 職種ごとの貧困状況<sup>162</sup>

<sup>162</sup> WFP(2009) "Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda" P.44-45

図 V-17 に、農家(Agriculturalist)、小作農(Agro-Labourers)、牧畜家(Agro-Pastoralists)、農産物流通業者 (Agro-Traders) の分類の地域分布を、図 V-18 に職業毎の食料消費と地域分布を示す。

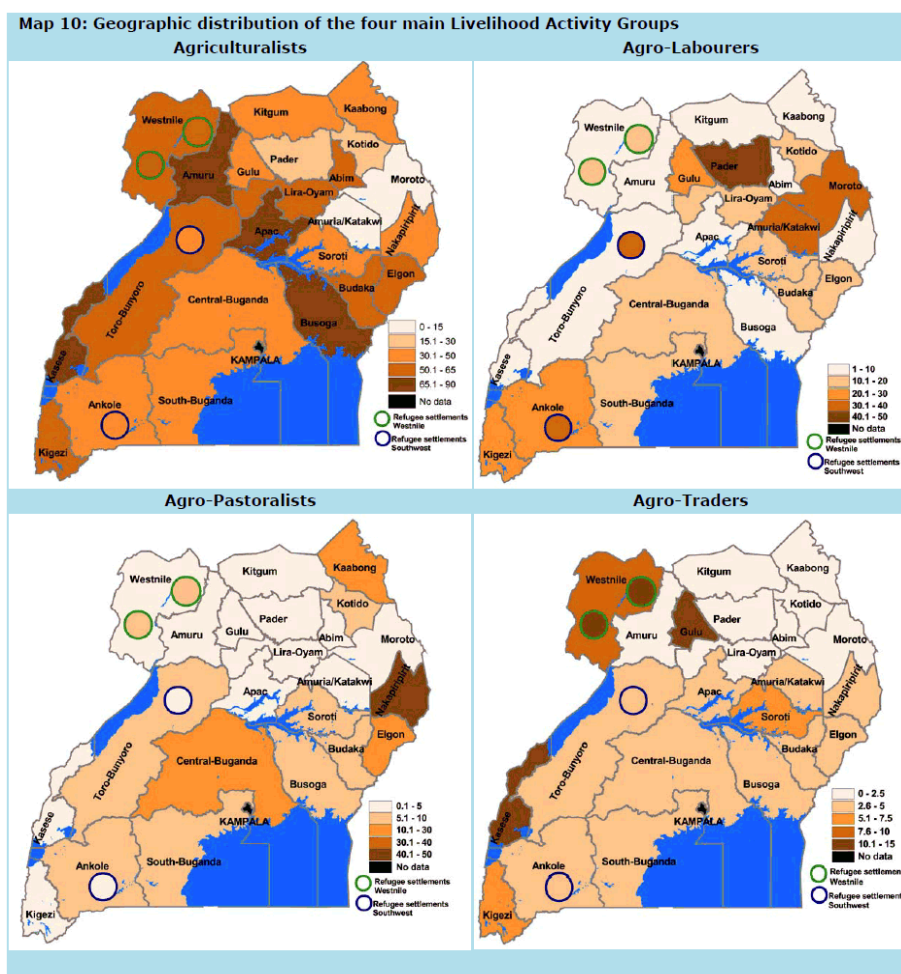


図 V-17 主要な職種の地域分布<sup>163</sup>

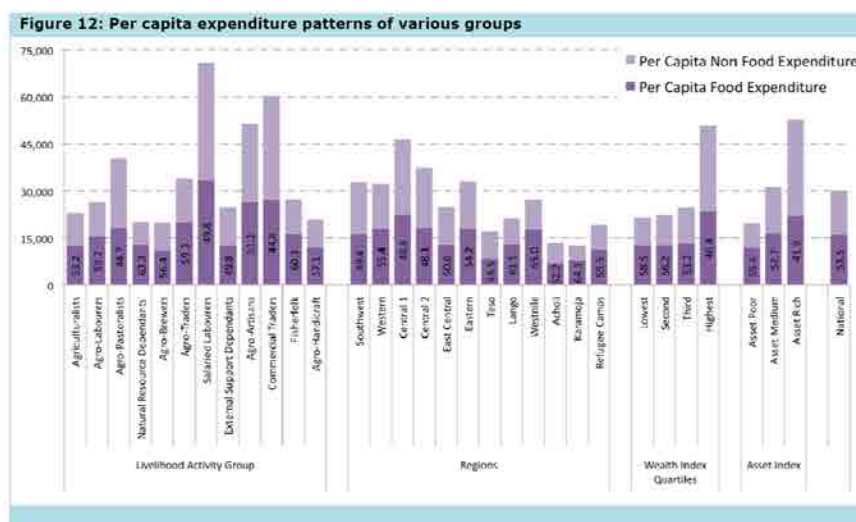


図 V-18 職業毎の食料消費と地域分布<sup>164</sup>

<sup>163</sup> WFP(2009) “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda” P.46

<sup>164</sup> “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda” P.50

(iv) 教育水準と貧困

図 V-19 は WFP が持つデータベースで示された地域毎の識字率人口分布である。色が薄くなるにつれて非識字率が高くなる。東部の Karamoja 地域が最も高く、0.1-40%の人口が非識字である。

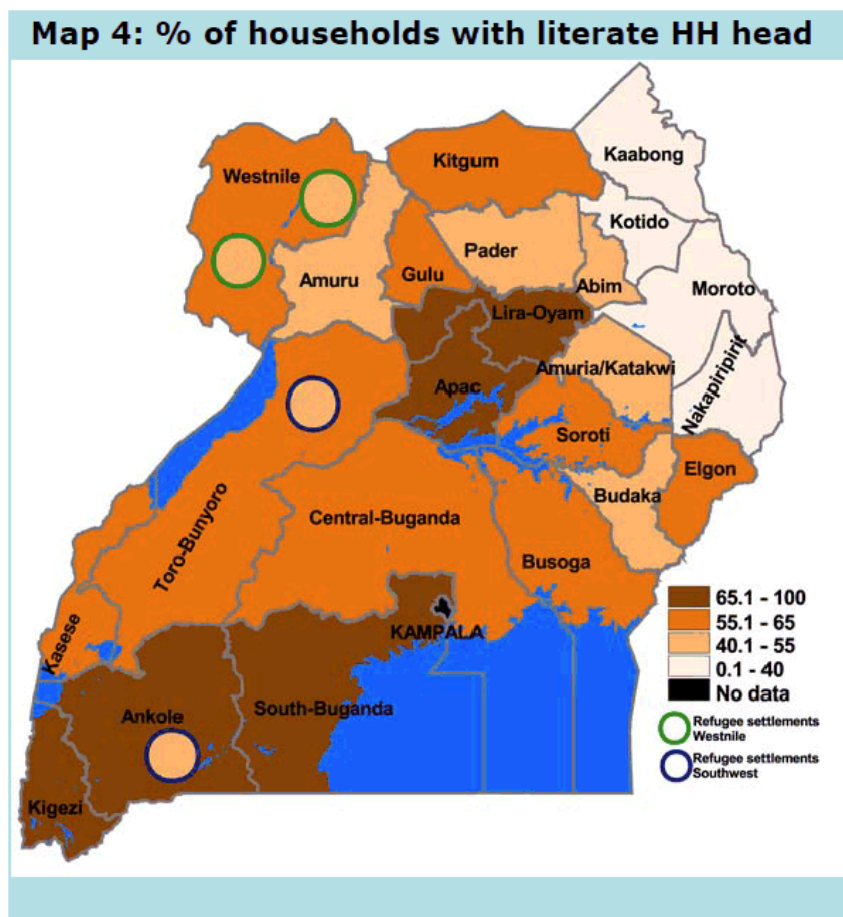


図 V-19 世帯主の識字状況 (%) <sup>165</sup>

<sup>165</sup> “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda” P.27

図 V-20 は女性世帯主世帯における地域別就学率、図 V-21 は男性世帯主世帯における地域別就学率を示している。女性世帯主世帯の数値は男性世帯主世帯と比して全体的に低い。地域的に見ると北部地域ならびに東部地域の就学状況が悪い。

Table 2.12.1 Educational attainment of the female household population

Percent distribution of the de facto female household population age six and over by highest level of schooling attended or completed and median years completed according to background characteristics, Uganda 2011

Background characteristic	No education	Some primary	Completed primary <sup>1</sup>	Some secondary	Completed secondary <sup>2</sup>	More than secondary	Don't know/missing	Total	Number	Median years completed
<b>Age</b>										
6-9	32.6	67.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	3,069	0.0
10-14	4.3	92.8	0.9	2.0	0.0	0.0	0.0	100.0	3,243	2.5
15-19	3.3	56.8	9.0	29.0	0.5	1.4	0.1	100.0	2,191	5.4
20-24	5.6	40.8	13.5	28.7	3.7	7.6	0.1	100.0	1,711	6.2
25-29	11.6	43.9	12.2	21.5	1.2	9.5	0.1	100.0	1,663	5.5
30-34	17.6	48.9	10.6	14.1	1.0	7.7	0.0	100.0	1,145	4.1
35-39	21.8	50.8	9.6	11.1	0.9	5.7	0.0	100.0	1,056	3.4
40-44	27.3	45.7	11.3	12.2	0.7	2.7	0.1	100.0	753	3.2
45-49	30.7	46.1	13.0	5.5	0.4	4.2	0.1	100.0	620	2.6
50-54	42.1	36.8	8.9	7.4	1.9	2.6	0.4	100.0	553	1.4
55-59	47.9	36.6	6.9	5.4	0.4	2.1	0.8	100.0	381	0.0
60-64	59.4	29.2	2.0	5.5	0.0	3.1	0.8	100.0	319	0.0
65+	72.0	23.3	0.8	1.8	0.1	0.9	1.1	100.0	749	0.0
<b>Residence</b>										
Urban	8.2	40.9	8.3	27.0	3.2	12.2	0.1	100.0	2,719	6.1
Rural	22.0	60.9	6.2	8.9	0.3	1.5	0.1	100.0	14,739	2.3
<b>Region</b>										
Kampala	5.3	33.0	9.3	30.0	4.4	17.9	0.1	100.0	1,202	7.1
Central 1	16.0	53.6	9.1	15.4	1.7	4.0	0.1	100.0	1,908	3.8
Central 2	16.8	54.8	8.8	16.4	0.7	2.1	0.3	100.0	1,829	3.5
East Central	17.6	60.0	6.4	13.4	0.5	2.1	0.1	100.0	1,843	3.0
Eastern	14.8	68.4	6.0	8.8	0.4	1.5	0.1	100.0	2,620	2.6
Karamoja	58.1	36.3	1.4	3.1	0.3	0.8	0.0	100.0	677	0.0
North	22.7	66.3	4.6	4.9	0.3	1.1	0.2	100.0	1,583	2.2
West Nile	24.8	64.1	4.6	4.8	0.1	1.2	0.4	100.0	1,047	1.6
Western	21.4	59.8	5.1	11.1	0.2	2.4	0.0	100.0	2,476	2.6
Southwest	23.8	58.2	7.0	8.7	0.3	2.1	0.0	100.0	2,273	2.1
<b>Wealth quintile</b>										
Lowest	34.0	60.4	3.2	2.2	0.1	0.1	0.2	100.0	3,462	0.7
Second	24.4	64.1	5.4	5.6	0.1	0.3	0.0	100.0	3,309	1.9
Middle	18.8	65.0	7.1	8.0	0.3	0.7	0.0	100.0	3,440	2.5
Fourth	15.7	59.5	7.9	14.9	0.3	1.4	0.3	100.0	3,511	3.4
Highest	7.7	41.5	8.8	26.5	2.9	12.5	0.1	100.0	3,736	6.1
<b>Total</b>	19.9	57.8	6.5	11.7	0.8	3.2	0.1	100.0	17,458	2.7

<sup>1</sup> Completed 7<sup>th</sup> grade at the primary level  
<sup>2</sup> Completed 6<sup>th</sup> grade at the secondary level

図 V-20 女性世帯主世帯の就学状況 (2011 年) <sup>166</sup>

<sup>166</sup> UBOS(2011) “UDHS 2011” P.23



Table 2.12.2 Educational attainment of the male household population

Percent distribution of the de facto male household population age six and over by highest level of schooling attended or completed and median years completed, according to background characteristics, Uganda 2011

Background characteristic	No education	Some primary	Completed primary <sup>1</sup>	Some secondary	Completed secondary <sup>2</sup>	More than secondary	Don't know/missing	Total	Number	Median years completed
<b>Age</b>										
6-9	33.6	66.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	3,049	0.0
10-14	3.6	94.4	0.6	1.4	0.0	0.0	0.1	100.0	3,373	2.2
15-19	2.8	65.1	5.8	24.7	0.6	1.0	0.1	100.0	2,203	5.0
20-24	4.7	36.1	11.6	32.7	4.9	9.2	0.7	100.0	1,315	6.7
25-29	4.3	33.9	15.8	28.2	4.8	12.4	0.5	100.0	1,370	6.7
30-34	7.7	36.9	15.0	24.8	2.9	11.4	1.2	100.0	1,069	6.3
35-39	9.0	42.6	12.6	21.6	3.7	9.0	1.3	100.0	994	5.8
40-44	11.4	40.1	15.7	20.4	2.2	8.9	1.4	100.0	724	5.8
45-49	13.2	40.0	14.5	17.0	2.5	12.2	0.6	100.0	576	5.6
50-54	14.7	42.7	16.5	15.1	1.1	9.0	1.0	100.0	459	5.2
55-59	12.3	42.4	17.5	15.6	1.0	10.7	0.4	100.0	309	5.5
60-64	17.9	42.2	16.0	12.3	1.9	8.1	1.6	100.0	252	4.9
65+	37.2	46.1	3.9	6.4	0.6	4.7	0.9	100.0	594	1.8
<b>Residence</b>										
Urban	6.6	37.3	6.8	26.6	6.1	15.8	0.7	100.0	2,442	6.7
Rural	13.5	63.0	7.4	12.1	0.8	2.9	0.4	100.0	13,851	3.1
<b>Region</b>										
Kampala	4.1	28.1	6.2	30.5	8.4	21.7	1.0	100.0	1,045	9.0
Central 1	15.5	53.9	7.3	16.6	1.5	4.3	1.0	100.0	1,852	3.5
Central 2	12.8	56.1	8.2	16.0	2.2	3.3	1.4	100.0	1,725	3.7
East Central	12.3	61.3	5.9	16.0	1.1	2.9	0.6	100.0	1,708	3.3
Eastern	8.7	68.0	6.7	12.8	0.5	3.2	0.1	100.0	2,451	3.4
Karamoja	45.3	37.2	5.8	8.2	1.2	2.4	0.0	100.0	522	0.0
North	9.3	64.9	9.8	9.9	0.7	5.3	0.2	100.0	1,535	3.7
West Nile	9.9	65.1	8.5	11.3	1.1	3.9	0.3	100.0	1,022	3.3
Western	11.7	63.3	7.0	13.7	0.7	3.3	0.3	100.0	2,419	3.3
Southwest	14.5	63.1	7.5	9.6	1.4	4.0	0.0	100.0	2,013	2.6
<b>Wealth quintile</b>										
Lowest	20.3	67.3	5.4	5.8	0.0	1.0	0.2	100.0	3,032	2.0
Second	13.1	66.8	8.3	9.3	0.6	1.7	0.2	100.0	3,246	2.9
Middle	12.3	64.5	8.3	12.2	0.5	1.9	0.3	100.0	3,245	3.2
Fourth	10.8	59.5	7.4	17.1	1.2	3.4	0.6	100.0	3,449	3.8
Highest	6.6	38.4	7.1	25.9	5.4	15.7	1.0	100.0	3,321	6.5
<b>Total</b>	<b>12.5</b>	<b>59.1</b>	<b>7.3</b>	<b>14.2</b>	<b>1.6</b>	<b>4.8</b>	<b>0.5</b>	<b>100.0</b>	<b>16,293</b>	<b>3.4</b>

<sup>1</sup> Completed 7<sup>th</sup> grade at the primary level

<sup>2</sup> Completed 6<sup>th</sup> grade at the secondary level

図 V-21 男性世帯主世帯の就学状況 (2011 年) <sup>167</sup>

## VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因

### 1. 越境的要因

#### (1) 国内外の紛争による難民状況

UNHCR によると、現在のウガンダ国内の紛争の影響を受けた難民や国内避難民は、2013 年 1 月の時点で 38 万人いるとしており、隣国からの難民・庇護申請者、ウガンダ紛争による国内避難民、帰還民（難民・国内避難民）、元難民・元国内避難民で構成されている。特にコンゴ民主共和国からの難民が 11 万人と、ウガンダ紛争による元難民・元国内避難民 15.4 万人で大半を構成している。2006 年の和平合意以降、既述のように難民、国内避難民の帰還が促進され、それら集団の流動性が低くなっている。

UNHCR 2013 planning figures for Uganda					
TYPE OF POPULATION	ORIGIN	JAN 2013		DEC 2013	
		TOTAL IN COUNTRY	OF WHOM ASSISTED BY UNHCR	TOTAL IN COUNTRY	OF WHOM ASSISTED BY UNHCR
Refugees	DRC	113,290	113,290	135,510	135,510
	Somalia	14,240	14,240	14,530	14,530
	South Sudan	18,460	18,460	17,380	17,380
	Various	15,450	15,450	5,430	5,430
Asylum-seekers	DRC	4,840	4,840	2,140	2,140
	Eritrea	2,930	2,930	2,980	2,980
	Somalia	10,540	10,540	13,040	13,040
	Various	18,000	18,000	28,000	28,000
Returnees (refugees)	Uganda	20	20	20	20
IDPs	Uganda	15,000	-	5,000	-
Returnees (IDPs)	Uganda	14,780	-	10,000	-
Others of concern	Uganda	154,000	154,000	160,000	160,000
<b>Total</b>		<b>381,550</b>	<b>351,770</b>	<b>394,030</b>	<b>379,030</b>

図 VI-1 紛争により発生した難民・国内避難民の人口<sup>168</sup>

<sup>168</sup> UNHCR の HP より  
<http://www.unhcr.org/pages/49e483c06.html> (2013/11/08 アクセス)

下表はウガンダに影響を与え得る国内外の災害リスクを示している。洪水、土砂崩れ、干ばつ、感染症、国内紛争、国外の紛争が挙げられる。

## 2.2 TRIGGERS AND EARLY WARNING INDICATORS

HAZARD	TRIGGERS	EARLY WARNING INDICATORS
Floods	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sudden increase in precipitation</li> <li>• overflowing rivers and streams</li> <li>• blocked water ways</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• El Niño periods</li> <li>• prolonged, high-intensity rainfall</li> <li>• violent thunderstorms of short duration causing flash floods</li> </ul>
Landslides	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sudden increase in precipitation</li> <li>• deforestation of vegetation cover</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• El Niño periods</li> <li>• prolonged, high-intensity rainfall</li> <li>• human settlement on sloping areas, poor land use and management practices</li> </ul>
Drought	<ul style="list-style-type: none"> <li>• extended dry spell</li> <li>• high temperatures</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• deficiency in rainfall</li> <li>• signs of food insecurity</li> <li>• lack of groundwater</li> <li>• La Niña events</li> </ul>
Epidemics	<ul style="list-style-type: none"> <li>• presence of the infective agent and vector (agent of transmission) in the area</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• presence of the infective agent and vector (agent of transmission) in the area</li> <li>• drought - see above</li> <li>• floods and landslides – see above</li> <li>• depending on the type of pests and weeds, weather conditions such as humidity, rainfall, light and wind favour breeding and spread. Locusts breed in desert areas</li> </ul>
Internal Conflict	<p><u>Uganda</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• economic hardships-inflation and unemployment</li> <li>• political differences</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• increased insecurity</li> <li>• violation of human rights</li> <li>• mass movement of people from key areas</li> </ul>
Cross-border Conflict	<p><u>Kenya</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• elections</li> <li>• ICC hearings</li> </ul> <p><u>DRC</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• elections</li> </ul> <p><u>South Sudan</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ethnic conflict</li> <li>• South Sudan/Republic of Sudan conflict</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ethnic clashes</li> <li>• mass movement of people into Uganda</li> </ul>

図 VI-2 災害リスクと早期警告判断指標<sup>169</sup>

<sup>169</sup> Republic of Uganda (2012) “Uganda Humanitarian Profile 2012” P.20

## 2. 貧困に影響を与えている国内の要因

### (1) 災害と貧困

災害がウガンダの国民に与える影響を階層的に説明する。ウガンダは近年、甚大な被害を伴っている洪水と干ばつが国民の消費に影響しており、ウガンダ国民の貧困を助長している。下表では、洪水や干ばつは貧困層、脱貧困層、中間層それぞれの階層の 40%以上の世帯に影響しているが、貧困層世帯の 55%は中間層の 40%と比してもより脆弱であり、貧困度合いが高いほど、脆弱性が高いと言える。また、農業危機（害虫被害、家畜の感染症と品質の低い種子による農業生産性への危機も含む）時に消費が減少する人口は、中間層世帯の 19%に対し、貧困層は 30%であり、貧困層は当該問題に関しても脆弱であると言える。さらに、その他主要な危機（紛争、火事、盗難、事故による負傷等）に関し、貧困層世帯の 33%（中間層は 24%）が脆弱であり、25%（中間層は 11%）が消費を減らす。

**Table 2.4: Major shocks experienced by households and the likelihood of reduced consumption**

	Drought or flood		Agricultural shock*		Death of family member		Other major shock**	
	Affected	Reduced consumption	Affected	Reduced consumption	Affected	Reduced consumption	Affected	Reduced consumption
Poor	55%	54%	18%	30%	16%	5%	33%	25%
Insecure non poor	51%	55%	18%	27%	19%	2%	23%	14%
Middle class	40%	47%	15%	19%	19%	4%	24%	11%
All	49%	53%	17%	26%	18%	4%	26%	17%

\* Includes pest attacks, livestock epidemics and poor quality seeds. \*\* Includes theft, civil strife, fire and injury from accidents. Note: reduced consumption refers to the proportion of households affected by the shock that cited lowering their consumption as one of their top three coping strategies. Source: UNHS 2005/6.

**図 VI-3 主要な災害が各階層（世帯）に与える影響度<sup>170</sup>**

<sup>170</sup> MoFPED, Uganda(2012) “Poverty Status Report” P.29

図 VI-4 は、危機の種類毎の分布と世帯に与える影響を現している。干ばつはウガンダ全土で 42% の世帯に影響を与え、他の危機と比すると突出しており、特に地方部世帯の 47.8% (都市は 15.6%) に影響を与える。図 VI-5 は、洪水による被害に付随して起こる二次災害の分析である。

**Table 11.1: Distribution of Households that Experienced Shocks, in the last 5 Years, by Residence (%)**

Type of Shock	Urban	Rural	Uganda
Drought	15.6	47.8	42.2
Floods/hailstorm	4.5	16.6	14.5
Death other family members	12.4	14.1	13.8
Pest attack	3.8	12.1	10.6
Robbery/theft	12.2	9.8	10.2
Civil strife	7.7	10.8	10.3
Livestock epidemic	1.9	6.3	5.6
Fire accident	2.2	4.6	4.2
Death of household head	2.5	3.5	3.3
Injury from accident	4.0	2.6	2.8
Bad seed quality	1.0	2.8	2.5
Others	4.0	3.5	3.6
<b>Uganda (at least one shock)</b>	<b>46.0</b>	<b>69.2</b>	<b>65.1</b>

*Note that each shock in the table above is analyzed independently.*

**図 VI-4 危機の種類毎の分布と世帯に与える影響 (2006 年)**<sup>171</sup>

#### Hazard Analysis

Geographical Area	Intensity	Seasonality	Secondary effects
Areas around Lake Victoria	Minor flash floods	July to November	Hailstorms, cholera outbreaks
Low-lying areas around Teso sub-region	Major	July to November	Landslides, epidemics, food insecurity
Low-lying areas of the Elgon sub-region	Major	July to November	Landslides, epidemics, food insecurity
Kasese and surrounding areas	Major	July to November	Landslides, drought
Kampala	Minor flash floods	July to November	Cholera outbreaks

**図 VI-5 洪水による被害に付随して起こる二次災害の分析**<sup>172</sup>

<sup>171</sup> UBOS(2006) “UNHS 2005/2006” P.120

<sup>172</sup> Republic of Uganda (2012) “Uganda Humanitarian Profile 2012” P.15

### 3. 当該国特有の事項

#### (1) 地域毎の不安定要因

##### (i) 地域毎の不安定要因の概況

2011 年にウガンダ政府が出した PRDP フェーズ 2 報告書では北部の不安定要因は土地問題が 48%、家畜強盗が 25%、窃盗が 21%、家庭内暴力が 16%、食料難・自然災害が 10%存在すると指摘している。また、PRDP が対象としている北部地域におけるアンケート調査で、土地問題が紛争に起因したと答えているサブカウンティ（県の下に位置する郡）は 69%、家庭内暴力、セクシャル・ジェンダーに基づく暴力が 58%、窃盗が 17%、アルコール・薬物依存症が 15%、飢餓・食料難が 8%、政治的干渉が 8%と回答しており、さらに不安定な若年層の雇用問題が紛争の原因として挙げている。図 VI-6 にウガンダ北部の不安定要因を、図 VI-7 に地域毎の貧困状況を示す。

Chart 3: Top Five Conflict Issues by Region<sup>13</sup>

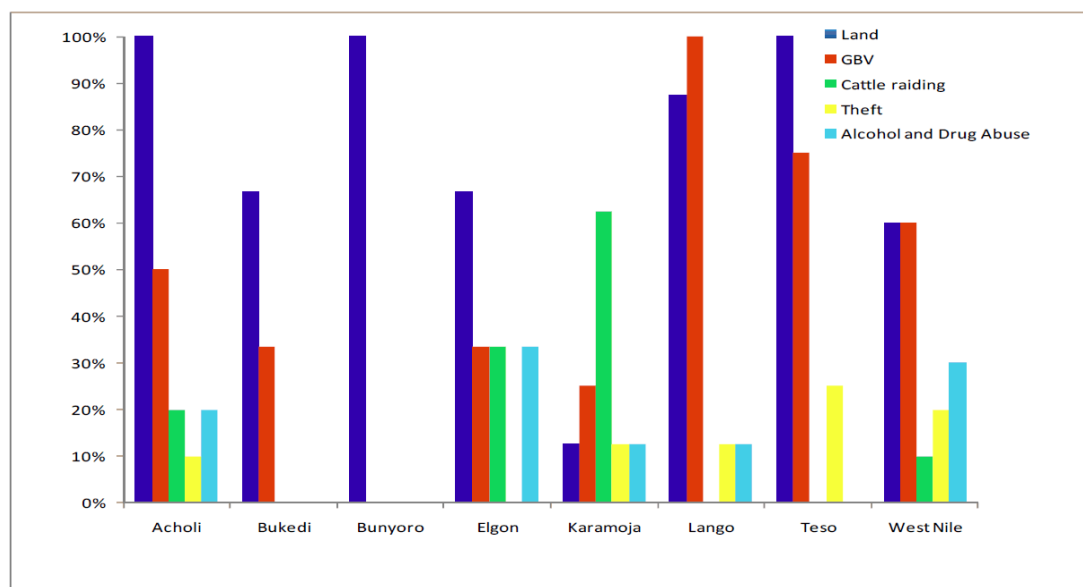


図 VI-6 ウガンダ北部が抱える不安定要因<sup>173</sup>

<sup>173</sup> Office of the Prime Minister(OPM), Uganda (2011)  
“Mid term review of the peace, recovery and development plan(PRDP) for Northern Uganda” P.20

12.5 Tables of estimates of population of Poor (wealth and asset) and Food Insecure households by strata

	Population (2008 Projection)	No. HHs	FCS Classification						Wealth Index					Asset Index					
			Poor		Borderline		Acceptable		Lowest		Second		Third	High- est	Asset Poor		Asset Medium		Asset Rich
			%	HH*	%	HH*	%	HH*	%	HH*	%	HH*	%	HH*	%	HH*	%	HH*	%
Kitgum	357,000	59,500	3.2	1.9	39.0	23.3	57.8	27.5	16.4	49.8	29.7	17.1	5.6	60.2	35.8	39.4	23.5	0.4	
West Nile	2,543,900	423,983	1.1	4.7	13.2	56.0	85.7	20.9	88.8	33.4	141.8	29.9	15.8	25.3	107.2	71.5	303.1	3.3	
Amuru	208,300	34,717	4.2	1.5	44.6	15.5	51.3	10.0	3.5	43.3	15.1	38.8	7.9	64.2	22.3	35.4	12.3	0.4	
Gulu	353,500	58,917	1.3	0.8	36.7	21.7	61.9	4.0	2.4	33.2	19.6	45.6	17.3	46.5	27.4	51.3	30.3	2.2	
Pader	436,000	72,667	0.7	0.6	28.5	20.7	70.8	13.1	9.5	48.9	35.6	29.1	9.0	58.6	42.6	41.0	29.9	0.4	
Abim	54,100	9,017	9.6	0.9	39.7	3.6	50.7	52.9	4.8	28.1	2.6	10.5	8.6	62.4	5.7	36.2	3.3	1.4	
Kotido	179,300	29,883	16.7	5.1	44.0	13.2	39.2	74.2	22.2	12.4	3.8	7.7	5.7	69.4	20.8	30.6	9.2	0.0	
Kaabong	301,200	50,200	16.0	8.1	42.0	21.1	42.0	88.8	44.6	6.8	3.4	1.6	2.8	86.5	43.4	13.1	6.6	0.4	
Moroto	265,300	44,217	30.0	13.3	42.8	19.0	27.2	84.9	37.6	12.0	5.3	2.4	0.8	92.8	41.1	7.2	3.2	0.0	
Nakapinpiri	217,500	36,250	22.7	8.3	18.5	6.8	58.8	73.9	26.8	16.5	6.0	6.0	3.7	86.7	31.5	12.8	4.7	0.5	
Elgon	1,440,600	240,100	2.4	5.7	10.9	26.3	86.7	40.1	96.4	30.7	73.7	19.2	10.0	13.8	33.1	83.4	200.2	2.9	
Budaka	1,421,100	236,850	11.7	27.7	33.5	79.5	54.8	25.3	59.9	26.1	62.0	29.0	19.5	17.0	40.2	77.6	183.8	5.5	
Soroti	1,013,400	168,900	7.2	12.2	35.7	60.4	57.0	16.9	28.7	37.8	63.9	32.9	12.4	20.5	34.7	72.3	122.2	7.2	
Katakwi/Amuria	396,500	66,083	1.1	0.8	19.6	13.0	79.3	4.4	3.0	25.4	16.8	57.7	12.5	28.7	19.0	67.3	44.5	4.0	
Lira	956,100	159,350	1.0	1.7	26.8	42.8	72.2	35.7	56.9	40.4	64.4	16.2	7.7	24.2	38.7	72.7	115.9	3.0	
Apac	780,100	130,017	2.2	2.9	16.2	21.1	81.6	12.7	16.5	27.2	35.4	48.6	11.6	13.8	18.0	82.6	107.5	3.6	
Bunyoro-oro	2,779,300	463,217	2.1	9.9	7.9	36.8	89.9	25.5	118.0	23.4	108.3	22.3	28.9	11.5	53.5	80.8	374.5	7.6	
Central Buganda	3,076,600	512,767	3.0	15.4	14.7	75.3	82.3	19.9	102.1	18.0	92.4	19.1	43.0	18.0	92.4	77.7	398.4	4.3	
Eastern Busoga	3,375,900	562,650	15.1	84.9	26.0	146.2	58.9	15.9	89.5	23.2	130.5	31.3	29.6	11.3	63.7	84.4	474.7	4.3	
Kasese	924,800	154,133	4.8	7.5	14.0	21.6	81.2	44.3	68.4	19.1	29.5	20.0	16.5	26.1	40.3	72.6	112.0	1.3	
Kigezi	1,255,000	209,167	3.3	7.0	19.6	41.0	77.1	53.8	112.5	18.6	39.0	17.4	10.2	14.7	30.8	83.8	175.3	1.5	
Ankole	2,534,600	422,433	7.6	32.2	26.2	110.9	66.1	23.8	100.5	28.7	121.2	21.7	25.8	15.5	65.5	78.8	333.0	5.7	
South Buganda	3,193,000	532,167	9.3	49.5	20.4	108.7	70.3	11.9	63.2	16.6	88.5	19.5	52.0	16.1	85.7	74.1	394.6	9.8	
<b>National Average**</b>	<b>28,063,100</b>	<b>4,677,183</b>	<b>6.3</b>	<b>294.7</b>	<b>21.3</b>	<b>996.3</b>	<b>72.4</b>	<b>25.2</b>	<b>1,178.7</b>	<b>25.4</b>	<b>1,188.1</b>	<b>24.4</b>	<b>24.9</b>	<b>22.0</b>	<b>1,029.0</b>	<b>73.3</b>	<b>3,428.4</b>	<b>4.70</b>	

\*Number of households in 1000s (rounded to the nearest 100 households)

\*\*Differences in national totals are due to the weighting system used for national average calculations

図 VI-7 貧困人口の地域分布<sup>174</sup>

<sup>174</sup> WFP(2009) "Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda" P.97

(ii) 土地問題

ウガンダ国では、長年の紛争の影響によって国内避難民が発生し、約 20 年もの間、キャンプ生活を強いられていた人達がいる。元々住んでいた土地から長期間離れていたため、帰還するにあたり、土地所有権に関する問題（別の人が住んで土地所有権を主張、土地の境界線が不明瞭、公的証明書類が存在しない等）が頻発している。土地は農業が主要産業であるウガンダ国民にとって生計を立てるために必要不可欠な資産であり、その所有権に関する闘争は死活問題となっている。下図では、元国内避難民では 5%、国内避難民では 40%が家族間、近所もしくは収奪者との土地問題を抱えており、元国内避難民の 88%は今後の土地問題を予防するためにも、土地登記を行おうとしている。

Figure 1 Disparities between IDPs and IDP returnees from November 2008 to October 2009

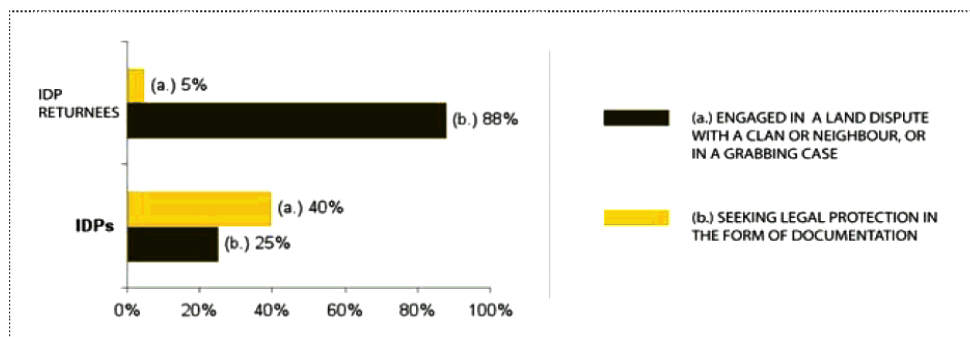


図 VI-8 国内避難民と元国内避難民の格差<sup>175</sup>  
(2008 年 11 月から 2009 年 10 月まで)

Figure 2 August 2003 to October 2009 status of cases<sup>8</sup>

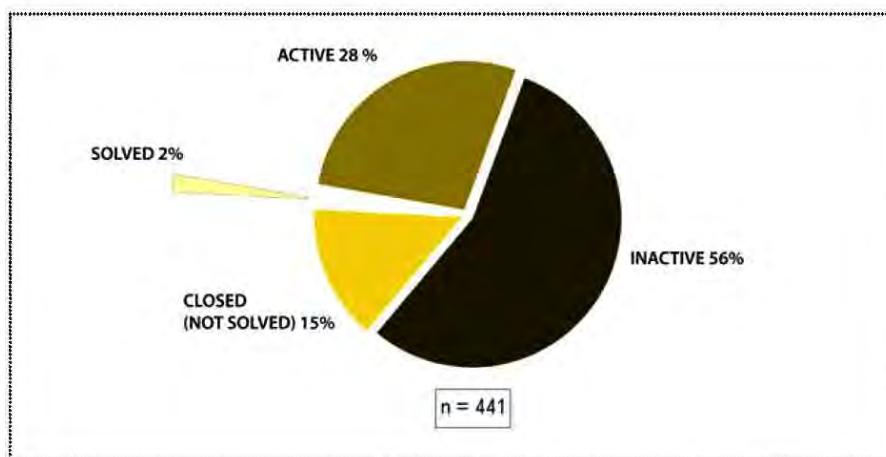


図 VI-9 国内で報告されている土地問題と訴訟状況<sup>176</sup>  
(2003 年 8 月から 2009 年 10 月)

<sup>175</sup> IOM (2010) “Land or Else, Land-Based Conflict,, Vulnerability and Disintegration in Northern Uganda” P.9

<sup>176</sup> IOM (2010) “Land or Else, Land-Based Conflict,, Vulnerability and Disintegration in Northern Uganda” P.10



(iii) 東部が抱える不安定要因

東部の Karamoja 地域にはおいては、2008 年の時点でおよそ 101 万人居住しており、その 58% に当たる 59.4 万人が食料不安を抱えている。

**Table 1: Estimated population food insecure in Karamoja**

District	Est. Pop. 2008*	Food Insecure	Pop. Food Insecure**	Moderately Food Insecure	Pop. Moderately Food Insecure**	Total
Abim	54,100	9.6%	5,200	39.7%	21,500	26,700
Kotido	179,300	16.7%	30,000	44.0%	78,900	108,900
Kaabong	301,200	16.0%	48,200	42.0%	126,600	174,800
Moroto	265,300	30.0%	79,600	42.8%	113,600	193,200
Nakapiripirit	217,500	22.7%	49,400	18.5%	40,300	89,700
<b>Karamoja***</b>	<b>1,017,400</b>	<b>20.4%</b>	<b>207,600</b>	<b>38.0%</b>	<b>386,600</b>	<b>594,200</b>

\*UBOS projections

\*\*Rounded up to the nearest 100 people

\*\*\*Discrepancies are a result of weights and in rounding

図 VI-10 Karamoja 地域における食料不安状況<sup>177</sup>

<sup>177</sup> WFP(2009) “Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda” P.10

#### (iv) テロの脅威

ウガンダは、東アフリカのソマリアの平和維持活動に参加しており、ブルンジとともに「ソマリア平和維持部隊 (AMISOM)」を構成し、活動を行っている。しかし、ソマリアは 2014 年現在無政府状態に近い状況におかれている。「旧ソマリア国」地域周辺でテロ事件を頻発させているのが、イスラム過激派テロ組織「アル・シャバáb」である。

「アル・シャバáb」については不明な点が多いが、在ケニア日本大使館の現地邦人向け説明資料<sup>178</sup>などを元に説明する。「アル・シャバáb」は 2004 年頃、ソマリアの「イスラム法廷連合」の軍事青年部門として設立された。2007 年に「イスラム法廷連合」が敗退した後も「アル・シャバáb」はソマリア国内で戦闘を続けていたが、AMISOM やケニア軍などの攻撃により、2011 年 8 月にソマリアの首都モガディシユから、2012 年 9 月にソマリアの港湾都市キスマヨから撤退した。その後ゲリラ戦術に転向し、ソマリア国内にとどまらず、国外でのテロ活動を開始した。2012 年には、国際テロ組織「アル・カイダ」の傘下に入ったとされる。

「アル・シャバáb」は AMISOM の参加国であるウガンダ・ブルンジ、港湾都市キスマヨを制圧したケニアなどに対して、理不尽な「報復」宣言を一方的に行っている。

2010 年 7 月 12 日、ウガンダの首都カンパラ市内において爆破テロが発生し、74 人が死亡、84 人が負傷した<sup>179</sup>。2012 年以降、ケニアにおいては「アル・シャバáb」による爆弾テロが多発した<sup>180</sup>。2013 年 9 月 21 日、ナイロビの「ウェストゲート・ショッピングモール」を武装集団が襲撃し一般市民 61 名および治安要員 6 名を含む死傷者 240 名を出す大惨事となった。

「ウェストゲート・ショッピングモール」襲撃事件の発生後、犯行声明が「アル・シャバáb」によって出され、ウガンダに対しても同様のテロ攻撃を行うと宣言している<sup>181</sup>。このような不安定な治安状況は、ウガンダ政府が「NDP」などで目指す国家の経済発展に大きな悪影響を与えるものであり、とりわけ貧困層に対する影響が懸念される。

---

<sup>178</sup> 在ケニア日本大使館(2013)

「Westgate テロ事件関連情報」平成 25 年度第 3 回邦人安全対策連絡協議会配布資料  
<http://www.ke.emb-japan.go.jp/ryoujianzen/SecurityMeeting26-10/Westgate%20terror%20attack.pdf>  
(2014/02/05 アクセス)

<sup>179</sup> 日本国外務省(2013) 「ウガンダ テロ・誘拐情勢」  
<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror.asp?id=93> (2014/02/06 アクセス)

<sup>180</sup> 日本国外務省(2013) 「ケニア テロ・誘拐情勢」  
<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror.asp?id=100> (2014/02/06 アクセス)

<sup>181</sup> 日本国外務省(2013) 「ウガンダ：テロの脅威に伴う注意喚起」  
<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcspotinfo.asp?infocode=2013C434> (2014/02/06 アクセス)

## VII. 重点支援分野と貧困との関連分析

ウガンダに対する現在の我が国の基本方針は、インフラ整備および地方部の所得向上に係る支援を実施し、ウガンダおよび近隣諸国の経済成長に貢献し、かつ地域格差の是正に配慮したウガンダの貧困削減を支援するものである<sup>182</sup>。これら重点目標は 4 つの視点で示されており、それに沿って次に整理する。

### 1. 経済成長を実現するための環境整備

ウガンダは、東南部は気候がよく、西部を含めてインフラは整っている。南部は工場が多く、北部は農業従事人口が中心であり、両者には文化的違いがあることなどが全体的特徴である。

我が国は、重点目標の 1 つとして経済成長に向けた環境整備をあげているが、「道路や電力の広域インフラ整備およびそれらの運営・維持管理への支援を通じ、円滑な物資輸送および安定したエネルギー資源の供給に貢献」することを特に指摘している。ここでは、道路と電力について記述する。

#### (1) 道路

十分なインフラ社会基盤は、ウガンダ国の経済成長の重要な鍵である。道路状況は相対的には向上してきているものの、渋滞・道路維持管理財源・地方の道路整備の遅れ（道路の質やネットワーク）等の問題が大きい。ウガンダにおける貨物と旅客輸送の 90%以上は、道路輸送に依存しているものの、同国の全道路網 78,100 km のうち 6%が舗装されているのみである。この道路網のうち、国道は 21,000 km、県道は 32,000 km、都市道 13,000 km、コミュニティ道路は 85,000 km に区分される<sup>183</sup>。国道については、ウガンダ国道公社（UNRA: Uganda National Roads Authority）がデータベースを構築しているが、地方道路データベースが十分に整理されていないため、適切な予算申請書を作成できず、効果的な予算配分ができていない<sup>184</sup>。

同国は、EAC (East Africa Community: 東アフリカ共同体) や COMESA (Common Market for East and South Africa: 東南部アフリカ共同体) に加盟しており、加盟国間で関税同盟が設立されている事を鑑みれば、域内の貿易活動の活性化が予測され、道路ネットワークの拡大と強化は重要課題である。これらを踏まえて同国政府は、2008 年に「NTMP (National Transport Master Plan: ウガンダ国家運輸交通マスタープラン)」を策定し、長期ビジョンや戦略および投資計画を示した。この NTMP は、1997 年に策定された包括的な国家開発計画「PEAP (Poverty Eradication Action Plan: 貧困撲滅行動計画)」に重点分野として位置づけられていた「経済インフラ整備」が礎石になっており、その後の 2010 年に策定された「NDP」においては、運輸インフラについて、経済面だけでなく社会開発面においても特に重要な基盤と位置付けている。

<sup>182</sup> 日本国外務省 (2012) 「対ウガンダ共和国 国別援助方針」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/houshin/pdfs/uganda-1.pdf> (2013/10/21 アクセス)

<sup>183</sup> Ministry of Works and Transport “Annual Sector Performance Report 2012/2013” (September 2013) P.2, P.15, P.141

<sup>184</sup> JICA 経済基盤開発部 運輸交通・情報通信第二課 「技プロ用 事業事前評価表」 P.2

<http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/1751c21d3ce7d90a49256bf300087d04/a687367465be9ada492579610079dab2> (2013/10/22 アクセス)

なお、現在実施されている「NDP 2010/11-2014/15」においては、ウガンダ政府はエネルギー、交通、石油・ガス、ICT の 4 分野のインフラ整備を優先対象と位置づけている。

TABLE 4.8: SUMMARY OF PRIORITY AREAS AND INTERVENTIONS		
NO.	Investment Priorities	Intervention Areas
1	Human Resource Development	Education
		Health
		Skills Development
		Water & Sanitation
2	Infrastructure Development	Energy
		Transport Infrastructure
		Oil & Gas
		ICT
3	Critical production inputs	Agricultural inputs
		Iron ore
		Water for Production
		Meteorology
		Fertilizers
4	Science, Technology & Innovation	Industry technology & inputs
		Technology Incubation
		Technology uptake and Commercialization
		Research fund
		Upgrading Jua Kali
		Science laboratories
		Promote value addition
		Science Parks

図 VII-1 「NDP 2010/11-2014/15」における優先分野<sup>185</sup>

<sup>185</sup> Republic of Uganda (2010) “NDP 2010/11-2014/15” P.55

ウガンダでは、貧困ライン以下の人口の多くが地方に居住しており、特に北部地域が著しい。北部全体としてインフラ整備が遅れており、道路、電気、給水、学校、等々の数や施設などは全国平均以下である。これは、北部地域が長期にわたる内戦の影響により、社会経済インフラの整備が著しく遅れていることが要因である（詳細は「VII-4 北部地域における平和構築」参照）。

北部に限らず、ウガンダ国の道路ネットワークの不十分さや既存道路の渋滞状況から、医療や学校への基礎サービスへのアクセスを向上させ、貧困緩和に資するためにも、我が国が道路整備支援に重点を置く必要があると考えられる（図 VII-2, 3）。

Figure 5. National and regional transport network in Uganda, 2005

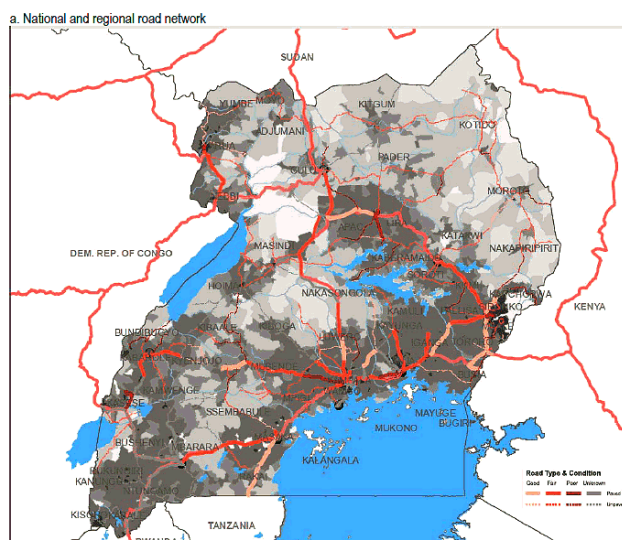


図 VII-2 ウガンダ国における中央と地方の道路ネットワーク（再掲） 186

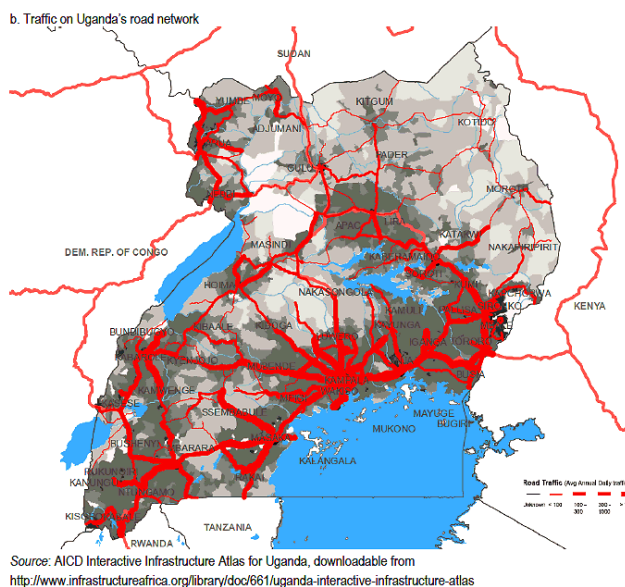


図 VII-3 ウガンダ国道路の渋滞状況（再掲） 187

<sup>186</sup> World Bank (2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.11

<sup>187</sup> World Bank (2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.12

ウガンダは、ルワンダ・南スーダン・ケニア・タンザニアに囲まれており、東部アフリカの道路交通網の中心として重要な役割を果たす点からも、道路整備への早急な対策は必要である。特に、ケニアのモンバサ港を中心とした北部回廊への物流改善強化は必須であるが、当面は既存回廊の改修に努力を注ぐことになる<sup>188</sup>。図 VII-4, 5 の数字が示すように、ウガンダの道路の質は低く、良好な状態は道路総延長の 6.9%に過ぎない。他の道路との連携などの改善の余地も他国と比べて、かなり大きい。

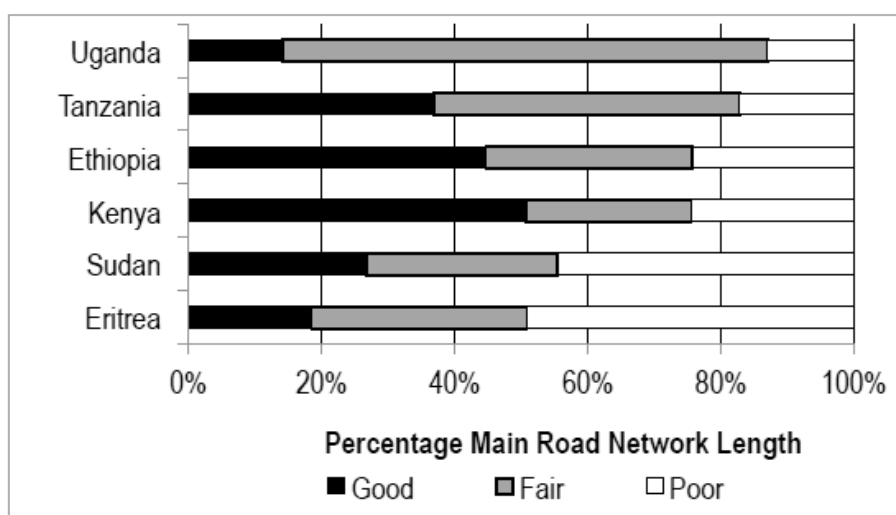
Table 2. Road conditions and traffic along portions of the Northern Corridor, 2005

Corridors	Condition				Type			Traffic bands (vehicles per day)			
	Good	Fair	Poor	Unknown	Paved	Unpaved	Unknown	>300	300-1,000	>1,000	Unknown
Mombasa to Nairobi to Kampala to Kigali to Bujumbura (Northern Corridor)	43.8	34.7	9.9	11.6	94.6	0	5.4	1.2	10.3	80.2	8.3
Rwanda	66.5	33.5	0	0	100	0	0	14.5	0	85.5	0
Uganda	6.9	34.6	10.1	48	77.5	0	22.5	0	21.8	78.2	0
Kenya	54.3	34.3	11.4	0	100	0	0	0	3.9	83.3	12.7
Burundi	45.2	4.2	0	0	100	0	0	0	70.3	25.6	4.2

Source: AICD analysis.

図 VII-4 北部回廊の各国部分に沿った道路と渋滞状況<sup>189</sup>

Figure 8. Main road network conditions in East Sub-Saharan Africa, 2005



Source: AICD Road Sector Database on Southern Sub-Saharan African countries.

図 VII-5 東部サブサハラアフリカにおける主要道路ネットワーク状況<sup>190</sup>

<sup>188</sup> World Bank (2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.14

<sup>189</sup> World Bank (2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.14

<sup>190</sup> World Bank (2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.17

## (2) 電力

主要な電力設備はビクトリア湖周辺に集中しており、プロジェクト等の多くも同地域のもとで進行している。電力整備地域は、主に首都のカンパラと第二の都市ジンジャに限られており、日本の援助などにより地方の電化は進みつつあるものの、電力整備状況は立ち遅れている(図 VII-6)。

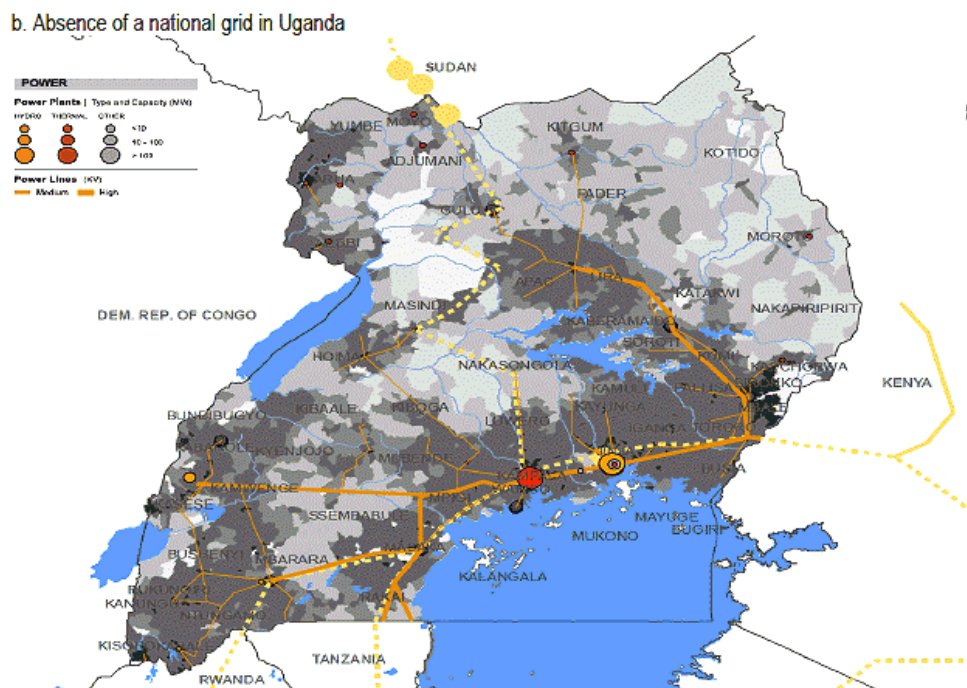


図 VII-6 ウガンダの電力整備状況 (2010 年) (再掲)<sup>191</sup>

<sup>191</sup> World Bank (2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.9

図 VII-7 に示す通り、ウガンダの全人口のうち電力にアクセスできるのはわずか9%に過ぎない。貧困層との関連でみると、首都をはじめとする都市は 50%以上のアクセス率だが、地方に至っては 10 分の 1 近くの 6%になり、貧困層と重なる。さらには、図 VII-8 からわかるように、貧困層が電力補助金にアクセスできている率は、アフリカ地域他国と比較しても非常に低く、我が国の重点的支援分野となっている。

Table 10. Benchmarking Uganda's power infrastructure, 2006

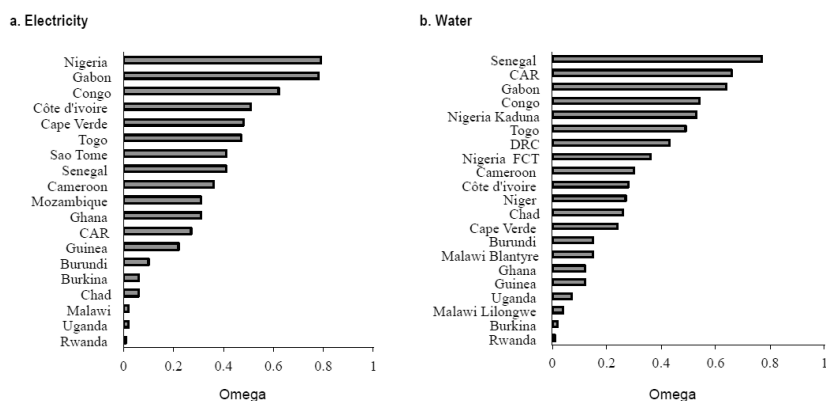
		Uganda	Low-income, nonfragile countries	Middle-income countries	Resource-rich countries
Access—national 2009	% population	9	33	50	46
Access—urban 2009	% population	50	86	100	100
Access—rural 2009	% population	6	12	33	28
Access—capital city 2009	% population	60	81	81	89
Installed generation capacity	MW	568	651	36,971	4,105
Installed generation capacity	MW per million people	18	20	799	43
Emergency generation capacity	MW	100	46	0	0
Self-generation capacity	MW	37	17	30	13
Firms that find power a constraint for business	% of firms	45	52	31	56
Firms with own generator	% of firms	29	41	18	63
Outages, number, annually	number per year	132	124	71	174
Outages, value lost	% of sales	10	6.5	1.6	7
Collection rate, reported by utility, electricity	% of billing	94	92	91	70
Cost-recovery ratio, historical	%	67	89	85	97
Revenue per unit	US cents per kWh	15	14	13	13
System losses	% generation	39	24	20	52
Total hidden costs	% revenue	103	69	0	168

Source: Access to power (national) is based on information in 2009 and taken from World Energy Outlook, 2010; Access to power in rural areas taken from EIU (2011).

Note: All data for 2006 unless indicated otherwise.

### 図 VII-7 ウガンダの電カインフラ水準 (2006 年) <sup>192</sup>

Figure 29. Electricity and water subsidies that reach the poor, 2006



Source: Banerjee and others, 2009.

Note: Omega is a measure of distributional incidence, or the share of subsidies received by the poor as a percentage of their share in the population. The higher the value of omega, the better the distributional performance of the subsidy. Values of omega below 1 denote a regressive subsidy and values above 1 denote a progressive subsidy.

CAR = Central African Republic; DRC = Democratic Republic of Congo

### 図 VII-8 電力助成金にアクセス可能な貧困層の割合 (2006) <sup>193</sup>

<sup>192</sup> World Bank (2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.30-31

<sup>193</sup> World Bank(2011) “Uganda Infrastructure: A Continental Perspective” P.43



## 2. 地方部の所得向上

労働力人口の 8 割が農業に従事しているウガンダは、肥沃な土壌と豊富な降水量に恵まれた農業に適した環境であるものの、農業技術が未熟な上に流通システムが構築されていないため、農業生産性が低く農民層の所得向上に結び付いていない。自給作物であり、且つ換金作物であるネリカ米を中心としたコメの増産や、一村一品の活性化などを通じて農業生産性および収益性を改善し、低所得の農民層の所得向上を目指す方針を我が国は打ち出している<sup>194</sup>。

地方部の収入源に関しては、図 VII-9 から、都市部では自給農業を主な収入源としている家計の割合が 4.5%であるのに対し、地方ではその割合が 50.4%にのぼることがわかり（2009 年度）、地方部の所得向上のための施策として、農業が重要な役割を果たすことが理解される。また、食料不足を経験した農家の割合を示す図 VII-10 からは、北部では 74%の農家が過去 1 年間に食料不足を経験したと回答したことが分かり、他地域よりもかなり高い。

**Table 7.4: Distribution of Households by Main Source of Earning and Residence (%)**

Main Source of earnings	2005/06			2009/10		
	Rural	Urban	Uganda	Rural	Urban	Uganda
Subsistence farming	57.8	9.7	49.2	50.4	4.5	41.8
Commercial farming	2.9	1.5	2.7	4.3	0.9	3.7
Wage employment	16.4	41.2	20.8	19.8	49.2	25.3
Non-agricultural enterprise	14.9	37.3	19.0	17.7	34.9	20.9
Transfers	4.3	7.7	4.9	0.2	0.3	0.23
Others	3.7	1.5	3.5	7.6	10.3	8.1
<b>Total</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>

**図 VII-9 地域別主要収入源の状況<sup>195</sup>**

**Table 2.12: Distribution of Ag HHs that Experienced Food Shortage**

Region	Ag HHs	Ag HHs that reported having had Food Shortage		
		No of Ag HHs	% between regions	% within regions
Central	715,486	351,272	17.3	49.1
Eastern	1,069,885	615,566	30.4	57.5
Northern	755,701	559,914	27.6	74.1
Western	1,033,992	500,903	24.7	48.4
<b>Uganda</b>	<b>3,575,064</b>	<b>2,027,655</b>	<b>100</b>	<b>56.7</b>

**図 VII-10 食料不足を経験した世帯の地域別割合<sup>196</sup>**

<sup>194</sup> 日本国外務省 (2012)

<sup>195</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.96

<sup>196</sup> UBOS (2010) “Census of Agriculture 2008/2009 Vol.1 – Summary Report” P.10

「Uganda Census of Agriculture 2008/2009 Volume.1 Summary Report」(2010)により、2008 年の二期作目と 2009 年の一期作目の農業生産物の情報から、同国の基幹作物の生産状況を図 VII-11 と図 VII-12 に示す。メイズ、豆、食用バナナ、キャッサバ、サツマイモは、同国の農家のほとんどが栽培している主要穀物の 5 種類であり、特にメイズは、150 万農家世帯が栽培する最も重要な作物である<sup>197</sup>。メイズを生産している農家数が最も多いのは、東部地域であり、西部地域、中央地域が続く。東部地域では、同国の主要作物の豆やキャッサバも多くの農家が栽培しており、西部地域では、食料バナナや豆を栽培する農家が多くを占めている。そして北部地域は、ソルガムを栽培する農家が最も多く、メイズやゴマが次に続く。

Table 2.14: Percentage Distribution of Ag HHs by Type of Crop Produced by Region (2nd Season 2008)

Region	Central		Eastern		Northern		Western		Total	
	Number	%	Number	%	Number	%	Number	%	Number	%
Maize	410,332	23.5	578,363	33.2	296,523	17.0	457,798	26.3	1,743,016	100
Finger Millet	16,366	4.0	74,576	18.2	119,782	29.2	199,017	48.6	409,740	100
Sorghum	11,325	1.9	186,898	30.8	336,194	55.5	71,849	11.9	606,266	100
Rice	3,340	3.2	45,950	44.4	27,676	26.7	26,605	25.7	103,570	100
Beans	366,262	22.0	333,138	20.0	269,514	16.2	695,843	41.8	1,664,756	100
Field Peas	1,051	0.8	25,598	20.1	66,792	52.5	33,863	26.6	127,303	100
Cow Peas	907	1.3	35,822	51.4	29,189	41.9	3,727	5.4	69,644	100
Pigeon Peas		0.0	2,093	3.3	59,549	94.3	1,537	2.4	63,179	100
Groundnuts	89,243	13.7	159,329	24.4	238,044	36.4	167,178	25.6	653,793	100
Simsim	2,006	0.6	34,125	10.6	284,679	88.3	1,503	0.5	322,313	100
Soya Beans	1,943	2.9	28,906	43.3	25,223	37.8	10,645	16.0	66,718	100
Banana (Food)	459,555	33.2	209,283	15.1	19,649	1.4	696,102	50.3	1,384,590	100
Banana (Beer)	57,579	40.2	8,878	6.2	799	0.6	76,019	53.1	143,275	100
Banana (sweet)	31,802	33.5	10,519	11.1	14,164	14.9	38,463	40.5	94,948	100
Cassava	278,854	24.8	373,285	33.2	202,048	18.0	271,150	24.1	1,125,337	100
Sweet Potatoes	277,117	24.2	355,719	31.0	191,305	16.7	321,622	28.1	1,145,763	100
Irish Potatoes	14,775	9.8	1,718	1.1	3,091	2.1	130,711	87.0	150,296	100

図 VII-11 地域別栽培作物状況 (2008 年 2 期作目)<sup>198</sup>

<sup>197</sup> UBOS(2011) “Uganda Census of Agriculture 2008・2009 Volume 1 Summary Report” P.12

<sup>198</sup> UBOS(2011) “Uganda Census of Agriculture 2008・2009 Volume 1 Summary Report” P.13

下記の図 VII-12 は、2009 年度の一期作目であるが、東部地域ではメイズやキャッサバを栽培する農家数が増加し、西部はメイズや豆を栽培した農家数が減少し、北部ではメイズとソルガムの栽培農家が増え、豆やキャッサバが減ったことが分かる。2008 年度二期作目と大差はないが、全体的には、主要メイズ作物を栽培する農家がさらに増え、豆やキャッサバを栽培する農家が減っている。

Table 2.15: Percentage Distribution of Ag HHs by Type of Crop Produced by Region (1st Season 2009)

Region	Central		Eastern		Northern		Western		Total	
	Number	%	Number	%	Number	%	Number	%	Number	%
Maize	340,734	18.6	689,080	37.7	401,781	22.0	397,739	21.7	1,829,333	100
Finger Millet	9,488	2.2	217,617	51.1	164,206	38.5	34,819	8.2	426,130	100
Sorghum	8,348	1.5	209,760	38.6	179,916	33.1	145,066	26.7	543,090	100
Rice	2,844	3.7	46,702	60.8	22,003	28.6	5,319	6.9	76,868	100
Beans	315,853	29.2	349,067	32.2	208,767	19.3	208,767	19.3	1,082,455	100
Field Peas	480	0.7	13,567	18.9	39,454	54.9	18,314	25.5	71,815	100
Cow Peas	782	2.0	23,133	58.6	14,514	36.7	1,066	2.7	39,495	100
Pigeon Peas	0	0.0	1,159	2.4	47,020	96.5	568	1.2	48,748	100
Groundnuts	81,165	10.4	285,975	36.7	217,017	27.8	195,254	25.1	779,410	100
Simsim	3,665	2.8	44,330	34.1	80,342	61.8	1,739	1.3	130,076	100
Soya Beans	3,680	4.3	28,688	33.5	44,039	51.4	9,310	10.9	85,717	100
Banana (Food)	463,866	33.7	217,771	15.8	16,896	1.2	677,529	49.2	1,376,061	100
Banana (Beer)	53,079	37.9	10,463	7.5	852	0.6	75,651	54.0	140,046	100
Banana (sweet)	31,396	36.5	9,692	11.3	5,599	6.5	39,290	45.7	85,976	100
Cassava	271,620	25.9	346,126	33.0	150,262	14.3	279,480	26.7	1,047,488	100
Sweet Potatoes	244,672	26.0	299,686	31.9	100,512	10.7	295,596	31.4	940,465	100
Irish Potatoes	14,636	10.5	4,900	3.5	1,973	1.4	117,964	84.6	139,473	100

図 VII-12 地域別栽培作物状況 (2009 年 1 期作目) <sup>199</sup>

<sup>199</sup> UBOS(2011) "Uganda Census of Agriculture 2008-2009 Volume 1 Summary Report" P.13

図 VII-13 は 2008 年におけるウガンダの作物別単収である。北部の単収が全般に低く、農業生産性が劣っていることが分かる。これらのことから、貧困率が高い北部地域における農業生産性や収益性の検討・改善が重要と考えられる。

Yield (Mt/ha)	Central	Eastern	Northern	Western	Uganda
<b>Maize</b>	2.4	2.9	1.2	2.6	<b>2.3</b>
<b>Finger Millet</b>	2.4	1.2	0.7	1.5	<b>1.1</b>
<b>Sorghum</b>	1.2	1.3	0.7	1.4	<b>0.9</b>
<b>Rice</b>	0.8	3.6	1.7	1.6	<b>2.5</b>
<b>Beans</b>	1.4	0.9	1.7	1.7	<b>1.5</b>
<b>Field Peas</b>	0.6	0.4	0.4	0.4	<b>0.4</b>
<b>Cow Peas</b>	0.2	0.5	0.4	0.7	<b>0.5</b>
<b>Pigeon Peas</b>	0.0	0.2	0.4	0.6	<b>0.4</b>
<b>Groundnuts</b>	1.2	0.6	0.6	0.9	<b>0.7</b>
<b>Simsim</b>	0.2	0.4	0.6	0.6	<b>0.6</b>
<b>Soya Beans</b>	0.3	0.8	0.6	0.9	<b>0.6</b>
<b>Banana(food type)</b>	3.3	5.6	5.1	6.0	<b>5.0</b>
<b>Banana(beer)</b>	2.9	0.8	4.8	3.0	<b>2.8</b>
<b>Banana(sweet type)</b>	1.3	1.0	1.2	2.3	<b>1.6</b>
<b>Cassava</b>	3.2	3.1	3.6	3.4	<b>3.3</b>
<b>Sweet Potato</b>	3.2	5.3	4.8	3.0	<b>4.1</b>
<b>Irish Potato</b>	2.8	3.6	2.2	5.2	<b>4.7</b>
<b>Arabica (old)</b>	0.2	3.4	0.7	1.0	<b>1.4</b>
<b>Robusta (old)</b>	1.3	0.8	0.3	2.7	<b>1.4</b>
<b>Arabica (new)</b>	0.8	2.0	0.8	2.1	<b>1.8</b>
<b>Robusta Clonal</b>	1.7	1.0	0.0	2.7	<b>1.8</b>

図 VII-13 ウガンダ地域別作物単収 (2008 年)<sup>200</sup>

<sup>200</sup> Uganda Bureau of Statistics(UBOS) (2009) “Census of Agriculture 2008-2009 Vol.4 Crop area and production report” P.34～69 Table 3.1～3.20 より作成

次に、農業生産性をあげるために非常に重要な投資資材について見てみる。農業生産性の低さの理由として、農業投資材（種子・肥料・農薬）の利用が少ないことが考えられる。ウガンダで農業投資材を使用している農家の割合を地域と資材別に、図 VII-14 に示す。360 万の農業世帯のうち 91.7%の農家が在来品種の種子を使用しており、西部の農家が最も多く利用している (29.8%)。東部でも多いが、改良されたハイブリッドな種子をより使用していることが分かる (42.7%)。このように東部では、有機肥料や除草剤など他の様々な農業投資財を活用している率が他の地域よりも高く、全体的に北部は少ないことが理解される。

農業生産性の改善のためには、必要で有益な情報を得られるかにも影響を受ける。下記の図 VII-15 によると、ほとんどの農家はさまざまな情報（天候、貸付、農業機械、穀物の種類、病気、マーケティング等）をラジオから入手している。次に農家同士の情報交換によるものとなっており、特にマーケティング情報については、その傾向が高いことが特徴的である。また、農業改良普及員から情報を得る割合はいずれも一桁台に過ぎず、非常に少ない。

Table 2.8: Percentage of holdings that reported Use of Inputs by Type of Agricultural Input

Agricultural Input	% of Ag HHs by Input by Region				Total	
	Central	Eastern	Northern	Western	%	Number
Local seeds	19.5	29.0	21.7	29.8	100	3,276,737
Improved hybrid seeds	19.7	42.7	21.0	16.6	100	1,111,909
Organic Fertiliser	26.7	26.1	7.6	39.6	100	872,521
Inorganic Fertiliser	28	37.4	10.6	24.0	100	285,845
Herbicides	42.3	29.4	7.3	21.0	100	338,973
Fungicides	20.5	39.5	8.2	31.8	100	208,018
Pesticides	18.7	45.4	11.4	24.6	100	630,704
Other pesticides	17.3	45.7	15.4	21.5	100	243,613
Commercially prepared animal feed	31.9	35.2	9.7	23.2	100	124,802
Veterinary Drugs	19.9	37.0	16.8	26.3	100	1,043,214
Artificial Insemination	32.2	23.1	16.7	28.1	100	65,223

図 VII-14 農業投資材の種類における地域別農家の割合（単位：％）<sup>201</sup>

Table 2.4: Percentage of Ag HHs that received Information on Agricultural subject by Source

Source of agric information	Percentage of Ag HHs that received information on agric issue by source						
	Weather	Crop varieties	New agricultural practices	Farm machinery	Credit facilities	Plant diseases and pests	Marketing
Radio	85.0	39.0	35.9	43.8	50.2	37.7	38.1
Television	0.8	0.8	0.6	0.8	0.4	0.3	0.4
Telephone	0.1	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	1.0
Internet	0.0	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1
Newspapers	0.3	0.7	1.0	1.8	1.2	0.6	0.6
Magazines/Bulletins	0.1	0.1	0.3	0.5	0.2	0.4	0.2
Extension workers	0.3	4.5	5.9	3.9	2.7	5.4	2.1
Farmer to Farmer	11.9	43.0	39.5	32.2	35.3	45.4	50.7
NAADS	0.4	9.3	13.4	7.1	4.9	7.7	3.5
Agricultural shows	0.2	1.1	1.6	4.4	0.5	1.1	0.8
Other	0.8	1.4	1.4	5.2	4.4	1.1	2.6
<b>Total</b>	<b>3,258,999</b>	<b>3,134,009</b>	<b>2,806,512</b>	<b>2,007,621</b>	<b>2,299,887</b>	<b>3,046,419</b>	<b>2,890,741</b>

図 VII-15 農家の農業関連情報と情報源の分布<sup>202</sup>

<sup>201</sup> UBOS(2011) "Uganda Census of Agriculture "2008/2009 Vol.1 Summary Report" P.8

ウガンダ政府が実施している農業普及サービスへのアクセスをみると、過去 1 年の間に普及員と接触した農家の割合は、西部が最も多く、北部は少ない (図 VII-16)。国の農業指導サービスが実施している農業研修に参加している人も、北部は他地域の半分程度である (図 VII-17)。

**Table 6.13: Distribution of Agricultural Households visited/not visited by Extension Workers. ('000)**

Region	Agricultural households that responded	
	Yes	(%)
Central	68	22.5
Eastern	87	28.8
Northern	42	14.0
Western	105	34.7
<b>Total</b>	<b>303</b>	<b>(100)</b>

**図 VII-16 普及員の訪問の有無<sup>203</sup>**

(注 : Household survey (2005/06) の実施前 1 年間について)

**Table 6.14: Distribution of Ag HHs with a member having attended a NAADS training program ('000s)**

Region	Agricultural households that responded:	
	Yes	(%)
Central	87	24.4
Eastern	100	28.1
Northern	55	15.4
Western	114	32.0
<b>Total</b>	<b>356</b>	<b>100</b>

**図 VII-17 国家農業指導サービスの訓練プログラムに参加した地域別割合<sup>204</sup>**

(注 : NAADS=National Agricultural Advisory Services)

<sup>202</sup> Uganda Bureau of Statistics "Uganda Census of Agriculture 2008・2009 Volume.1 Summary Report" P.6

<sup>203</sup> UBOS (2007) "Uganda National Household Survey (UNHS) 2005/2006 Report On The Agricultural Module" P.97

<sup>204</sup> UBOS(2006) "UNHS 2005/2006 Report On The Agricultural Module" P.99

作付面積と灌漑の状況を見ると、ウガンダの国土面積のうち 30%が作付されており、灌漑ポテンシャルエリアは 90,000 ha<sup>205</sup> が存在するにもかかわらず、実際には 12,080 ha しか灌漑が整備されていない (図 VII-18~20)。農家世帯の中で、保有地において何らかの灌漑の存在を報告しているのは 31,400 世帯(0.9%)にすぎず、地域的に見ると、灌漑の存在を報告した農家の割合は北部が 8.9%と最も少ない。

LAND AND POPULATION	Year	Value	Unit
<b>Area</b>			
Country total area	2011	24 155	1 000 ha
Cultivated area	2011	8 950	1 000 ha
<b>Population</b>			
Total population	2012	35 621	1 000
Population density	2012	147.5	inhab/km <sup>2</sup>
Rural population	2012	30 744	1 000
Economically active population in agriculture	2012	11 621	1 000

図 VII-18 国土面積と作付面積<sup>206</sup>

WATER MANAGED AREAS	Year	Value	Unit
<b>Area equipped for irrigation</b>			
Full control irrigation	2010	12.08	1 000 ha
surface irrigation (1998)	5.35	1 000 ha	
sprinkler irrigation (1998)	0.23	1 000 ha	
localized irrigation		1 000 ha	
Equipped lowland areas	2010	2.336	1 000 ha
Spate irrigation		-	1 000 ha
<b>Total area equipped for irrigation</b>	2010	14.42	1 000 ha
As percentage of cultivated area	2010	0.1611	%
Actually irrigated	2010	12.45	1 000 ha
<b>Other agricultural water managed area</b>		-	1 000 ha

図 VII-19 灌漑設備の状況<sup>207</sup>

Table 2.11: Presence of Irrigation on the holdings

Region	Ag HHs	%
Central	5,492	17.5
Eastern	16,784	53.5
Northern	2,776	8.9
Western	6,305	20.1
<b>Uganda</b>	<b>31,357</b>	<b>100</b>

図 VII-20 地域別灌漑設備の有無<sup>208</sup>

注 : “Uganda Census of Agriculture (2008/09)” 回答者 3600 万人が対象

<sup>205</sup> FAO (2005) “Aquastat Survey 2005 Uganda” P.8

[http://www.fao.org/nr/water/aquastat/countries\\_regions/UGA/CP\\_UGA.pdf](http://www.fao.org/nr/water/aquastat/countries_regions/UGA/CP_UGA.pdf) (2013/12/05 アクセス)

<sup>206</sup> FAO (2013) “Country Fact Sheet Uganda”

[http://www.fao.org/nr/water/aquastat/data/cf/readPdf.html?f=CF\\_UGA\\_en.pdf](http://www.fao.org/nr/water/aquastat/data/cf/readPdf.html?f=CF_UGA_en.pdf) (2013/12/05 アクセス)

<sup>207</sup> FAO (2013) “Country Fact Sheet Uganda”

<sup>208</sup> UBOS(2011) “Uganda Census of Agriculture 2008-2009 Vol.1” P.9

農産物流通の側面を考えると、コミュニティの道路整備状態は流通コストに影響を与えることから、留意しなければならない。下表から幹線道路舗装路へのアクセスは 19.6%とウガンダでは依然として低いことが分かる(2009 年度)。また北部ではその傾向が顕著であり(5.9%)、流通コストが上昇して地方部の所得に影響を与えることが懸念される。コミュニケーションおよび金融サービスへのアクセスは、全体的に 2005 年度から 2009 年度にかけて改善しているが、いずれの項目も北部が最も低い。

**Table 13.1: Availability of Transport facilities within communities, by region 2009/10 (%)**

Transport facility	2009/10						
	Only dry season feeder roads	All season feeder roads	Trunk road (murrum)	Trunk road (tarmac)	Bus stop	Taxi/ Matatu stop	Railway stop
Kampala	89.1	92.4	37.1	65.7	30.2	69.0	3.1
Central	61.1	94.2	41.1	33.6	21.0	47.2	3.6
Eastern	85.7	86.7	38.4	11.3	17.4	33.7	0.5
Northern	85.2	82.1	50.5	5.9	13.3	22.0	1.5
Western	93.9	65.2	34.9	10.8	16.8	33.7	0.3
<b>Uganda</b>	<b>80.1</b>	<b>83.2</b>	<b>40.2</b>	<b>19.6</b>	<b>18.3</b>	<b>37.5</b>	<b>1.6</b>

**図 VII-21 ウガンダの道路整備率 (2009 年度)<sup>209</sup>**

**Table 13.2: Availability of Communication and Banking facilities within communities, by region 2009/10 (%)**

Type of facility	2009/10			
	Post office	Telephone service	Bank branch office	Micro-credit institution
Kampala	5.9	90.0	4.5	17.4
Central	10.1	80.4	11.4	13.4
Eastern	2.2	77.1	0.8	12.1
Northern	3.4	19.7	0.5	11.7
Western	4.2	84.7	5.5	16.1
<b>Uganda</b>	<b>5.2</b>	<b>70.8</b>	<b>4.8</b>	<b>13.7</b>
Type of facility	2005/06			
	Post office	Telephone service	Bank branch office	Micro-credit institution
Kampala	0.0	100.0	0.0	0.0
Central	1.2	55.6	0.2	3.9
Eastern	1.3	40.2	0.2	4.6
Northern	1.1	12.1	0.3	0.2
Western	0.9	59.1	0.8	7.5
<b>Uganda</b>	<b>1.1</b>	<b>48.5</b>	<b>0.4</b>	<b>4.3</b>

**図 VII-22 コミュニケーションおよび金融サービスへのアクセス<sup>210</sup>**

<sup>209</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.156

<sup>210</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.157

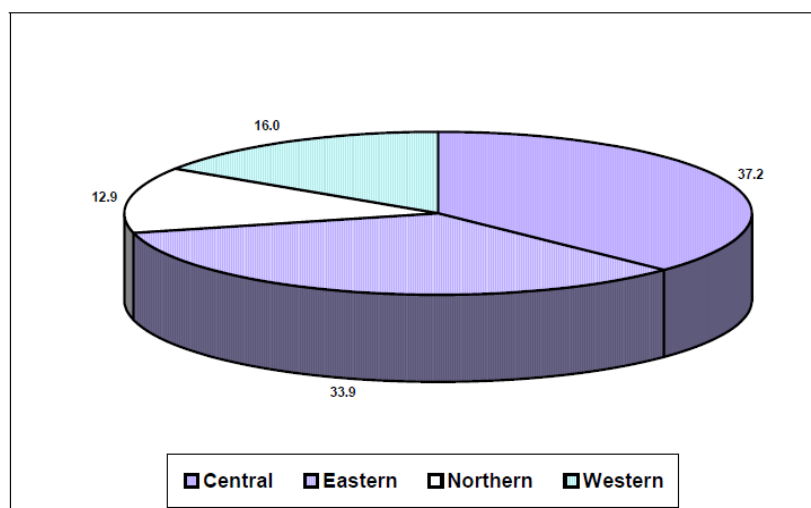


土地所有に関する法律が改定になったことを知らない北部の農家は多い。図 VII-23 に農家世帯主における法律改定に関する知識の有無の地域別割合を示すが、その配偶者についても同様の傾向がみられることがわかっている。情報にアクセスする力も北部は脆弱であることが理解される。

**Table 6.17: Number of Heads of Agricultural Households with Knowledge of about changes in the Land Tenure System ('000)**

Region	Agricultural households that responded	
	Yes	(%)
Central	234	37.3
Eastern	213	33.9
Northern	81	12.9
Western	100	15.9
<b>Total</b>	<b>628</b>	<b>100</b>

**Figure 6.13: Percentage distribution of Agricultural Households Heads regarding Knowledge about changes in land tenure system**



**図 VII-23 農家世帯主の土地所有法改定の知識の有無を地域別にみた割合<sup>211</sup>**

<sup>211</sup> UBOS(2007) “Uganda National Household Survey (UNHS) 2005/2006 Report On The Agricultural Module” P.102  
(なお、同様の配偶者に関する情報の図も同頁に掲載されている)

### 3. 生活環境改善（保健・給水）に向けたインフラやサービス、サービスへのアクセス状況の現状

#### (1) 保健

図 VII-24 に、ウガンダの保健医療施設数の推移を示す。2004 年以降、保健医療施設の数が増加しているが、貧困層が多い北部地域では病院、保健センターとも、数が少ない（図 VII-25）。輸血が可能な医療施設も、貧困層が多い北部に行くほど少なくなる（図 VII-26）。

Table 17: Distribution of Health Facilities by category of Ownership in Uganda

Health Facility Level	2004			2006			2010		
	Govt.	PNFP	PFP	Govt.	PNFP	PFP	Govt.	PNFP	PFP
Hospital	55	42	4	59	46	8	65	57	9
Health Centre IV	151	12	2	148	12	1	165	12	1
Health Centre III	718	164	22	762	186	7	847	243	26
Health Centre II	1,055	388	830	1,332	415	261	1,578	498	958
<b>Total</b>	<b>1979</b>	<b>606</b>	<b>858</b>	<b>2,301</b>	<b>659</b>	<b>277</b>	<b>2,655</b>	<b>801</b>	<b>994</b>

Source: Ministry of Health, Infrastructure Division, 2004, 2006 and 2010

図 VII-24 ウガンダの保健医療施設数（2004～2010 年）<sup>212</sup>

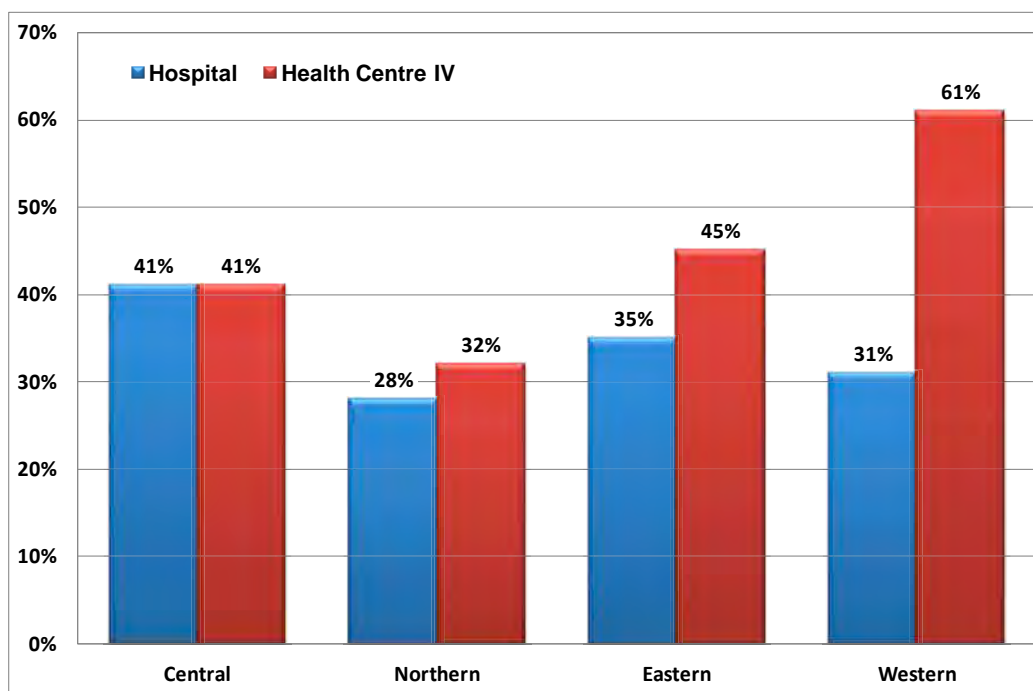


図 VII-25 保健医療施設の地域別分布<sup>213</sup>

<sup>212</sup> Ministry of Finance, Planning and Economic Development (MoFPED), Uganda (2012) "The state of Uganda population report 2012" P.127

[http://mail2.unfpa.or.ug/pub/2012/2012\\_SUPRE.pdf](http://mail2.unfpa.or.ug/pub/2012/2012_SUPRE.pdf) (2013/12/06 アクセス)

<sup>213</sup> "The state of Uganda population report 2012" P.127 Figure 7.9 を元に作成

Map 14. Location of health facilities providing emergency blood transfusion, by district

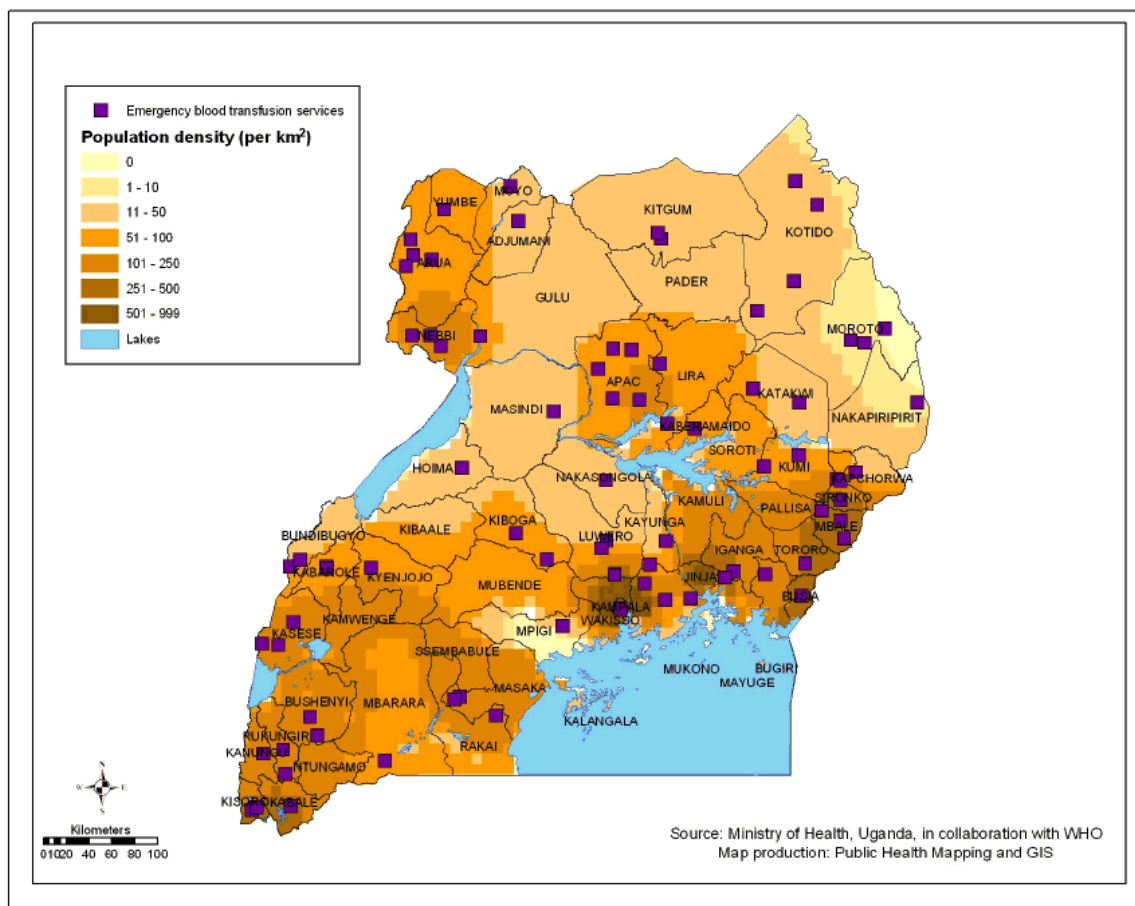


図 VII-26 ウガンダにおける輸血可能な保健施設の分布 (2006 年)<sup>214</sup>

<sup>214</sup> WHO and Ministry of Health, Uganda (2006) “Service Availability Mapping” P.27  
[http://www.unfpa.org/webdav/site/global/shared/documents/publications/2010/srh\\_guide/Docs/SAM/SAM\\_report\\_Uganda.pdf](http://www.unfpa.org/webdav/site/global/shared/documents/publications/2010/srh_guide/Docs/SAM/SAM_report_Uganda.pdf)  
(2013/12/05 アクセス)

妊産婦死亡率や避妊具普及率等の地域別データは集計されていないが、「医師・助産婦の立ち会いによる出産の割合」については、地域別データが取られている。立ち会い出産率は、首都カンパラでは 93.0%、都市部全体では 89.1%に達しているが、地方になると 52.8%と大きく下がり、北部貧困地域に至ってはさらにその地方平均以下の値になることがわかっている。

Table 9.7 Assistance during delivery

Percent distribution of live births in the five years preceding the survey by person providing assistance during delivery, percentage of birth assisted by a skilled provider, and percentage delivered by caesarean-section, according to background characteristics, Uganda 2011

Background characteristic	Person providing assistance during delivery								Total	Percentage delivered by a skilled provider <sup>1</sup>	Percentage delivered by C-section	Number of births
	Doctor	Nurse/midwife	Medical assistant/clinical officer	Nursing aide	Traditional birth attendant	Relative/friend/other	No one	Don't know/missing				
<b>Mother's age at birth</b>												
<20	9.2	57.5	0.4	1.1	16.7	13.0	2.0	0.1	100.0	67.1	6.5	1,351
20-34	6.9	49.6	0.7	1.2	18.7	15.8	7.1	0.2	100.0	57.1	5.1	5,632
35-49	6.1	44.7	0.5	1.8	18.5	15.3	13.1	0.1	100.0	51.3	4.6	1,092
<b>Birth order</b>												
1	12.7	60.6	0.5	0.6	14.1	10.3	1.2	0.1	100.0	73.7	9.3	1,423
2-3	8.2	53.0	0.8	1.4	19.4	13.4	3.8	0.1	100.0	62.0	6.1	2,523
4-5	5.9	47.1	0.3	1.5	19.4	17.4	8.4	0.1	100.0	53.2	4.2	1,816
6+	3.6	43.3	0.7	1.3	18.9	18.7	13.1	0.3	100.0	47.6	2.6	2,313
<b>Place of delivery</b>												
Health facility	12.4	84.3	0.9	1.4	0.4	0.4	0.2	0.0	100.0	97.6	9.2	4,633
Elsewhere	0.2	4.4	0.1	1.1	42.5	35.3	16.3	0.1	100.0	4.7	0.0	3,433
<b>Residence</b>												
Urban	20.5	68.1	0.5	1.2	4.8	4.0	0.9	0.0	100.0	89.1	13.7	1,147
Rural	5.0	47.3	0.6	1.3	20.5	17.1	8.1	0.2	100.0	52.8	3.9	6,928
<b>Region</b>												
Kampala	29.5	63.2	0.2	0.8	3.7	1.8	0.7	0.0	100.0	93.0	17.8	489
Central 1	14.0	45.9	2.0	2.4	25.9	7.4	2.3	0.0	100.0	62.0	7.8	797
Central 2	4.9	63.4	1.6	0.6	14.0	11.3	4.2	0.0	100.0	69.9	5.8	842
East Central	3.6	63.1	0.5	3.2	9.5	11.4	8.3	0.4	100.0	67.1	4.1	923
Eastern	3.1	48.7	0.2	0.8	17.4	22.2	7.7	0.0	100.0	51.9	2.5	1,358
Karamoja	1.9	28.8	0.0	0.1	18.4	47.3	3.4	0.0	100.0	30.8	1.1	322
North	4.6	48.5	0.3	1.3	37.0	6.3	2.0	0.0	100.0	53.4	2.5	704
West Nile	4.1	53.7	0.7	2.2	13.8	16.7	8.4	0.5	100.0	58.5	4.6	484
Western	6.6	48.8	0.4	1.0	20.3	15.7	6.8	0.4	100.0	55.8	5.5	1,177
Southwest	7.1	34.3	0.1	0.3	19.1	20.3	18.9	0.0	100.0	41.5	4.9	978
<b>Mother's education</b>												
No education	3.4	34.0	0.3	0.6	22.3	27.7	11.5	0.3	100.0	37.7	2.6	1,161
Primary	5.2	49.0	0.6	1.3	20.3	15.8	7.6	0.1	100.0	54.8	4.0	5,161
Secondary +	15.5	64.6	0.8	1.5	9.7	5.3	2.5	0.0	100.0	80.8	10.9	1,754
<b>Wealth quintile</b>												
Lowest	3.6	39.7	0.2	0.6	23.2	24.7	7.9	0.1	100.0	43.5	2.2	1,812
Second	3.3	45.2	0.3	1.4	22.0	18.2	9.3	0.2	100.0	48.9	3.2	1,727
Middle	4.9	48.4	1.1	1.6	17.8	15.9	10.3	0.1	100.0	54.4	3.9	1,616
Fourth	6.0	53.1	0.4	1.4	21.6	11.5	5.7	0.3	100.0	59.6	5.7	1,425
Highest	19.5	68.0	0.9	1.4	5.6	3.3	1.3	0.0	100.0	88.4	12.6	1,496
<b>Total</b>	<b>7.2</b>	<b>50.2</b>	<b>0.6</b>	<b>1.3</b>	<b>18.3</b>	<b>15.3</b>	<b>7.0</b>	<b>0.1</b>	<b>100.0</b>	<b>58.0</b>	<b>5.3</b>	<b>8,076</b>

Note: If the respondent mentioned more than one person attending during delivery, only the most qualified person is considered in this tabulation.  
<sup>1</sup> Skilled provider includes doctor, nurse/midwife, or medical assistant/clinical officer.

図 VII-27 ウガンダの出産環境 (2011 年) (再掲)<sup>215</sup>

<sup>215</sup> UBOS(2011) "UDHS 2011" P.113

## (2) 給水・衛生

安全な飲料水にアクセスできるか否かは、人間が生きていくうえで重要な条件であり、様々な取り組みがなされてきている中でも改善がみられる分野である。安全な水を継続して利用できる人口の割合は 68%まで上昇しており、特に地方における改善度合いが大きい（図 VII-28）。

しかし、飲料水へのアクセスを距離でみた場合、都市部は平均 0.2 km、地方では平均 0.8 km である。さらに、飲料水へのアクセスを時間でみた場合の都市部は平均 14.5 分、地方では平均 29 分であり、地方では改善の余地が未だ大きい（図 VII-29）。

Table 13: Target 7.C Halve, by 2015, the proportion of people without sustainable access to safe drinking water and basic sanitation

STATUS OF PROGRESS: ON TRACK				
	1999/2000	2002/2003	2005/2006	2014/2015 target
7.8 Proportion of population using an improved drinking water source (urban/rural)	57% (87%/51%)	63% (87%/58%)	68% (87%/64%)	89% (100%/70%)
7.9 Proportion of population using an improved sanitation facility (urban/rural)	n/a	n/a	(74%/62%)*	(100%/77%)

Sources: UNHS (1999/2000, 2002/2003, 2005/2006); NDP 2010/11-2014/15.  
Notes: \* Year is 2007/2008.

### 図 VII-28 安全な飲料水へのアクセス（再掲）<sup>216</sup>

Table 9.10: Distance to Main Water Source of Drinking water by Residence (%)

Distance to water source (Km)	2005/06			2009/10		
	Urban	Rural	Uganda	Urban	Rural	Uganda
0.0-0.5	88.6	60.0	64.5	88.0	55.9	61.5
0.5-1.00	8.3	20.5	18.5	9.5	21.6	19.5
1.01-1.50	1.1	4.3	3.8	0.5	4.9	4.1
1.51-3.00	1.3	11.8	10.2	1.9	14.2	12.1
Above 3	0.9	3.4	3.0	0.2	3.4	2.8
<b>Total</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
<b>Average distance</b>	<b>0.4</b>	<b>0.9</b>	<b>0.8</b>	<b>0.2</b>	<b>0.8</b>	<b>0.7</b>
<b>Average waiting time(minutes)</b>	<b>30.0</b>	<b>45.8</b>	<b>42.5</b>	<b>14.5</b>	<b>29.0</b>	<b>26.7</b>

### 図 VII-29 地域別安全な水へのアクセス（2005 年度/2009 年度）<sup>217</sup>

<sup>216</sup> MoFPED, Uganda(2010) “MDG Goals Reports for Uganda 2010” P.30

<sup>217</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.123

図 VII-30 はウガンダ全土の安全な水へのアクセス状況であるが、貧困層の多い北部地域であっても、水へのアクセス状況は場所によって大幅に異なっている。また、中部～南部も安全な飲料水へのアクセスが困難な地域が存在する。

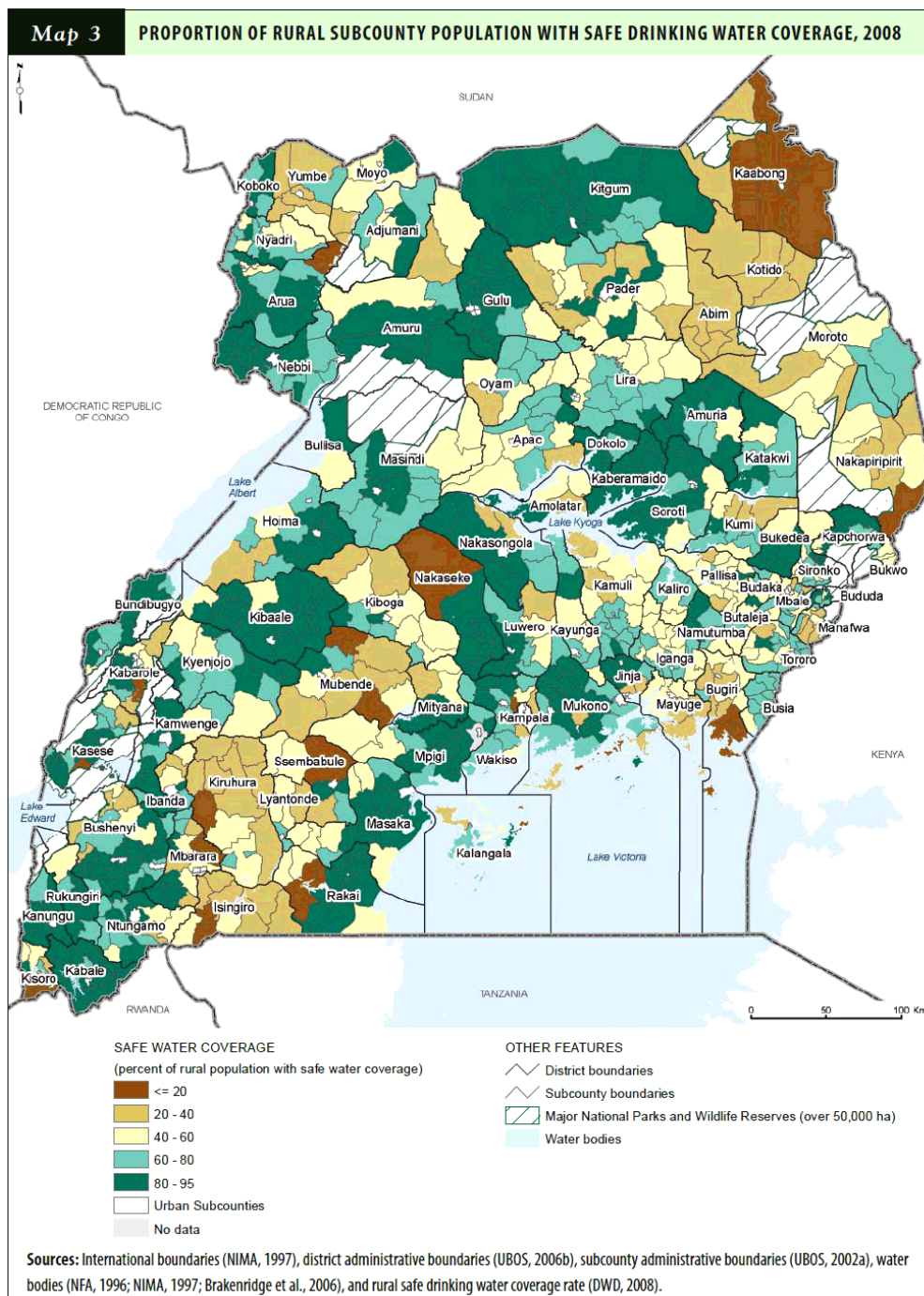


図 VII-30 ウガンダにおける安全な飲料水へのアクセス状況 (2008 年)<sup>218</sup>

<sup>218</sup> Ministry of Health/Ministry of Water and Environment/Uganda Bureau of Statistics/International Livestock Research Institute/World Resources Institute (2009)  
“Mapping a Healthier Future - How Spatial Analysis Can Guide Pro-Poor Water and Sanitation Planning in Uganda” P.19  
[http://www.wri.org/sites/default/files/pdf/mapping\\_a\\_healthier\\_future.pdf](http://www.wri.org/sites/default/files/pdf/mapping_a_healthier_future.pdf) (2013/12/05 アクセス)

衛生施設は、都市部では水洗トイレが 10.2%普及しているが、地方では 0.3%にとどまっている。地域別に見ると、北部では屋外（トイレなし）の割合が 24.9%と一番高い。

**Table 9.8: Distribution of Households by Type of Toilet Facilities, Residence and Region (%)**

Residence	2009/10				Total
	Pit Latrine	V.I.P	Flush	Bush/ no toilet	
Rural	86.8	2.5	0.3	10.3	100
Urban	80.0	8.6	10.2	1.3	100
<b>Region</b>					
Kampala	87.4	7.6	3.2	1.8	100
Central	75.9	10	14.1	0.0	100
Eastern	86.1	1.9	0.6	11.4	100
Northern	72.9	1.9	0.3	24.9	100
Western	95.7	1.2	0.8	2.3	100
<b>Uganda</b>	<b>85.5</b>	<b>3.7</b>	<b>2.2</b>	<b>8.7</b>	<b>100</b>

図 VII-31 衛生施設のタイプ別にみた世帯割合（2009 年度）<sup>219</sup>

<sup>219</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.120

衛生施設の状況を見た場合、中部～南部は比較的衛生施設が整備されているのに対し、北部地域の状況はきわめて悪く、貧困層の分布地域と重なっている (図 VII-32)。

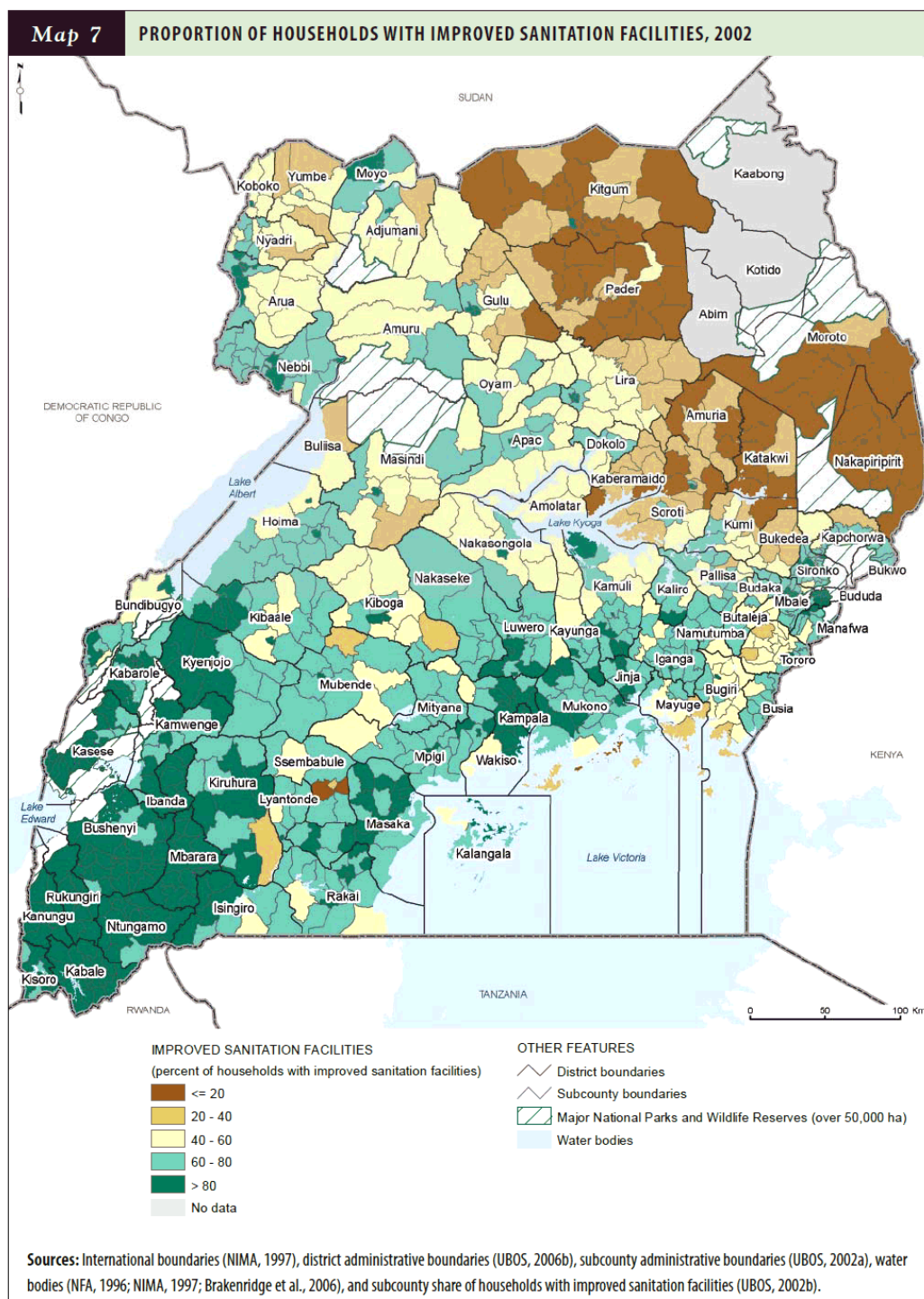


図 VII-32 ウガンダにおける衛生施設の状況 (2002 年) <sup>220</sup>

<sup>220</sup> “Mapping a Healthier Future - How Spatial Analysis Can Guide Pro-Poor Water and Sanitation Planning in Uganda” P.32



## 4. 北部地域における平和構築

ウガンダ北部地域における国内避難民帰還・定住を支援するための生活基盤整備などを実施し、地域間格差（北部および中・南部との格差）是正に貢献することが重視されている<sup>221</sup>。よって、「北部と南部間格差」と「紛争による貧困」との関係性を検討するために、北部地域の社会生活基盤をはじめとする現状の課題点や背景、そして紛争との相関関係など検証する。

### (1) 北部地域の概略と現状

ウガンダの北部地域は 1980 年代以降、LRA を初めとする武装勢力により、20 年以上紛争状態にあり、その間は地方政府機能が事実上停止し、社会・経済インフラが破壊され、200 万人もの国内避難民 (IDP) が発生したと言われている。また、子どもは誘拐されて強制的に軍の兵士に編入させられたり (P.60 「紛争により発生した社会的排除グループ」参照)、一般市民への暴力行為が行われたことも指摘されているが、「神の抵抗軍」との和平交渉開始により治安は大幅に改善し、2008 年頃から IDP の帰還が本格化した。しかし、帰還した人々は、IDP キャンプ時に得ていた人道緊急援助がなくなり、厳しい生活環境に直面している。

現在は、緊急・人道支援から復興・開発フェーズへと移行し、長期間の内戦によって開発が遅れている北部地域では、生活基本インフラが著しく不足している状況であり、帰還避難民の定住促進に向けては多くの課題が残されている。この状況の改善のため、ウガンダ政府は 2007 年に北部復興開発計画 (PRDP: *Peace Recovery and Development Plan for Northern Uganda*) を策定し、開発資金を北部へ重点的に配分している。

この PRDP では、55 の Districts と 9 の Municipalities をカバーしており、北部ウガンダの安定に向けて北部とそれ以外の地域の格差を埋めるために、コミュニティの社会経済開発を促進させる目的を持っている。これら 55 の Districts には、ウガンダの人口のうち約 38% が住んでおり、そのうちの 3 分の 1 が紛争や牛の窃盗の影響を著しく受けてきている<sup>222</sup>。

紛争の影響を受けている地域は、次の図 VII-33～35 の通りである。なお、紛争のインパクトは、PRDP によって、①紛争または牛の窃盗被害の影響を強く受けている、②点在する紛争および牛の窃盗被害の影響を受けている、③紛争余波がある、の 3 つに区分されている。

図 VII-33 では、紛争の影響を受けている地域はピンク色、時々影響がある地域は薄青緑色、余波がある地域は濃い青色で示しており、北部圏内の北中・北東部に位置する Acholi や Karamoja 等は影響がまだあることが分かる。West Nile や北部圏内南部は、時々紛争の影響を受け、同圏内の南東部や西の一部は紛争の余波がある状況である。さらに詳しい情報は、図 VII-34 と図 VII-35 において、上記①～③の 3 区分による紛争影響情報を示す。

<sup>221</sup> 日本国外務省 (2012) 「対ウガンダ共和国 国別援助方針」

<sup>222</sup> Office of the Prime Minister, Uganda (OPM) (2011) “Mid Term review of the Peace, Recovery and Development Plan (PRDP) for Northern Uganda” P.i-ii

Map 1: PRDP Conflict Impact by Sub-region

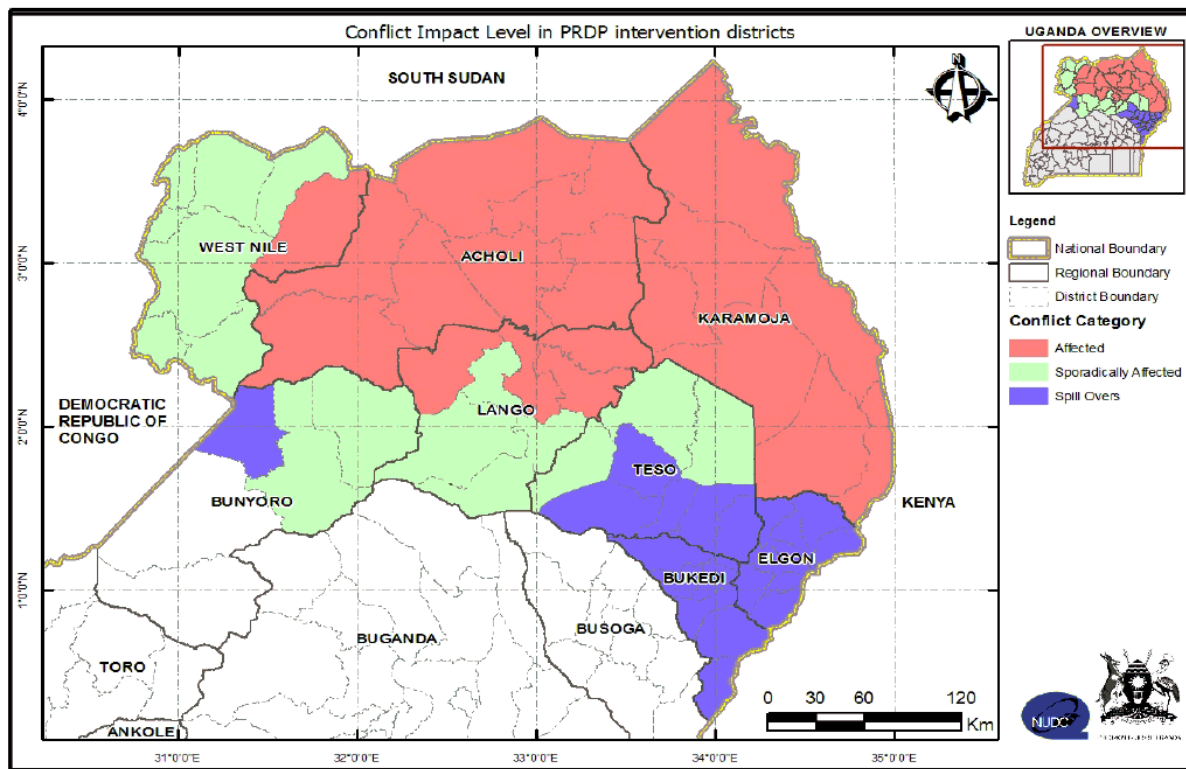


図 VII-33 PRDP 所轄の紛争影響地域と状況 (2011 年) <sup>223</sup>

<sup>223</sup> OPM, Uganda(2011) “Mid Term review of the Peace, Recovery and Development Plan(PRDP) for Northern Uganda” P.1

## Annexes

### Annex 1: PRDP Districts & Municipalities by Sub-region and Conflict-impact rating

Sub Region	District/Municipality	Conflict Impact
Acholi	Agago	1
Acholi	Amuru	1
Acholi	Gulu	1
Acholi	Gulu Municipality	1
Acholi	Kitgum	1
Acholi	Lamwo	1
Acholi	Nwoya	1
Acholi	Pader	1
Bukedi	Budaka	3
Bukedi	Busia	3
Bukedi	Busia Municipality	3
Bukedi	Butaleja	3
Bukedi	Kibuku	3
Bukedi	Pallisa	3
Bukedi	Tororo	3
Bukedi	Tororo Municipality	3
Bunyoro	Buliisa	3
Bunyoro	Kiryandongo	2
Bunyoro	Masindi	2
Bunyoro	Masindi Municipality	2
Elgon	Bududa	3
Elgon	Bukwo	3
Elgon	Bulambuli	3
Elgon	Kapchorwa	3
Elgon	Kween	3
Elgon	Manafwa	3
Elgon	Mbale	3
Elgon	Mbale Municipality	3
Elgon	Sironko	3
Karamoja	Abim	1
Karamoja	Amudat	1
Karamoja	Kaabong	1
Karamoja	Kotido	1
Karamoja	Moroto	1
Karamoja	Moroto Municipality	1
Karamoja	Nakapiripirit	1
Karamoja	Napak	1

#### CONFLICT IMPACT KEY:

**Category 1:** Severely conflict or cattle rustling affected

**Category 2:** Sporadically conflict and/or cattle rustling affected

**Category 3:** Conflict spillovers

図 VII-34 地域別の紛争影響状況<sup>224</sup>

注：Acholi：北部（Northern District）または中北部(North Central)等の表記が政府資料によって見られるが、本プロファイルでは「中北部」（Mid Northern）（Uganda Bureau Statistics(2012)より）で統一している。

Bukedi：Eastern District に含めた表記等もあるが、本プロファイルでは「East Central」で統一。理由は上記同様。

Bunyoro：上記同様に、Western District に含めた表記等もあるが、本プロファイルでは「Mid Western」で統一。

Elgon：上記同様に、Eastern District に含めた表記等もあるが、本プロファイルでは「Mid Eastern」で統一。

Karamoja：上記同様に、Northeastern に含めた表記等もあるが、本プロファイルでは「北東部」（North East）で統一。

\*ウガンダ国の場合、行政区分の変更（分離や再編成等）が多いため注意を有する。

<sup>224</sup> OPM, Uganda(2011) “Mid Term review of the Peace, Recovery and Development Plan(PRDP) for Northern Uganda” P.27

Annex 1 continued: PRDP Districts & Municipalities by Sub-region and Conflict-impact rating

Sub Region	District/Municipality	Conflict Impact
Lango	Alebtong	1
Lango	Amolatar	2
Lango	Apac	2
Lango	Dokolo	2
Lango	Kole	2
Lango	Lira	1
Lango	Lira Municipality	1
Lango	Otuke	1
Lango	Oyam	1
Teso	Amuria	2
Teso	Bukedea	3
Teso	Kaberamaido	2
Teso	Katakwi	2
Teso	Kumi	3
Teso	Ngora	3
Teso	Serere	3
Teso	Soroti	3
Teso	Soroti Municipality	3
West Nile	Adjumani	1
West Nile	Arua	2
West Nile	Arua Municipality	2
West Nile	Koboko	2
West Nile	Maracha	2
West Nile	Moyo	2
West Nile	Nebbi	2
West Nile	Yumbe	2
West Nile	Zombo	2

図 VII-35 地域別の紛争影響状況<sup>225</sup>

注：Lango: Northern District に含めた表記等もあるが、本プロフィールでは「North East」で統一。  
(Uganda Bureau Statistics(2012)より)

Teso: Eastern District に含めた表記等もあるが、本プロフィールでは「North East」で統一。

West Nile: Northern District に含めた表記等もあるが、本プロフィールでは「West Nile」(West Nile)で統一。

2007年に策定された最初のPRDPのレポートによれば、紛争の影響下にある北部地域をNorth West地域(現: West Nile地域)、North Central地域(現: Mid Central地域)、North East地域(現: Karamoja地域)と3区分し、特徴などを記述している。例えば、3地域の共通項としては、①所得創出のための経済活動は農業、②所得金額(月額15,000-17,000ウガンダシリング程度)、③宗教(カソリック、プロテスタント、イスラム等)、④平均寿命(44-48歳)、などがあげられ、大差はない。異なる点としては、①各地域には独自の主要言語があり、重複しないこと、②識字率については、他2地域と比較して、Karamojaが非常に低いこと、があげられる<sup>226</sup>。また、北部地域の中でも西部と東部は干ばつの脅威があり、中央部は多くの人口が流動している特異性が指摘されている<sup>227</sup>。

<sup>225</sup> OPM, Uganda(2011) “Mid Term review of the Peace, Recovery and Development Plan(PRDP) for Northern Uganda” P.27

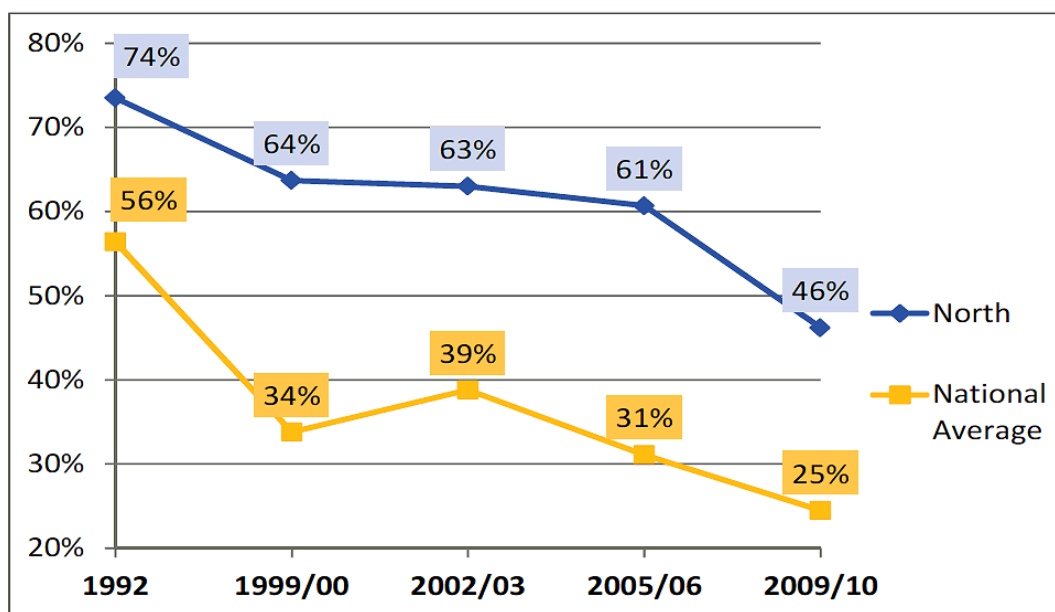
<sup>226</sup> The Republic of Uganda (2007) “Peace, Recovery and Development Plan for Northern Uganda (PRDP) 2007-2010” P.xii

<sup>227</sup> The Republic of Uganda (2007) “Peace, Recovery and Development Plan for Northern Uganda (PRDP) 2007-2010” P.30

## (2) 北部地域の貧困状況

はじめに、ここ 20 年間におけるウガンダ北部と全国の貧困度合いの状況を図 VII-36 に示す。1992 年時点では、北部人口の 74%が貧困ライン以下であり、全国平均では 56%であった。その後、北部と全国平均の双方の貧困度合いは徐々に減少してきているが、両者の格差はあまり縮小されていない。しかしながら、人口増加によって北部貧困層の人口も増えたものの、貧困率が減少（北部は、1999 年度から 2005 年度までの貧困減少がほぼ横ばい状態であったものの、2005 年度から 2009 年度の間に貧困率が 15%減少）していることから、改善に向かっていることは分かる。ウガンダにおける総貧困層（420 万人）の 56%の人々は、PRDP の対象区域に住んでいる<sup>228</sup>。

Chart 1: % of the population living in poverty 1992 – 2009/10<sup>3</sup>



<sup>3</sup> Source: Uganda Bureau of Statistics National Household Surveys

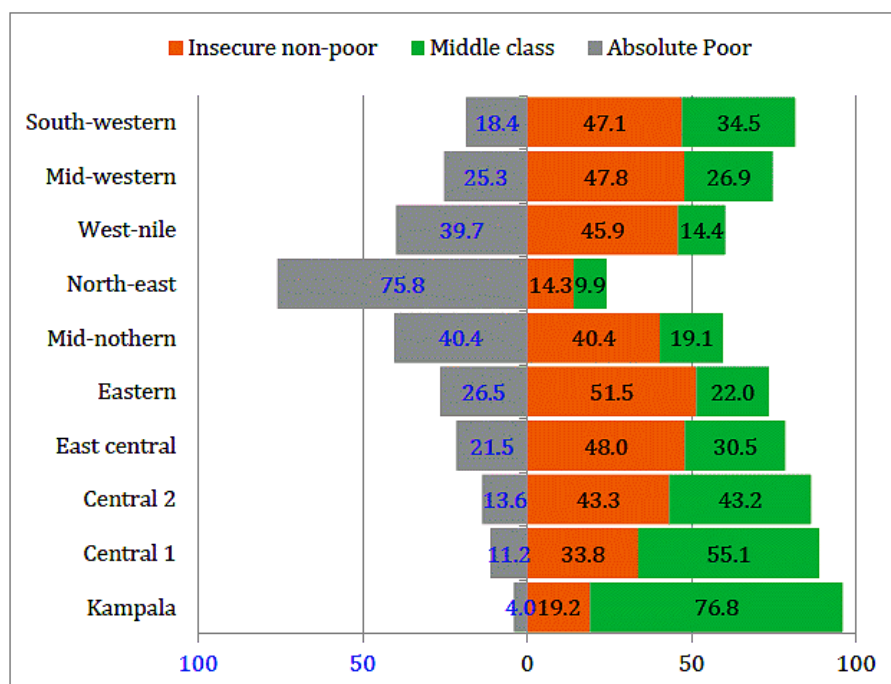
図 VII-36 居住人口の貧困割合：  
北部地域と全国平均比（1992 年～2009 年度）（再掲）<sup>229</sup>

<sup>228</sup> OPM, Uganda(2011) “Mid Term review of the Peace, Recovery and Development Plan(PRDP) for Northern Uganda” P.3

<sup>229</sup> OPM, Uganda(2011) “Mid Term review of the Peace, Recovery and Development Plan(PRDP) for Northern Uganda” P.2

次に、「Poverty Status Report」による北部 3 地域の貧困度合 (図 VII-37) を見てみると、West Nile 地域と Mid-northern 地域は絶対的貧困層が約 40%、North-east 地域は 75.8%となっており、他地域よりも絶対的貧困層の発生頻度が高いことが特徴的である。

Figure 2.4: Sub-national picture in 2009/2010



Notes: Sub-region of North East includes the districts of Kotido, Abim, Moroto, Kaabong, Nakapiripiti, Katwaki, Amuria, Bukedea, Soroti, Kumi and Kaberamaido; Mid-Northern includes Gulu, Amuru, Kitgum, Pader, Apac, Oyam, Lira, Amolatar and Dokolo; West Nile includes Moyo, Adjumani, Yumbe, Arua, Koboko, Nyadri, and Nebbi; Mid-Western includes Masindi, Bullisa, Hoima, Kibaale, Bundibugyo, Kabarole, Kasese, Kyenjojo and Kamwenge; South Western includes Bushenyi, Rukungiri, Kanungu, Kabale, Kisoro, Mbarara, Ibanda, Isingiro, Kiruhura and Ntungamo; Mid-Eastern includes Kapchorwa, Bukwa, Mbale, Bududa, Manafwa, Tororo, Butaleja, Sironko, Paliisa, Budaka and Busia; Central 1 includes Kalangala, Masaka, Mpigi, Rakai, Lyantonde, Sembabule and Wakiso; Central 2 includes Kayunga, Kiboga, Luwero, Nakaseke, Mubende, Mityana, Mukono and Nakasongola; East Central includes Jinja, Iganga, Namutumba, Kamuli, Kaliro, Bugiri and Mayuge; and Kampala.

図 VII-37 ウガンダ各地域の貧困状況 (2009 年度) <sup>230</sup>

<sup>230</sup> MoFPED, Uganda(2012) "Poverty Status Report" P.21

Table 6.9: Poverty Estimates in the UNHS IV (2009/10) by Sub-region

Sub-region	Pop. Share	Mean CPAE	Poverty estimates			Contribution to:		
			P0	P1	P2	P0	P1	P2
Kampala	5.0	155,260	4.0	0.6	0.2	0.8	0.5	0.3
Central 1	11.2	101,418	11.2	2.3	0.7	5.1	3.8	2.9
Central 2	10.2	72,213	13.6	3.4	1.2	5.6	5.2	4.4
East central	13.1	53,733	21.4	4.8	1.7	11.5	9.4	8.2
Eastern	16.5	46,499	26.5	6.5	2.3	17.9	15.9	13.8
Mid-northern	9.8	41,541	40.4	12.2	5.4	16.1	17.6	19.0
North-east	3.4	31,323	75.8	35.0	19.1	10.5	17.5	23.3
West Nile	6.9	39,127	39.7	10.7	4.2	11.1	10.8	10.4
Mid-western	11.7	48,737	25.3	6.6	2.7	12.1	11.5	11.4
South-western	12.3	63,389	18.4	4.3	1.4	9.2	7.8	6.3

Notes: Sub-region of North East includes the districts of Kotido, Abim, Moroto, Kaabong, Nakapiripiriti, Katwaki, Amuria, Bukedea, Soroti, Kumi and Kaberamaido; Mid-Northern included Gulu, Amuru, Kitgum, Pader, Apac, Oyam, Lira, Amolatar and Dokolo; West Nile includes Moyo, Adjumani, Yumbe, Arua, Koboko, Nyadri, and Nebbi; Mid-Western includes Masindi, Bullisa, Hoima, Kibaale, Bundibugyo, Kabarole, Kasese, Kyenjojo and Kamwenge; South Western includes Bushenyi, Rukungiri, Kanungu, Kabale, Kisoro, Mbarara, Ibanda, Isingiro, Kiruhura and Ntungamo; Mid-Eastern includes Kapchorwa, Bukwa, Mbale, Bududa, Manafwa, Tororo, Butaleja, Sironko, Paliisa, Budaka and Busia; Central 1 includes Kalangala, Masaka, Mpigi, Rakai, Lyantonde, Sembabule and Wakiso; Central 2 includes Kayunga, Kiboga, Luwero, Nakaseke, Mubende, Mityana, Mukono and Nakasongola; East Central includes Jinja, Iganga, Namutumba, Kamuli, Kaliro, Bugiri and Mayuge; and Kampala.

図 VII-38 ウガンダの地域別貧困状況 (2009 年度) (再掲)<sup>231</sup>

図 VII-38 の貧困ギャップ率および 2 乗貧困ギャップ率から、北東部は貧困の度合（深刻さ）がかなり高いことが分かる。北東部は、Karamoja 地域を含んでいるが、現在も紛争や、牛などの家畜の窃盗被害の影響を強く受けている地域と重なっている。

PRDP は、フェーズ 1 (2009 年 7 月～2012 年 6 月) とフェーズ 2 (2012 年 7 月から 2015 年 6 月) の 2 つに区分される包括的なプログラムであり、OPM の調整管理のもとに進められている<sup>232</sup>。目標は、ウガンダの北部地域が主要な社会経済指標において、全国平均レベルに達することである。

<sup>231</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.76

<sup>232</sup> Office of the Prime Minister(OPM), Uganda (2012) “Monitoring and Evaluation Framework for PRDP 2” P.17

ウガンダ統計局が測定している 6 つの社会経済指標が、PRDP のモニタリングにおけるインパクト指標として選択されており<sup>233</sup>、図 VII-39 のようになっている<sup>234</sup>。この図を見ると北部地域は、貧困ライン以下の人口割合、一日の食事回数が一回だけの者、18 歳以下の家族員でブランケットを持たない者がいる世帯の割合、一足の靴も持たない家族員がいる世帯割合が全国平均よりも高い。また、屋根が鉄板の家庭の割合、10 歳以上の男女の識字率は全国平均よりも低い。また、West Nile、North-east、Mid-northern の 3 地域においても、上記と同様の傾向が見られるが、一日の食事回数が一回だけの者の割合は、West Nile は最も少ない。

Table 2: PRDP Impact Indicators with Baseline Values for 2009/2010

Intervention Logic	Indicator	National	North	Mid-northern	North-east	West Nile
<b>Overall goal:</b> <i>Consolidate peace and strengthen the foundations for development in Northern Uganda.</i>	Proportion of population below the poverty line	25%	46%	40%	76%	40%
	Persons getting only one meal per day <sup>13</sup>	9%	20%	21%	36%	8%
<b>General target:</b> <i>Districts of Northern Uganda achieve national average level of the main socio-economic indicators.</i>	% of household members under 18 years not possessing a blanket <sup>14</sup>	57%	79%	77%	94%	85%
	% of households not possessing at least one pair of shoes per member <sup>15</sup>	42%	68%	73%	84%	54%
	% of homes roofed with iron sheets	60%	13%	14%	17%	10%
	Literate persons 10 years and above – female	66%	52%	56%	33%	44%
	Literate persons 10 years and above – male	79%	77%	81%	50%	81%

Source: Uganda National Household Survey (UNHS)

図 VII-39 PRDP のインパクト指標 (2009 年度のベースライン値) <sup>235</sup>

Note<sup>236</sup>:

- 1) Indicators from the Uganda Demographic and Health Survey (UDHS) have not been included in the PRDP monitoring system because the UDHS is only conducted every five years and the timing(2006,2011 and 2016) does not correspond to the implementation of PRDP.
- 2) An estimated 90% or more of the interventions under PRDP are located in the three UBOS (Uganda Bureau of Statistics) sub regions.
- 3) The literacy rate for men is the only exception. This could be an effect of large part of population of Acholi and West Nile having stayed for extended periods in IDP camps with high primarily enrolment.
- 4) The UNHS records information on the average number of meals taken by household members per day in the last 7 days preceding the survey. A meal is considered to be any substantial amount of food eaten at one time. It could be of any of the usual occasions such as breakfast, lunch or dinner.
- 5) The UNHS targets children less than 18 years and records whether each has a blanket of their own. Shared blankets are only counted on one child.
- 6) The pair of shoes considered by UNHS is one in good excluding slippers, type shoes (lugabire) and gumboots.

<sup>233</sup> Office of the Prime Minister, Uganda(2012) “Monitoring and Evaluation Framework for PRDP 2” P.ii

<sup>234</sup> OPM, Uganda(2012) “Monitoring and Evaluation Framework for PRDP 2” P.18

なお、UBOS のデータは、地理的に北部地域とされている地域を全て含んではない。UBOS の北部とは、西ナイル、Acholi、Lango、カラモジャを指しており、PRDP の所轄の 80%をカバーしている(P.18)。

<sup>235</sup> OPM, Uganda (2012) “Monitoring and Evaluation Framework for PRDP 2” P.19

<sup>236</sup> OPM, Uganda (2012) “Monitoring and Evaluation Framework for PRDP 2” P.18-19



「Peace, Recovery and Development Plan for Northern Uganda (PRDP) 2007-2010」には、健康指標における北部と全国レベルを比較した図が示されている (図 VII-40)。妊産婦死亡率は、出生 10 万対 650 で全国レベルの出生 10 万対 480 よりも 170 多く、平均寿命も 4 歳程北部地域が短い (West Nile だけは全国レベルよりも若干長い)。安全な水や保健医療施設へのアクセス率なども北部地域の方が低い。

Table 4.4: Comparing the health indicators in the North with the national levels.

Indicators	National status	Northern Status	Target
Maternal mortality rate	480 : 100,000	650/100,000	
Infant mortality rate	82 : 1000	1.54/10,000/day	
Life expectancy	48.1	44.3 for North West and North Central; 48.6 for North East	
Access to clean water (Int. standard 20lts/person/day)	60%	52%	67%
Access to health facilities o/w Access to malaria treatment within 24 hrs of onset	74%		
% of children under 1 year of age receiving DPT	77%	50%	85%
Available essential medicines in health centres	57.5%		
Nutritional levels		5-10%	
Fertility rate	7 : 1		4:1
HIV/AIDS prevalence	7%	3% in Northwest; 9% in North Central and 4% in North East	
Sanitation		20 persons per latrine	

図 VII-40 保健指標に関するウガンダ北部と全国平均の比較 (2006 年)<sup>237</sup>

<sup>237</sup> The Republic of Uganda (2007) "Peace, Recovery and Development Plan for Northern Uganda (PRDP) 2007-2010" P.71

健康指標の状況に補足して、トイレの状況を下の図 VII-41 に示す。北部地域において顕著なことは、藪の中でトイレをすませるまたはトイレの無い人の割合が 25%で、全国平均の 3 倍にも上ることである。地面に穴を掘ったトイレを使用する人が 73%で最も多いが、他の地域よりも少ない割合であり、その分藪の中で済ませる人が多いことが考えられる。

**Table 9.8: Distribution of Households by Type of Toilet Facilities, Residence and Region (%)**

Residence	2009/10				Total
	Pit Latrine	V.I.P	Flush	Bush/ no toilet	
Rural	86.8	2.5	0.3	10.3	100
Urban	80.0	8.6	10.2	1.3	100
<b>Region</b>					
Kampala	87.4	7.6	3.2	1.8	100
Central	75.9	10	14.1	0.0	100
Eastern	86.1	1.9	0.6	11.4	100
Northern	72.9	1.9	0.3	24.9	100
Western	95.7	1.2	0.8	2.3	100
<b>Uganda</b>	<b>85.5</b>	<b>3.7</b>	<b>2.2</b>	<b>8.7</b>	<b>100</b>
Residence	2005/06				Total
	Pit Latrine	V.I.P	Flush	Bush / no toilet	
Rural	85.7	1.9	0.2	12.2	100
Urban	86.1	5.4	5.8	2.7	100
<b>Region</b>					
Kampala	85.2	4.6	9.1	1.1	100
Central	90.4	4	0.6	5.0	100
Eastern	81.6	1.2	1	16.2	100
Northern	75.4	3.2	0.1	21.2	100
Western	93.5	0.9	0.4	5.2	100
<b>Uganda</b>	<b>85.8</b>	<b>2.5</b>	<b>1.1</b>	<b>10.6</b>	<b>100</b>

図 VII-41 地域別トイレ施設の状況 (2005 年度/2009 年度) <sup>238</sup>

<sup>238</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.120

健康に関する指標以外で北部地域の貧困状況を見るために、識字率を採り上げる。

第一に、2005 年度の男女識字率は 2009 年度には 3～7% 上昇しており、全国レベルにおいても同様の傾向であることが分かった。また、両年度において男性よりも女性の識字率は低く、全国レベルでも同様である。北部は男女ともに、全国レベルよりも識字率が 10% 程度低く、特に女性の場合に格差が大きいことが特徴である。男女および地域別の就学率を、次頁に示す。

**Table 3.1: Distribution of Literate persons aged 10 years and above by Residence and Region (%)**

Background characteristic	2005/06			2009/10		
	Male	Female	Total	Male	Female	Total
<b>Residence</b>						
Urban	89	83	86	90	86	88
Rural	74	58	66	77	62	69
<b>Region</b>						
Kampala	92	90	91	95	90	92
Central	82	78	80	84	81	83
Eastern	71	56	64	75	60	68
Northern	74	45	59	77	52	64
Western	74	60	67	77	65	71
<b>Uganda</b>	<b>76</b>	<b>63</b>	<b>69</b>	<b>79</b>	<b>66</b>	<b>73</b>

図 VII-42 男女の識字率比較と地域分布 (2005 年度/2009 年度) (再掲)<sup>239</sup>

<sup>239</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.16

Table 2.13 School attendance ratios

Net attendance ratios (NAR) and gross attendance ratios (GAR) for the de facto household population, by sex and level of schooling; and the Gender Parity Index (GPI), according to background characteristics, Uganda 2011

Background characteristic	Net attendance ratio <sup>1</sup>				Gross attendance ratio <sup>2</sup>			
	Male	Female	Total	Gender Parity Index <sup>3</sup>	Male	Female	Total	Gender Parity Index <sup>3</sup>
PRE-PRIMARY SCHOOL								
<b>Residence</b>								
Urban	50.0	55.7	52.8	1.11	72.2	77.0	74.6	1.07
Rural	18.9	20.2	19.5	1.07	37.1	37.0	37.1	1.00
<b>Region</b>								
Kampala	61.1	62.3	61.7	1.02	79.5	83.4	81.5	1.05
Central 1	31.9	39.6	35.8	1.24	50.4	53.7	52.1	1.07
Central 2	34.3	35.2	34.8	1.03	66.1	69.6	67.8	1.05
East Central	14.7	21.2	17.9	1.44	31.2	34.7	33.0	1.11
Eastern	11.1	14.8	13.0	1.33	23.1	22.3	22.7	0.97
Karamoja	4.4	7.4	6.0	1.66	10.8	15.9	13.5	1.47
North	11.8	10.4	11.2	0.88	18.6	17.9	18.3	0.96
West-Nile	5.4	4.2	4.8	0.79	6.6	6.8	6.7	1.03
Western	24.7	27.8	26.1	1.13	46.4	54.9	50.2	1.18
Southwest	33.0	27.0	30.0	0.82	70.6	56.5	63.4	0.80
<b>Wealth quintile</b>								
Lowest	5.9	7.6	6.7	1.28	12.5	17.1	14.8	1.37
Second	15.2	15.3	15.3	1.01	32.2	32.6	32.4	1.01
Middle	23.1	20.1	21.6	0.87	44.4	37.4	40.9	0.84
Fourth	26.0	30.4	28.2	1.17	55.2	52.9	54.1	0.96
Highest	50.1	56.3	53.2	1.12	72.0	78.6	75.3	1.09
Total	22.5	24.4	23.4	1.08	41.1	41.7	41.4	1.02
PRIMARY SCHOOL								
<b>Residence</b>								
Urban	85.3	84.6	85.0	0.99	114.4	118.1	116.2	1.03
Rural	80.6	80.6	80.6	1.00	125.2	118.7	122.0	0.95
<b>Region</b>								
Kampala	86.6	83.3	84.9	0.96	107.1	103.3	105.1	0.96
Central 1	85.5	89.2	87.3	1.04	121.7	121.5	121.6	1.00
Central 2	79.0	80.2	79.6	1.01	118.9	116.7	117.8	0.98
East Central	84.0	85.0	84.5	1.01	127.8	123.8	125.9	0.97
Eastern	86.3	89.3	87.7	1.03	136.3	128.6	132.5	0.94
Karamoja	53.9	49.3	51.4	0.91	76.9	67.8	71.9	0.88
North	80.1	77.9	79.0	0.97	131.8	125.5	128.8	0.95
West Nile	81.2	76.7	78.9	0.95	132.8	112.9	122.9	0.85
Western	80.5	78.9	79.7	0.98	124.7	122.4	123.6	0.98
Southwest	78.1	79.2	78.6	1.01	119.8	118.1	118.9	0.99
<b>Wealth quintile</b>								
Lowest	75.0	71.4	73.2	0.95	114.6	101.0	107.8	0.88
Second	79.6	79.3	79.5	1.00	128.0	118.3	123.3	0.92
Middle	82.6	84.9	83.7	1.03	129.7	125.1	127.4	0.96
Fourth	82.8	85.5	84.1	1.03	129.3	129.1	129.2	1.00
Highest	87.1	85.9	86.5	0.99	117.6	122.4	120.0	1.04
Total	81.1	81.0	81.0	1.00	124.1	118.6	121.4	0.96
SECONDARY SCHOOL								
<b>Residence</b>								
Urban	39.7	31.0	34.7	0.78	54.9	36.0	44.0	0.66
Rural	12.6	15.5	14.0	1.23	20.5	19.2	19.9	0.93
<b>Region</b>								
Kampala	48.6	34.4	39.8	0.71	64.5	36.7	47.4	0.57
Central 1	16.6	30.5	23.7	1.84	26.4	34.6	30.6	1.31
Central 2	19.6	25.2	22.4	1.29	28.1	28.3	28.2	1.01
East Central	19.4	20.7	20.0	1.07	30.6	26.6	28.7	0.87
Eastern	13.4	14.2	13.8	1.06	24.7	17.8	21.4	0.72
Karamoja	7.2	7.5	7.4	1.05	8.1	7.7	7.9	0.95
North	5.8	3.7	4.8	0.64	10.9	6.2	8.6	0.57
West Nile	11.5	7.6	9.7	0.66	20.9	12.3	16.9	0.59
Western	15.7	15.2	15.5	0.96	23.2	18.3	20.8	0.79
Southwest	13.1	16.8	14.9	1.28	19.2	23.6	21.3	1.23
<b>Wealth quintile</b>								
Lowest	4.7	3.9	4.3	0.81	7.8	4.5	6.2	0.58
Second	8.7	10.6	9.6	1.23	15.8	13.4	14.7	0.85
Middle	11.8	11.5	11.6	0.97	20.2	15.6	18.0	0.78
Fourth	20.0	25.9	23.0	1.30	31.6	31.3	31.5	0.99
Highest	35.1	31.5	33.1	0.90	48.2	37.0	41.8	0.77
Total	15.8	18.0	16.9	1.14	24.6	21.9	23.3	0.89

<sup>1</sup> The NAR for pre-primary school is the percentage of the pre-primary-school-age (3-5 years) population that is attending primary school. The NAR for primary school is the percentage of the primary-school-age (6-12 years) population that is attending primary school. The NAR for secondary school is the percentage of the secondary-school-age (13-18 years) population that is attending secondary school. By definition the NAR cannot exceed 100 percent.

<sup>2</sup> The GAR for primary school is the total number of primary school students, expressed as a percentage of the official primary-school-age population. The GAR for secondary school is the total number of secondary school students, expressed as a percentage of the official secondary-school-age population. If there are significant numbers of overage and underage students at a given level of schooling, the GAR can exceed 100 percent.

<sup>3</sup> The Gender Parity Index for primary school is the ratio of the primary school NAR (GAR) for females to the NAR (GAR) for males. The Gender Parity Index for secondary school is the ratio of the secondary school NAR (GAR) for females to the NAR (GAR) for males.

図 VII-43 男女および地域別就学状況 (2011 年) <sup>240</sup>

前頁の就学状況を見ると、就学前・初等・中等教育における純就学率も粗就学率も、Karamoja、中北部（この図の場合 North）、West Nile は全国平均より、低いことが分かる。これら 3 地域の就学前教育については、純・粗就学率の両方が全国平均以下である。

初等教育については、純就学率は全国平均よりも約 10～20%ほど低く、特に Karamoja が低いことが理解される。粗就学率になると、他地域も同様だが、北部の 3 地域は 100%以上を大きく超えるため、学齢期に学校へ通えなかったり留年したりしたケースが多いこと（紛争や貧困による影響等）などが推察される。中等教育については、初等教育以上に 3 地域と全国地域の格差が大きく、2～4 倍になる。

実際の所得状況を図 VII-44 に示す。北部地域における月収平均は、全国平均を大きく下回っており、2005 年度は全国平均の約半分である。2009 年度は所得金額自体は上昇しているものの、やはり全国平均の半分以下となっており、格差は拡大している。また、所得金額についても、北部の農村地域が最も低い。

**Table 7.1: Average Monthly Income by Region and Residence (UGX)**

Region	2005/06			2009/10		
	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total
Kampala	347,900	-	347,900	959,400	-	959,400
Central	320,200	192,600	209,300	603,800	336,800	389,600
Eastern	261,700	144,100	155,500	361,000	151,400	171,500
Northern	209,000	76,200	93,400	361,200	117,200	141,400
Western	313,100	144,200	159,100	479,000	282,300	303,200
<b>Uganda</b>	<b>306,200</b>	<b>142,700</b>	<b>170,800</b>	<b>660,000</b>	<b>222,600</b>	<b>303,700</b>

図 VII-44 地域別月収平均（2005 年度/2009 年度）<sup>241</sup>

<sup>241</sup> UBOS(2010) “UNHS 2011” P.93

続いて、郵便局、電話サービス、銀行、マイクロクレジット機関等へのアクセス状況を下図に示す。これらのサービスへのアクセス率は、いずれも 2005 年度よりも 2009 年度に大きく改善しているが、全国平均と比べた場合の北部は、他地域よりも低いことが注目される。特に、電話や銀行へのアクセス状況が低くなっている。

**Table 13.2: Availability of Communication and Banking facilities within communities, by region 2009/10 (%)**

2009/10				
Type of facility	Post office	Telephone service	Bank branch office	Micro-credit institution
Kampala	5.9	90.0	4.5	17.4
Central	10.1	80.4	11.4	13.4
Eastern	2.2	77.1	0.8	12.1
Northern	3.4	19.7	0.5	11.7
Western	4.2	84.7	5.5	16.1
<b>Uganda</b>	<b>5.2</b>	<b>70.8</b>	<b>4.8</b>	<b>13.7</b>
2005/06				
Kampala	0.0	100.0	0.0	0.0
Central	1.2	55.6	0.2	3.9
Eastern	1.3	40.2	0.2	4.6
Northern	1.1	12.1	0.3	0.2
Western	0.9	59.1	0.8	7.5
<b>Uganda</b>	<b>1.1</b>	<b>48.5</b>	<b>0.4</b>	<b>4.3</b>

図 VII-45 コミュニケーションおよび金融サービスへのアクセス (再掲)<sup>242</sup>

<sup>242</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.157

## 5. 教育セクター

### (1) 教育へのアクセスと就職率・報酬の格差

下図はウガンダにおける地域別の教育の修了状況について記載している。北部地域では学校教育を受けていない割合が 22.8%と最も多く、初等教育修了者の割合は全国平均より少し上回るものの、中等教育を受けた者は 18.2%と最も少なく、全国平均よりも低い。

**Table 3.4: Educational Status of persons aged 15 years and above by Selected Background Characteristics (%)**

Background Characteristic	2009/10			
	No formal Schooling	Some or Completed primary	Some or Completed Secondary	Above Secondary
<b>Sex</b>				
Male	9.8	53.8	29.1	7.3
Female	24.1	49.3	21.9	4.7
<b>Residence</b>				
Urban	6.6	30.5	44.8	18.1
Rural	19.7	56	21.1	3.3
<b>Region</b>				
Kampala	4.4	27.9	46	21.7
Central	10.3	47.1	33.4	9.1
Eastern	18.3	56.1	23.1	2.5
Northern	22.8	54.7	18.2	4.4
Western	21.9	54.1	20.4	3.7
<b>Uganda</b>	<b>17.3</b>	<b>51.4</b>	<b>25.3</b>	<b>5.9</b>

図 VII-46 ウガンダにおける地域別の教育修了状況 (2009 年度)<sup>243</sup>

<sup>243</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.19

下図は、教育レベル別にみた労働力の分布を表している。この図によると、2009 年度においては、初等教育修了以下の労働者が 70%に上り、非常に多いことが分かる。

**Table 4.2: Distribution of the Labour Force (14-64 years) by Educational Levels (%)**

Education Level	2005/06	2009/10	Growth Rate
No formal schooling	16.5	17.1	5.6
Primary	59.0	53.3	2.1
Some secondary	16.9	15.0	1.7
Completed S6	1.0	1.5	13.3
Post primary specialized training	2.4	2.7	7.3
Post secondary specialized training	2.6	3.2	9.8
Degree and above	1.0	1.8	19.5
Not stated	0.4	1.4	
<b>Uganda</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>4.7</b>

図 VII-47 教育レベル別にみた 14-60 歳の労働力分布 (2005 年度/2009 年度) <sup>244</sup>

<sup>244</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.32



下図では、地域別・世帯主性別ごとの平均収入を示している。2005 年度と比較すると 2009 年度は平均収入が約 2 倍に上昇しているが、男女世帯主間の格差はより広がったと言える。また、教育水準も収入に大きく影響しており、地方において高校以降を進学した世帯と未就学世帯ではおよそ 4 倍の差が出ており、さらに都市部では 5 倍の差になっている。

ウガンダでは労働者の 70%が初等教育修了以下であるが、下図の 2009 年度のデータによると、初等教育を修了した労働者は中退した労働者と比較すると地方部では 153%、都市部では 187%も多く収入を得ている。このことから、初等教育を修了しているか否かが大きく収入格差、貧困に関係している。

「JICA ウガンダ国ナカワ職業訓練校復興プロジェクト (1997-2002 年)」の報告書によれば、職業訓練校卒業生の国家技術試験合格率が高い、2000 年卒業生追跡調査によるとナカワ校卒業生の 90%が就職しており、企業に対するアンケート調査結果も評価が高い、などの事実が判明している。

**Table 7.2: Average income of Household Head by Sex and Education level (UGX)**

Sex	2005/06			2009/10		
	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total
Male-headed	328,200	37,600	170,300	784,900	242,405	336,900
Female-headed	213,500	79,900	106,200	420,100	174,483	226,300
<b>Education level</b>						
No formal education	141,400	47,100	54,400	264,000	151,200	160,300
Some primary	165,000	94,400	102,400	239,500	168,600	175,500
Completed P7	218,900	25,400	141,100	449,500	258,100	293,100
Some secondary	280,400	92,500	219,100	462,600	261,300	326,200
Secondary/Post-secondary	390,600	42,000	308,400	1,349,300	622,600	969,700
<b>Uganda</b>	<b>306,200</b>	<b>142,700</b>	<b>170,800</b>	<b>660,200</b>	<b>221,400</b>	<b>302,500</b>

図 VII-48 世帯主性別および地域別の平均収入 (2005 年度/2009 年度) <sup>245</sup>

<sup>245</sup> UBOS(2010) “UNHS 2009/10” P.94

## (2) 保健指標と教育 (母親の教育経験の有無)

ここでは、母親の教育経験の有無により、重点分野である保健に関する指標にどのような影響を与えているかを記述する。

第一に妊婦の出産場所について、地域・年齢・母親の教育経験別の状況を下の図 VII-49 に示す。

これは、2010 年から過去 5 年間の数値である。妊婦の 57%は医療施設で出産をしており、約 42%は自宅出産している。20 歳以下の 66%もしくは、第 1 子を出産する妊婦の 73%は医療施設での出産を経験している。また都市と地方を比較すると、都市の 90%の妊婦が医療施設を利用したのに対し、地方部では 52%に留まっている。地域別にみると、カンパラ以外の医療施設選択率は 60%程度であるが、特に Karamoja 地域だけが 27%と著しく低い値を示していることが分かる。

教育の観点から見ると、高等教育を受けた妊婦の 81%が医療施設を利用していたのに対し、初等教育のみを受けた妊婦は 53%、教育を受けていない妊婦は 36%に留まっていることから、教育レベルと出産場所の関係性は認められる。また、自宅出産を選ぶ妊婦が初等教育レベルの妊婦では約 45%、教育を受けていない妊婦では約 62%に上るが、基本的に訓練された介助者の支援を受けない為、出産時の感染症および、出産時に適切な医療措置を受けられない可能性が高くなることが推察される。

Table 9.6 Place of delivery

Percent distribution of live births in the five years preceding the survey by place of delivery and percentage delivered in a health facility, according to background characteristics, Uganda 2011

Background characteristic	Health facility					Total	Percentage delivered in a health facility	Number of births
	Public sector	Private sector	Home	Other	Missing			
<b>Mother's age at birth</b>								
<20	53.2	12.6	33.5	0.6	0.1	100.0	65.8	1,351
20-34	43.1	13.4	42.3	1.1	0.1	100.0	56.5	5,632
35-49	37.1	14.0	48.0	0.8	0.1	100.0	51.1	1,092
<b>Birth order</b>								
1	56.5	16.6	26.2	0.6	0.1	100.0	73.1	1,423
2-3	46.7	14.4	38.0	0.8	0.1	100.0	61.1	2,523
4-5	40.5	11.8	46.3	1.4	0.1	100.0	52.3	1,816
6+	36.1	11.5	51.2	1.0	0.2	100.0	47.6	2,313
<b>Antenatal care visits<sup>1</sup></b>								
None	22.2	10.0	64.9	1.7	1.2	100.0	32.2	212
1-3	41.0	12.1	45.9	1.0	0.0	100.0	53.1	2,305
4+	51.8	16.6	30.6	1.0	0.0	100.0	68.5	2,366
Don't know/missing	63.3	22.0	14.7	0.0	0.0	100.0	85.3	86
<b>Residence</b>								
Urban	63.5	26.1	9.8	0.6	0.0	100.0	89.5	1,147
Rural	40.8	11.3	46.8	1.0	0.1	100.0	52.0	6,928
<b>Region</b>								
Kampala	56.4	36.5	6.7	0.4	0.0	100.0	92.9	489
Central 1	38.1	23.6	37.6	0.8	0.0	100.0	61.7	797
Central 2	49.4	19.7	30.2	0.6	0.0	100.0	69.1	842
East Central	42.8	24.3	32.3	0.2	0.4	100.0	67.1	923
Eastern	49.5	1.7	48.0	0.7	0.0	100.0	51.2	1,358
Karamoja	25.0	2.1	71.3	1.6	0.0	100.0	27.1	322
North	45.7	6.2	47.4	0.7	0.0	100.0	51.9	704
West Nile	55.7	3.0	40.1	0.9	0.4	100.0	58.7	484
Western	41.9	14.0	43.1	0.7	0.3	100.0	55.9	1,177
Southwest	33.4	7.0	56.6	3.0	0.0	100.0	40.3	978
<b>Mother's education</b>								
No education	26.7	9.5	62.4	1.2	0.3	100.0	36.1	1,161
Primary	43.3	10.7	44.9	1.0	0.1	100.0	54.0	5,161
Secondary +	57.5	23.9	17.9	0.7	0.0	100.0	81.4	1,754
<b>Wealth quintile</b>								
Lowest	37.2	5.0	56.7	1.0	0.0	100.0	42.2	1,812
Second	39.1	9.8	49.8	1.1	0.2	100.0	48.9	1,727
Middle	43.6	10.8	44.6	0.9	0.1	100.0	54.4	1,616
Fourth	42.7	15.7	40.6	0.8	0.3	100.0	58.4	1,425
Highest	59.7	28.0	11.3	0.9	0.0	100.0	87.7	1,496
<b>Total</b>	<b>44.0</b>	<b>13.4</b>	<b>41.6</b>	<b>1.0</b>	<b>0.1</b>	<b>100.0</b>	<b>57.4</b>	<b>8,076</b>

<sup>1</sup> Includes only the most recent birth in the five years preceding the survey

図 VII-49 母親の年齢、教育経験、地域別の出産場所の状況 (2011 年) <sup>246</sup>

<sup>246</sup> UBOS(2011) "UDHS 2011" P.111

次に、出産時の介助状況と教育の関係についてだが、下図より、全体の 58%が医者や看護師からの何らかの介助を受けていることが分かった。高等教育を受けた妊婦の約 80%は、医者や看護師の介助を受けている。また、初等教育を受けた妊婦は 54%、教育を受けていない妊婦は 37%だけが医者や看護師の介助を受けるに留まっている。

Table 9.7 Assistance during delivery

Percent distribution of live births in the five years preceding the survey by person providing assistance during delivery, percentage of birth assisted by a skilled provider, and percentage delivered by caesarean-section, according to background characteristics, Uganda 2011

Background characteristic	Person providing assistance during delivery								Total	Percentage delivered by a skilled provider <sup>1</sup>	Percentage delivered by C-section	Number of births
	Doctor	Nurse/midwife	Medical assistant/clinical officer	Nursing aide	Traditional birth attendant	Relative/friend/other	No one	Don't know/missing				
<b>Mother's age at birth</b>												
<20	9.2	57.5	0.4	1.1	16.7	13.0	2.0	0.1	100.0	67.1	6.5	1,351
20-34	6.9	49.6	0.7	1.2	18.7	15.8	7.1	0.2	100.0	57.1	5.1	5,632
35-49	6.1	44.7	0.5	1.8	18.5	15.3	13.1	0.1	100.0	51.3	4.6	1,092
<b>Birth order</b>												
1	12.7	60.6	0.5	0.6	14.1	10.3	1.2	0.1	100.0	73.7	9.3	1,423
2-3	8.2	53.0	0.8	1.4	19.4	13.4	3.8	0.1	100.0	62.0	6.1	2,523
4-5	5.9	47.1	0.3	1.5	19.4	17.4	8.4	0.1	100.0	53.2	4.2	1,816
6+	3.6	43.3	0.7	1.3	18.9	18.7	13.1	0.3	100.0	47.6	2.6	2,313
<b>Place of delivery</b>												
Health facility	12.4	84.3	0.9	1.4	0.4	0.4	0.2	0.0	100.0	97.6	9.2	4,633
Elsewhere	0.2	4.4	0.1	1.1	42.5	35.3	16.3	0.1	100.0	4.7	0.0	3,433
<b>Residence</b>												
Urban	20.5	68.1	0.5	1.2	4.8	4.0	0.9	0.0	100.0	89.1	13.7	1,147
Rural	5.0	47.3	0.6	1.3	20.5	17.1	8.1	0.2	100.0	52.8	3.9	6,928
<b>Region</b>												
Kampala	29.5	63.2	0.2	0.8	3.7	1.8	0.7	0.0	100.0	93.0	17.8	489
Central 1	14.0	45.9	2.0	2.4	25.9	7.4	2.3	0.0	100.0	62.0	7.8	797
Central 2	4.9	63.4	1.6	0.6	14.0	11.3	4.2	0.0	100.0	69.9	5.8	842
East Central	3.6	63.1	0.5	3.2	9.5	11.4	8.3	0.4	100.0	67.1	4.1	923
Eastern	3.1	48.7	0.2	0.8	17.4	22.2	7.7	0.0	100.0	51.9	2.5	1,358
Karamoja	1.9	28.8	0.0	0.1	18.4	47.3	3.4	0.0	100.0	30.8	1.1	322
North	4.6	48.5	0.3	1.3	37.0	6.3	2.0	0.0	100.0	53.4	2.5	704
West Nile	4.1	53.7	0.7	2.2	13.8	16.7	8.4	0.5	100.0	58.5	4.6	484
Western	6.6	48.8	0.4	1.0	20.3	15.7	6.8	0.4	100.0	55.8	5.5	1,177
Southwest	7.1	34.3	0.1	0.3	19.1	20.3	18.9	0.0	100.0	41.5	4.9	978
<b>Mother's education</b>												
No education	3.4	34.0	0.3	0.6	22.3	27.7	11.5	0.3	100.0	37.7	2.6	1,161
Primary	5.2	49.0	0.6	1.3	20.3	15.8	7.6	0.1	100.0	54.8	4.0	5,161
Secondary +	15.5	64.6	0.8	1.5	9.7	5.3	2.5	0.0	100.0	80.8	10.9	1,754
<b>Wealth quintile</b>												
Lowest	3.6	39.7	0.2	0.6	23.2	24.7	7.9	0.1	100.0	43.5	2.2	1,812
Second	3.3	45.2	0.3	1.4	22.0	18.2	9.3	0.2	100.0	48.9	3.2	1,727
Middle	4.9	48.4	1.1	1.6	17.8	15.9	10.3	0.1	100.0	54.4	3.9	1,616
Fourth	6.0	53.1	0.4	1.4	21.6	11.5	5.7	0.3	100.0	59.6	5.7	1,425
Highest	19.5	68.0	0.9	1.4	5.6	3.3	1.3	0.0	100.0	88.4	12.6	1,496
<b>Total</b>	<b>7.2</b>	<b>50.2</b>	<b>0.6</b>	<b>1.3</b>	<b>18.3</b>	<b>15.3</b>	<b>7.0</b>	<b>0.1</b>	<b>100.0</b>	<b>58.0</b>	<b>5.3</b>	<b>8,076</b>

Note: If the respondent mentioned more than one person attending during delivery, only the most qualified person is considered in this tabulation.  
<sup>1</sup> Skilled provider includes doctor, nurse/midwife, or medical assistant/clinical officer.

図 VII-50 出産時の介助状況 (2011 年) <sup>247</sup>

次に示す図 VII-51 は、地域別の手洗い状況に関する調査結果である。

Karamoja 地域と West Nile 地域では 80%以上、北部、西部地域では 60%の世帯が、水も石鹸も使わないという衛生状況である。

Table 2.5 Hand washing

Percentage of households in which the place most often used for washing hands was observed, and among households in which the place for hand washing was observed, percent distribution by availability of water, soap, and other cleansing agents, Uganda 2011

Background characteristic	Percentage of households where place for washing hands was observed	Number of households	Among households where place for hand washing was observed						Total	Number of households with place for hand washing observed
			Soap and water	Water and cleansing agent <sup>2</sup> other than soap only	Water only	Soap but no water <sup>3</sup>	Cleansing agent other than soap only <sup>2</sup>	No water, no soap, no other cleansing agent		
<b>Residence</b>										
Urban	34.9	1,691	37.7	0.0	30.0	2.1	0.0	30.2	100.0	589
Rural	27.6	7,342	23.9	0.5	25.9	3.0	0.7	45.8	100.0	2,026
<b>Region</b>										
Kampala	39.0	797	41.7	0.0	30.2	1.2	0.0	26.9	100.0	311
Central 1	50.1	1,140	45.2	0.0	17.6	3.9	1.2	32.0	100.0	571
Central 2	45.1	1,038	26.5	0.7	18.1	3.9	1.5	49.4	100.0	468
East Central	30.6	904	11.9	0.0	42.9	1.8	0.0	43.3	100.0	277
Eastern	25.2	1,226	9.3	0.9	29.9	3.2	0.0	56.8	100.0	309
Karamoja	12.5	306	1.6	0.0	10.1	0.2	0.0	88.2	100.0	38
North	7.2	757	10.3	7.7	19.0	2.3	0.0	60.7	100.0	55
West Nile	16.4	508	4.5	1.0	9.9	0.7	0.0	84.0	100.0	84
Western	22.1	1,228	31.8	0.0	51.1	3.4	0.0	13.7	100.0	272
Southwest	20.5	1,128	15.6	0.0	22.2	1.8	0.0	60.4	100.0	232
<b>Wealth quintile</b>										
Lowest	17.0	1,719	11.9	0.8	17.2	0.4	0.8	68.9	100.0	292
Second	23.7	1,767	12.4	0.8	26.3	3.9	1.0	55.6	100.0	418
Middle	28.5	1,672	15.0	0.3	31.5	2.5	0.4	50.3	100.0	476
Fourth	32.4	1,723	26.8	0.4	28.0	2.7	1.0	40.8	100.0	559
Highest	40.4	2,152	45.7	0.2	27.1	3.4	0.0	23.5	100.0	870
<b>Total</b>	<b>29.0</b>	<b>9,033</b>	<b>27.0</b>	<b>0.4</b>	<b>26.9</b>	<b>2.8</b>	<b>0.5</b>	<b>42.3</b>	<b>100.0</b>	<b>2,615</b>

<sup>1</sup> Soap includes soap or detergent in bar, liquid, powder, or paste form. This column includes households with soap and water only as well as those that had soap and water and another cleansing agent.

<sup>2</sup> Cleansing agents other than soap include locally available materials such as ash, mud, or sand.

<sup>3</sup> Includes households with soap only as well as those with soap and another cleansing agent.

図 VII-51 地域毎の手洗い状況に関する調査結果 (2011 年) <sup>248</sup>

<sup>248</sup> UBOS(2011) "UDHS 2011" P.16

下図では、世帯地域別の水へのアクセス状況を示している。注目すべきは、都市部においては70%以上が水を摂取する前に沸騰させているが、地方部では58.9%が何もせずに摂取していることである。地方部では、安全な水源を使用しているのは65%のみの世帯であることを考えると、水を浄化せずに飲用することは、病気を発生させる原因となり得る。

整備不十分な井戸からの水を摂取するなど、安全ではない水源へのアクセスが33.6%もある地方部では、知識啓発が必要となる。また、煮沸やフィルターを取り付ける等適切な水処理方法を利用する人の割合は、都市で72.8%、地方では40.8%となっており、約2倍もの乖離がある。

Table 2.1 Household drinking water

Percent distribution of households and de jure population by source of drinking water, time to obtain drinking water, and treatment of drinking water, according to residence, Uganda 2011

Characteristic	Households			Population		
	Urban	Rural	Total	Urban	Rural	Total
<b>Source of drinking water</b>						
<b>Improved source</b>	90.6	65.6	70.3	89.6	66.6	70.0
Piped into dwelling/yard/plot	27.9	1.5	6.4	28.4	1.3	5.3
Public tap/standpipe	38.9	8.2	13.9	34.9	7.8	11.7
Borehole	11.8	43.9	37.9	16.1	45.9	41.6
Protected well/spring	6.9	10.2	9.6	7.6	10.2	9.8
Rain water	0.5	1.4	1.3	0.4	1.3	1.2
Bottled water	4.6	0.4	1.2	2.1	0.1	0.4
<b>Non-improved source</b>	8.9	33.6	29.0	10.1	32.8	29.5
Unprotected well/spring	5.6	18.2	15.8	7.0	17.6	16.1
Tanker truck/vendor	2.2	0.9	1.1	1.6	0.6	0.8
Surface water	1.0	14.6	12.0	1.4	14.5	12.6
<b>Other source</b>	0.6	0.8	0.7	0.3	0.6	0.5
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Percentage using any improved source of drinking water	90.6	65.6	70.3	89.6	66.6	70.0
<b>Time to obtain drinking water (round trip)</b>						
Water on premises	40.1	6.2	12.5	37.4	5.4	10.0
Less than 30 minutes	42.8	31.1	33.3	41.5	29.7	31.4
30 minutes or longer	16.6	62.0	53.5	20.7	64.3	57.9
Don't know/missing	0.5	0.7	0.7	0.4	0.6	0.6
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
<b>Water treatment prior to drinking<sup>1</sup></b>						
Boiled	70.6	37.7	43.9	68.8	34.8	39.8
Added water guard	3.3	2.7	2.8	3.6	2.6	2.8
Bleach/chlorine added	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2
Strained through cloth	0.8	1.4	1.3	1.0	1.6	1.5
Ceramic, sand, or other filter	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
Solar disinfection	0.0	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1
Let it stand and settle	0.3	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5
Other	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4
No treatment	26.7	58.9	52.8	27.8	61.6	56.6
Percentage using an appropriate treatment method <sup>2</sup>	72.8	40.8	46.8	71.6	38.0	43.0
Number	1,691	7,342	9,033	6,468	37,782	44,250

<sup>1</sup> Respondents may report multiple treatment methods, so the sum of treatment may exceed 100 percent.

<sup>2</sup> Appropriate water treatment methods include boiling, adding waterguard, bleaching, straining, filtering, and solar disinfecting.

図 VII-52 世帯毎の水へのアクセス状況 (2011 年) <sup>249</sup>

<sup>249</sup> UBOS(2011) "UDHS 2011" P.12

女性が、新聞・TV・ラジオ等のマスメディアにアクセスする状況を下記の図 VII-53 に示す。情報を得ることや社会の変化に気付く機会をどれだけ持ち合わせているかを見る。全女性の 6.4%は一週間に一度は新聞、TV、ラジオのいずれかにアクセスしており（男性の半分以下）、74%の女性が一週間に一度はラジオに耳を傾け、20%の女性が一度は TV を見ている。最もアクセス率が多い媒体はラジオであり、TV、新聞と続く。

北部地域の女性達は、新聞や TV にアクセスする率がかなり低いが、ラジオには多くの人達がアクセス出来ている。ただし、Karamoja 地域においては、ラジオへのアクセスも低く、東部地域も 3 つの媒体へのアクセスは低い状況である。年齢および教育経験別にみると、新聞を読むことについては識字率が影響していることが推察される。

Table 3.4.1 Exposure to mass media: Women

Percentage of women age 15-49 who are exposed to specific media on a weekly basis, by background characteristics, Uganda 2011

Background characteristic	Reads a newspaper at least once a week	Watches television at least once a week	Listens to the radio at least once a week	Accesses all three media at least once a week	Accesses none of the three media at least once a week	Number of women
<b>Age</b>						
15-19	23.3	24.0	75.2	7.6	18.3	2,048
20-24	16.8	23.6	77.1	9.2	18.6	1,629
25-29	12.3	21.2	74.1	6.0	20.3	1,569
30-34	13.1	16.8	72.1	5.2	22.4	1,086
35-39	10.1	14.6	69.4	3.8	27.0	1,026
40-44	10.9	12.9	74.6	4.1	22.4	729
45-49	10.4	12.9	73.9	5.8	24.9	587
<b>Residence</b>						
Urban	36.9	59.7	78.0	23.0	8.4	1,717
Rural	10.0	9.8	73.2	2.3	24.2	6,957
<b>Region</b>						
Kampala	41.1	77.4	73.5	29.6	6.2	839
Central 1	21.6	27.6	79.0	9.0	14.8	956
Central 2	26.8	20.0	79.7	8.3	15.3	902
East Central	11.0	14.4	77.2	4.1	20.1	869
Eastern	8.7	6.6	58.0	1.6	38.5	1,267
Karamoja	4.8	3.7	28.3	0.6	69.3	289
North	6.2	5.4	82.2	1.8	16.3	735
West Nile	9.5	8.2	77.9	1.6	20.4	500
Western	9.5	16.9	80.4	3.2	17.4	1,221
Southwest	10.0	10.0	80.0	2.7	18.0	1,097
<b>Education</b>						
No education	0.1	6.6	60.0	0.1	39.0	1,120
Primary	8.5	12.5	73.5	2.0	23.0	5,152
Secondary+	37.1	41.2	82.1	18.9	8.6	2,402
<b>Wealth quintile</b>						
Lowest	2.8	3.2	49.4	0.1	48.8	1,519
Second	5.6	4.6	72.5	0.5	25.7	1,579
Middle	8.6	5.6	79.6	0.8	18.3	1,608
Fourth	15.0	12.8	83.8	2.8	13.7	1,726
Highest	35.8	57.0	80.7	21.7	6.6	2,242
Total	15.3	19.7	74.1	6.4	21.0	8,674

図 VII-53 女性のマスメディアへのアクセス状況（2011 年）<sup>250</sup>

<sup>250</sup> UBOS(2011) “UDHS 2011” P.35

### (3) 農業と教育

ウガンダの主要産業である農業分野における従事者の教育経験の有無と農作物の収穫格差を見てみる。下図は、農家の土壌に対する理解度の調査であり、5種の農作物（メイズ、キャッサバ、マメ、ソルガム、バナナ）の内、土壌を改善する作物はどれかを農家世帯に聞いたものである。

ウガンダの農業普及員は近年、豆が養分固定により土壌肥沃化を促進すると助言しているため、豆が解答となる。全体で410万人の農民が回答し、160万人（39%）が豆と回答しているが、50%は他の作物を、10%は不明と回答している。特筆すべきは、北部地域では、豆と回答できた農家の割合が28%に留まり、36.2%が土壌肥沃度を低めるキャッサバと回答している。また、東部地域においても、豆と回答した農家の割合が34%と平均を下回っており、両地域は西部、中部よりも農民の理解度および知識（又は情報へのアクセス度）は低いことを示している。

**Table 6.23: Distribution of Ag HHs according to crop that can Improve Soil Fertility ('000)**

Region	Maize	Cassava	Beans	Sorghum	Matooke	Don't Know	Total
Central	192	56	400	18	161	139	967
Eastern	207	320	370	24	78	89	1,089
Northern	158	259	241	119	30	38	844
Western	131	81	589	96	116	142	1,155
<b>Total</b>	<b>689</b>	<b>716</b>	<b>1,600</b>	<b>256</b>	<b>385</b>	<b>409</b>	<b>4,055</b>

図 VII-54 作物による土壌改良に関する農家の理解度（単位：千人）<sup>251</sup>

<sup>251</sup> UBOS (2007) “UNHS Agricultural Module Report 2005” P.107

## VIII. 添付資料

### 1. 添付資料リスト

#### (和文資料)

- JICA(2013)「JICA 国別分析ペーパー ウガンダ編 (ドラフト)」
- JICA 経済基盤開発部(2011)「*技プロ用 事業事前評価表*」  
<http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/1751c21d3ce7d90a49256bf300087d04/a687367465be9ada492579610079dab2>  
(2013/10/22 アクセス)
- JOGMEC 調査部(2013)「*東アフリカ陸上 (ウガンダ、ケニア、南スーダン) における石油開発と輸出パイプライン構想*」  
[http://oilgas-info.jogmec.go.jp/pdf/4/4945/1307\\_b03\\_takehara\\_ug\\_ke\\_sd.pdf](http://oilgas-info.jogmec.go.jp/pdf/4/4945/1307_b03_takehara_ug_ke_sd.pdf)  
(2013/10/16 アクセス)
- 日本国外務省(2012)「*政府開発援助 (ODA) 国別データブック 2012*」  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/kuni/12\\_databook/pdfs/05-02.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/kuni/12_databook/pdfs/05-02.pdf)  
(2013/10/11 アクセス)
- 日本国外務省(2012)「*対ウガンダ共和国 国別援助方針*」  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/houshin/pdfs/uganda-1.pdf>  
(2013/10/16 アクセス)

#### (和文 Web 情報)

- 日本国外務省 海外安全ホームページ (ウガンダ)  
<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo.asp?id=9>  
(2013/12/23 アクセス)



(英文資料)

(ウガンダ政府機関作成)

- Republic of Uganda (2010) “*National Development Plan(NDP) 2010/11-2014/15*”  
<http://www.imf.org/external/pubs/ft/scr/2010/cr10141.pdf>  
(2013/10/11 アクセス)
- Republic of Uganda(2012) “*Uganda Humanitarian Profile 2012*”  
[http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/uganda\\_humanitarian\\_profile\\_\\_2012.pdf](http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/uganda_humanitarian_profile__2012.pdf)  
(2013/12/04 アクセス)
- Office of the Prime Minister (OPM), Uganda(2011)  
“*Peace, recovery and development plan for northern Uganda (PRDP) Phase 2*”  
<http://www.prdp.org.ug/templates/codebliss/uploads/PRDP2%20Document.pdf>  
(2013/10/11 アクセス)
- Office of the Prime Minister (OPM), Uganda(2011)  
“*MidTerm review of the Peace, Recovery and Development Plan(PRDP) for Northern Uganda*”
- Office of the Prime Minister (OPM), Uganda(2012)  
“*Monitoring and Evaluation Framework for PRDP 2*”  
<http://www.prdp.org.ug/templates/codebliss/uploads/PRDP2%20M&E%20Framework.pdf>  
(2013/10/11 アクセス)
- Ministry of Education & Sports (MoES), Uganda (2013)  
“*The education and sports sector annual performance report FY 2012/13*”  
[http://www.education.go.ug/files/downloads/ESSAPR%20FY2012\\_13.pdf](http://www.education.go.ug/files/downloads/ESSAPR%20FY2012_13.pdf)  
(2013/10/25 アクセス)
- Ministry of Finance, Planning and Economic Development (MoFPED), Uganda(2004)  
“*Poverty Eradication Action Plan (PEAP III,2004/5-2007/8)*”  
<http://www.undp.or.ug/phocadownload/PEAP%202004.pdf>  
(2013/10/21 アクセス)
- Ministry of Finance, Planning and Economic Development(MoFPED), Uganda (2010)  
“*Millennium Development Goals Reports for Uganda 2010*”  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Uganda/Uganda\\_MDGs\\_Report\\_2010.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Uganda/Uganda_MDGs_Report_2010.pdf)  
(2013/10/11 アクセス)
- Ministry of Finance, Planning and Economic Development (MoFPED), Uganda (2012)  
“*The state of Uganda population report 2012*”  
[http://mail2.unfpa.or.ug/pub/2012/2012\\_SUPRE.pdf](http://mail2.unfpa.or.ug/pub/2012/2012_SUPRE.pdf)  
(2013/12/06 アクセス)
- Ministry of Finance, Planning and Economic Development (MoFPED), Uganda(2012)  
“*Poverty Status Report*”

- Ministry of Health/ Ministry of Water and Environment/ Uganda Bureau of Statistics/ International Livestock Research Institute/ World Resources Institute (2009)  
“*Mapping a Healthier Future - How Spatial Analysis Can Guide Pro-Poor Water and Sanitation Planning in Uganda*”  
[http://www.wri.org/sites/default/files/pdf/mapping\\_a\\_healthier\\_future.pdf](http://www.wri.org/sites/default/files/pdf/mapping_a_healthier_future.pdf)  
(2013/12/05 アクセス)
- Ministry of Water and Environment, Uganda (2013)  
“*Water and Environment Sector Performance Report 2013*”  
[http://www.mwe.go.ug/index.php?option=com\\_docman&task=doc\\_download&gid=623&Itemid=223](http://www.mwe.go.ug/index.php?option=com_docman&task=doc_download&gid=623&Itemid=223)  
(2013/12/23 アクセス)
- National environment management authority (NEMA), Uganda (2010)  
“*State of the environment report for Uganda 2010*”  
[http://nema-ug.org/reports/national\\_state\\_report\\_2010.pdf](http://nema-ug.org/reports/national_state_report_2010.pdf)  
(2013/10/29 アクセス)
- Uganda Bureau of Statistics (UBOS)(2006)  
“*Uganda National Household Survey (UNHS) 2005/06*”  
<http://www.ubos.org/onlinefiles/uploads/ubos/pdf%20documents/UNHSReport20052006.pdf>  
(2013/10/23 アクセス)
- Uganda Bureau of Statistics (UBOS) (2007)  
“*UNHS Agricultural Module Report 2005*”  
<http://www.ubos.org/onlinefiles/uploads/ubos/pdf%20documents/2005UNHSAgriculturalModuleReport.pdf>  
(2013/11/29 アクセス)
- Uganda Bureau of Statistics (UBOS) (2010)  
“*Uganda National Household Survey (UNHS) 2009/10*”  
<http://www.ubos.org/UNHS0910/unhs200910.pdf>  
(2013/10/23 アクセス)
- Uganda Bureau of Statistics (UBOS) (2011)  
“*Uganda Demographic and Health Survey(UDHS) 2011*”  
<http://www.measuredhs.com/pubs/pdf/FR264/FR264.pdf>  
(2013/10/28 アクセス)

(国際機関作成)

- Commonwealth Parliamentary Association (2013)  
“*Women's political leadership in east Africa with specific reference to Uganda*”  
<http://www.cpahq.org/CPAHQ/CMDownload.aspx?ContentKey=9500d422-fade-4fcd-8aca-e112ab985a25&ContentItemKey=01b05603-33c6-4c3f-9100-7a4ae8afd6d4>  
(2013/10/25 アクセス)
- FAO (2005) “*Aquastat Survey 2005 Uganda*”  
[http://www.fao.org/nr/water/aquastat/countries\\_regions/UGA/CP\\_UGA.pdf](http://www.fao.org/nr/water/aquastat/countries_regions/UGA/CP_UGA.pdf)  
(2013/12/05 アクセス)
- FAO (2010) “*Global Forest Resources Assessment 2010*”  
<http://www.fao.org/docrep/013/i1757e/i1757e.pdf>  
(2013/11/29 アクセス)
- FAO (2013) “*Country Fact Sheet Uganda*”  
[http://www.fao.org/nr/water/aquastat/data/cf/readPdf.html?f=CF\\_UGA\\_en.pdf](http://www.fao.org/nr/water/aquastat/data/cf/readPdf.html?f=CF_UGA_en.pdf)  
(2013/12/05 アクセス)
- IOM/UNDP (2010)  
“*Land or Else, Land-Based Conflict, Vulnerability and Disintegration in Northern Uganda*”  
<http://uganda.iom.int/documents/Land.Or.Else.Oct.2010.FINAL.pdf>  
(2013/11/1 アクセス)
- UNDP(2013) “*Human Development Report 2013*”  
<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/UGA.pdf>  
(2014/02/19 アクセス)
- UNHCR (2010) “*IDP camp phase out status 2010*”  
[http://www.internal-displacement.org/8025708F004BE3B1/%28httpInfoFiles%29/F1E3DF0FCF59D97DC12577F200359AD0/\\$file/uga\\_unhcr\\_gulu-camp-phase-out-status\\_dec10.pdf](http://www.internal-displacement.org/8025708F004BE3B1/%28httpInfoFiles%29/F1E3DF0FCF59D97DC12577F200359AD0/$file/uga_unhcr_gulu-camp-phase-out-status_dec10.pdf)  
(2013/12/04 アクセス)
- WFP(2009) “*Comprehensive Food Security & Vulnerability Analysis (CFSVA) Uganda*”  
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp202495.pdf>  
(2013/10/01 アクセス)
- WHO and Ministry of Health, Uganda (2006) “*Service Availability Mapping*”  
[http://www.unfpa.org/webdav/site/global/shared/documents/publications/2010/srh\\_guide/Docs/SAM/SAM\\_report\\_Uganda.pdf](http://www.unfpa.org/webdav/site/global/shared/documents/publications/2010/srh_guide/Docs/SAM/SAM_report_Uganda.pdf)  
(2013/12/05 アクセス)
- World Bank (2011) “*Uganda's Infrastructure: A Continental Perspective*”  
<http://infrastructureafrica.org/system/files/library/2012/02/CR%20Uganda.pdf>  
(2013/10/17 アクセス)

(ドナー作成)

- USAID (2013) “*Country Profile President's Malaria Initiative (PMI) : UGANDA*”  
[http://www.pmi.gov/countries/profiles/uganda\\_profile.pdf](http://www.pmi.gov/countries/profiles/uganda_profile.pdf) (2014/03/05 アクセス)
- USAID (2013) “*The President's Malaria Initiative Seventh Annual Report to Congress April 2013*”  
[http://www.pmi.gov/resources/reports/pmi\\_annual\\_report13.pdf](http://www.pmi.gov/resources/reports/pmi_annual_report13.pdf) (2014/03/05 アクセス)

(英文 Web 情報)

- Carbon Dioxide Information Analysis Center, US Government  
“*CO<sub>2</sub> Emissions from Uganda*”  
<http://cdiac.ornl.gov/ftp/trends/emissions/uga.dat>  
(2013/12/4 アクセス)
- Google Public Data Explorer (HDI : 人間開発指数)  
[http://www.google.com/publicdata/explore?ds=kthk374hkr6tr\\_&ctype=l&met\\_y=indicator\\_103106](http://www.google.com/publicdata/explore?ds=kthk374hkr6tr_&ctype=l&met_y=indicator_103106)  
(2013/12/23 アクセス)
- UNDP “*Human Development Report: Uganda*”  
<http://hdr.undp.org/en/countries/profiles/UGA>  
(2013/12/23 アクセス)
- UNHCR “*2013 UNHCR country operations profile - Uganda*”  
<http://www.unhcr.org/pages/49e483c06.html>  
(2013/11/08 アクセス)
- UNdata  
<http://data.un.org/Data.aspx?q=uganda&d=MDG&f=seriesRowID%3A722%3BcountryID%3A800>  
(2013/10/25 アクセス)
- UN “*Millennium Development Goals Indicators*”  
<http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>  
(2013/10/29 アクセス)
- University of Maryland “*Global Forest Change*”  
<http://earthenginepartners.appspot.com/science-2013-global-forest> (2013/12/4 アクセス)

## 2. 主要な情報源リスト

- JICA 国別主要指標一覧  
<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html>

### ウガンダ国官庁

- ウガンダ政府  
<http://gov.ug/>
- ウガンダ統計局  
<http://www.ubos.org/>
- 北部平和構築 (PRSP) 公式サイト  
<http://www.prdp.org.ug/>

### 国際機関

- UNDP ウガンダ  
<http://www.ug.undp.org/uganda/en/home.html>
- 世界銀行 (WB) ウガンダ  
<http://www.worldbank.org/en/country/uganda>
- 国際移住機構 (IOM) ウガンダ  
<http://uganda.iom.int/>
- 国連食糧農業機関 (FAO) ウガンダ  
<http://www.fao.org/countryprofiles/index/en/?iso3=UGA>
- 国際連合人道問題調整事務所 ウガンダ  
<http://www.unocha.org/eastern-africa/about-us/about-ocha-eastern-africa/uganda>
- WB/AfDB “Africa Infrastructure Knowledge Portal”  
<http://infrastructureafrica.org/>

### 貧困データ

- 世界銀行  
<http://data.worldbank.org/country/uganda>
- 国連 MDGs データ  
<http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>
- UNDP 人間開発指標  
<http://hdr.undp.org/en/countries/profiles/UGA>